

3-3379

21-196

之

No. 1142

中華書局

佛氏濩異同條辨

十五年六月印行

司法部藏版



司法部

英佛民法異同條辨

目次

凡テ法律ノ布告、功效及ヒ遵用

○第一卷

○第一篇 民權ヲ有スル事及ヒ民權ヲ失フ事

○第一章 民權ヲ有スル事

○第二章 民權ヲ失フ事

○第一款 本來ノ英國人タルノ分限ヲ失フニ因

リ民權ヲ失フ事

○第二款 裁判所ニ於テ刑ヲ言渡シタルニ因

民權ヲ奪フ事

○第二篇 民生證書

丁數

一

三

三

九

一〇

一〇

一三

一八

二

- 第一章 總規則 一八
- 第二章 出產證書 二一
- 第三章 婚姻證書 二四
- 第四章 死去ノ證書 三一
- 第五章 兵士ノ身上證書 三四
- 第六章 民生證書ヲ改ムル事 三七
- 第三篇 住所 三八
- 第四篇 失踪 四〇
- 第五篇 婚姻 四三
- 第一章 婚姻ヲ結フニ必要ナル諸件 四三
- 第二章 婚姻ヲ行フニ付テノ法式 四八
- 第三章 婚姻ニ故障ヲ述フル事 五〇

三

- 第四章 婚姻取消シノ訴訟 五二
- 第五章 婚姻ヨリ生スル責務 六〇
- 第六章 夫婦雙方ノ權理及ヒ責務 六二
- 第七章 解婚 六七
- 第八章 再婚 六八
- 第六篇 離婚 六八
- 第一章 離婚ノ原由 六九
- 第二章 定マリシ原由アル離婚 七〇
- 第一款 離婚ノ訴訟 七一
- 第二款 離婚ノ訴訟中夫婦ノ權理 七三
- 第三款 離婚ヲ訴フル權理ノ終ル事 七四
- 第三章 夫婦和諾ノ離婚 七五

四

- 第四章 離婚ノ功効 七六
- 第七篇 父母タル事及ヒ子タル事 七八
- 第一章 婚姻ニ生レタル子 七八
- 第二章 子タルノ證及ヒ適法子タルノ證 八一
- 第三章 不適法ノ子ノ事 八三
- 第一款 不適法ノ子ヲ適法ノ子ト爲ス事 八三
- 第二款 不適法ノ子ヲ我子ナリト認ムル事 八四
- 第八篇 養子ノ事 八四
- 第九篇 父タルノ權理 八六
- 第十篇 幼年タル事、後見人ノ事及ヒ後見免脱 八九
- 第一章 幼年タル事 八九
- 第二章 後見ノ事 八九

五

- 第一款 父及ヒ母ノ後見ヲ爲ス事 八九
- 第二款 後見人ヲ任スルノ權 九二
- 第三款 尊屬親又ハ此他親族ノ後見ヲ爲ス事 九三
- 第四款 裁判所ヨリ任命シタル後見ノ事 九四
- 第五款 後見人ト幼者ノ間ニ於ケル訴訟 九六
- 第六款 後見職ヲ辭退スル事 九七
- 第七款 後見ノ職ニ任スルニ不合格ナル事及ヒ後見ノ職ヲ罷ムル事 九八
- 第八款 後見人ノ權限及ヒ職務 九九
- 第九款 後見人ノ算計 一〇八
- 第三章 後見免脱 一一〇
- 第十一篇 丁年者、瘋漢、浪費者 一一一

六

○第一章 丁年ノ事

一一一

○第二章 瘋漢

一一一

○第三章 浪費者

一一五

○第二卷 財産

一一六

○第一篇 財産所有權ノ區別

一一六

○第一章 物權ニ關スル財産

一一七

○第二章 人權ニ關スル財産

一二四

○第三章 公有、共有及ヒ私有ノ財産

一二六

○第二篇 所有權

一二七

○第一章 財産ヨリ生スル利益ニ付テノ權理

一三一

○第二章 附加物ノ權

一三二

○第一款 不動産ニ關スル附加物ノ權

一三二

○第二款 動産ニ關スル附加物ノ權

一三五

○第三篇 畢世間ノ財産使用ノ權及ヒ住居ノ權

一三七

○第一章 畢世間ノ財産

一三七

○第一款 畢世間ノ收獲者ノ權利

一三九

○第二款 收獲者ノ責務

一四四

○第三款 入額所得權ノ終ル事

一四八

○第二章 使用ノ權及ヒ住居ノ權

一五〇

○第四篇 土地ノ義務ヲ得可キ權理及ヒ此類ノ權理

一五〇

○第一章 土地ノ義務ヲ得可キ權理ノ種類

一五二

○第一款 水利ノ權

一五二

○第二款 繞圍

一五四

○第三款 兩屬ノ牆壁及ヒ溝渠

一五五

七

○第四款、二個ノ家屋ノ中間ニ造營ヲ爲シ得可
キ距離 一五九

○第五款 望下ノ事及ヒ窓扉ヲ穿ツ事 一六〇

○第六款 承霑 一六二

○第七款 通行ノ權 一六二

○第八款 土地ノ義務ヲ得可キ權理ニ類同スル
權理 一六三

○第二章 土地ノ義務ヲ得可キ權理及ヒ此他類同
ノ權理ヲ定ムル方法 一六四

○第三章 土地ノ義務ヲ得ルノ方法 一六六

○第四章 土地ノ義務ノ終ル方法 一六七

○第三卷 財産所有ノ權ヲ得ル各種ノ方法 一六八

○總則

○第一篇 財産相續ノ事 一六八

○第一章 遺物相續ノ開始及ヒ相續人ノ當然ノ事 一七〇

○第二章 相續スル爲メニ必要トスル事件 一七二

○第三章 相續ノ順序 一七三

○第一款 總規則 一七三

○第二款 代テ遺物ヲ相續スル事 一七六

○第三款 卑屬親等ノ事 一七七

○第四款 尊屬親ノ事 一七九

○第五款 旁系親ノ事 一八〇

○第四章 私生ノ子及ヒ死者ノ配耦者ノ事并ニ相
續人無キ場合ノ事 一八一

〇第一款 私生ノ子ノ事 一八二

〇第二款 死者ノ配耦者ノ事及ヒ相續人無キ場
合ノ事 一八三

〇第五章 不動産ノ遺物ヲ交付スル爲メノ規則肯
ニスル爲メノ規則及ヒ拋棄スル爲メノ
規則 一八四

〇第一款 引渡ス爲メノ規則 一八四

〇第二款 遺物ノ支配ヲ拋棄スル事 一八八

〇第三款 支配ノ任ヲ債主等ニ託スル事 一九〇

〇第六章 分派ノ事 一九〇

〇第一款 分派ニ係ル訴訟ノ事 一九〇

〇第二款 返還ノ事 一九九

〇第三款 負債ヲ償却スル事 一九九

〇第四款 分派ノ効用及ヒ其保證ノ事 二〇四

〇第五款 分派ヲ消ス事及ヒ遺物財産ノ剩餘有
テ相續人更ニ其部分ヲ得ルカ爲メ支
配人ニ對シテ訴訟スル事 二〇四

〇第二篇 生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ノ事 二〇五

〇第一章 總規則 二〇六

〇第二章 贈遺又ハ相續ノ名義ヲ以テ財産ヲ與フ
ル爲メノ適當及ヒ之ヲ受クル爲メノ適
當ノ事 二〇七

〇第三章 生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺トシテ人
ニ移シ與フルヲ得可キ部分ノ事 二一一

- 第四章 生存中ノ贈遺ノ事 二一一
- 第一款 贈遺ノ定式及ヒ物件ノ事 二一一
- 第二款 出格ノ譯ヲ以テ贈遺ヲ取消ス事 二一六
- 第五章 遺囑ノ贈遺ノ事 二一七
- 第一款 遺囑ノ贈遺ノ體裁ニ係ル總規則ノ事 二一七
- 第二款 一種ノ遺囑ニ係ル特別ノ規則ノ事 二二〇
- 第三款 遺囑贈遺ノ種類ノ事 二二一
- 第四款 指定メサル剩餘ノ贈遺ノ事 二二二
- 第五款 指定メサル金高ノ贈遺ノ事及ヒ指定メタル財産ノ贈遺ノ事 二二四
- 第六款 遺囑ノ取行人ノ事 二二七
- 第七款 遺物相續ヲ肯ンセサル事 二三一

- 第六章 傳移ノ約束ニ係ル諸規則 二二三
- 第七章 尊屬親自カラ分派スル事 二三七
- 第八章 婚姻ノ契約ニ由テ贈遺スル事及ヒ此贈遺ニ係ル傳移ノ約束ノ事 二三七
- 第九章 夫婦間ノ贈遺ノ事 二三九
- 第三篇 契約及ヒ契約義務 二四一
- 第一章 前加規則 二四一
- 第二章 契約ヲ法ニ適シタル者ト爲スニ必要ナル條件 二四一
- 第一款 義務ヲ行フ可キ者ノ承諾 二四一
- 第二款 契約ヲ爲シ得可キ者ノ能力 二四四
- 第三卷 契約ノ目的タル事物 二四六

- 第四款 契約ノ原由 二四六
- 第三章 契約義務ノ功効 二四七
- 第一款 總則 二四七
- 第二款 物ヲ與フ可キノ義務 二四七
- 第三款 事ヲ爲ス可キノ義務及ヒ事ヲ爲ス可カラサルノ義務 二四八
- 第四款 義務ヲ行ハサルヨリ生スル損失ノ償 二四九
- 第五款 契約書ヲ解釋スル事 二五〇
- 第六款 外人ニ對スル其契約ノ功効 二五一
- 第四章 契約義務ノ種類 二五一
- 第一款 未必ノ條件ニ關スル契約義務、執行ノ期限アル契約義務及ヒ二箇中ノ一ヲ

- 擇ヒ行フヲ得可キ契約義務 二五一
- 第二款 連帶ノ義務 二五一
- 第三款 分離シ得可キ義務及ヒ分離シ得可カラサル義務 二五二
- 第四款 過代ノ契約アル義務 二五四
- 第五章 義務ノ消散スル事 二五四
- 第一款 義務ヲ盡ス事 二五五
- 第一節 總テ義務ヲ盡ス事 二五五
- 第二節 代權ノ事 二五七
- 第三節 辨濟ノ當行 二五八
- 第四節 義務ノ提供 二五九
- 第五節 財産ヲ擲棄スル事 二六一

- 第二款 義務ヲ更改スル事 二六二
- 第三款 義務ヲ得可キ者ノ意ヲ以テ其義務ヲ
釋放スル事 二六五
- 第四款 義務ノ相殺 二六五
- 第五款 權利、義務トヲ兼有スル事 二六七
- 第六款 引渡ス可キ物件ノ滅盡 二六八
- 第七款 契約ヲ取消ス事 二六九
- 第六章 義務ノ證及ヒ義務ヲ盡シタルノ證 二六九
- 第一款 書面ノ證 二七〇
- 第一節 公正ノ證書 二七〇
- 第二節 有印ノ證書 二七一
- 第三節 符木 二七五

- 第四節 證書ノ副本 二七五
- 第五節 義務ヲ承認スルノ書及ヒ確的ニ爲
スノ書 二七六
- 第二款 證人 二七六
- 第三款 推測 二七七
- 第一節 法律上ニ定メタル推測 二七七
- 第二節 法律上ニ定メサル推測 二七七
- 第四款 一方ノ者ノ自認 二七八
- 第五款 誓言 二七九
- 第四篇 契約ナクシテ生スル義務 二七九
- 第一章 準契約 二八〇
- 第二章 準犯罪 二八二

- 第五篇 婚姻ノ契約書及ヒ夫婦相互ノ權理 二八三
- 第一章 總規則 二八四
- 第二章 夫婦財產共通法 二八六
- 第三章 夫婦ノ間ニ於テ約定シ得可キ特別ノ婚姻契約書 二九五
- 第六篇 賣買 三〇二
- 第一章 賣買ノ本義及ヒ法式 三〇三
- 第二章 賣買ヲ爲シ得キ者 三〇四
- 第三章 賣買シ得可キ物件 三〇五
- 第四章 賣主ノ義務 三〇六
- 第一款 總則 三〇六
- 第二款 物件引渡ノ事 三〇七

- 第三款 物件ノ擔保 三〇九
- 第一節 物件所有者タル名義ノ擔保 三〇九
- 第二節 賣拂ヒ物件不良ナラサルコノ擔保 三一〇
- 第五章 買主ノ義務 三一〇
- 第六章 賣買ヲ取消ス事 三一五
- 第一款 買戻ノ權 三一五
- 第二款 代價ノ低下ナルヲ以テ賣買ヲ取消ス事 三一五
- 第七章 糶賣ノ事 三一六
- 第八章 權理ヲ讓渡ス事 三一七
- 第七篇 交換ノ事 三二〇
- 第八篇 質貸ノ契約 三二一

- 〇第一章 總則 三二二
- 〇第二章 物品ノ賃貸 三二二
- 〇第一款 不動産ニ於ケル賃貸ノ通則 三二三
- 〇第二款 家屋ノ賃貸 三三一
- 〇第三款 土地ノ賃貸 三三五
- 〇第四款 動産ノ賃貸 三三七
- 〇第三章 人力ノ賃貸 三三八
- 〇第一款 奴婢及ヒ工丁ヲ雇フ事 三三八
- 〇第二款 運送人ヲ雇フ事 三四〇
- 〇第三款 請負ノ契約 三四一
- 〇第四章 獸類ノ賃貸 三四四
- 〇第九篇 會社ノ契約 三四六

- 〇第一章 總規則 三四六
- 〇第二章 會社ノ種類 三四六
- 〇第三章 社員ノ責務 三四八
- 〇第一款 社員相互ノ責務 三四八
- 〇第二款 會社ニ對スル社員ノ義務 三五三
- 〇第四章 會社ノ終ル可キ種々ノ方法 三五五
- 〇第十篇 貸借 三五七
- 〇第一章 使用シテ耗盡セサル物件ノ貸借 三五七
- 〇第一款 耗盡セサル物件ノ貸借ノ本義 三五七
- 〇第二款 借主ノ義務 三五八
- 〇第三款 貸主ノ義務 三六〇
- 〇第二章 耗盡スル物件ノ貸借 三六〇

- 第三章 利息ノ生ス可キ物件ノ貸借 三六〇
- 第十一篇 附託 三六一
- 第一章 附託ノ總則 三六一
- 第二章 通常ノ附託 三六二
- 第三章 爭論アル物件ヲ人ニ附託スル事 三七〇
- 第十二篇 偶生ノ契約 三七一
- 第一章 遊戯及ヒ賭博 三七一
- 第二章 畢世間ノ年金ノ契約 三七三
- 第一款 畢世間ノ年金ノ契約ヲ適法ノ者ト爲
スニ必要ナル條件 三七三
- 第二款 年金契約者雙方ノ間ニ於ケル其契約
ノ功效 三七五

- 第十三篇 名代ノ證書 三七六
- 第一章 名代ノ證書ノ本義及ヒ法式 三七六
- 第二章 名代人ノ義務 三七七
- 第三章 本人ノ義務 三八〇
- 第四章 名代契約ノ終ル可キ種々ノ方法 三八〇
- 第十四篇 保證 三八二
- 第一章 保證ノ本義及ヒ其定限 三八二
- 第二章 保證ノ効 三八三
- 第一款 債主ト保證人トノ間ニ於ケル保證ノ
効 三八三
- 第二款 負債主ト保證人トノ間ニ於ケル權理
義務 三八四

- 第三款 保證人數名ノ間ニ於ケル保證ノ効 三八四
- 第三章 保證ノ義務消滅スル事 三八五
- 第十五篇 和解 三八五
- 第十六篇 民法上ノ禁錮 三八九
- 第十七篇 質物ノ事 三九一
- 第十八篇 債主ノ特權及ヒ書入或ニモール、ガアジ
ユノ權 三九五
- 第一章 總規則 三九五
- 第二章 債主ノ特權 三九六
- 第一款 動産ニ付テノ債主ノ特權 三九六
- 第一節 總テノ動産ニ付テノ債主ノ特權 三九六
- 第二節 別段定マリシ動産ニ付テノ債主ノ 四〇一

特權

- 第二款 不動産ニ付テノ債主ノ特權 四〇三
- 第三款 書入質ノ權 四〇八
- 第一款 契約者雙方ノ間ニ於ケル書入質ノ功
効 四〇八
- 第二款 書入質ノ權ノ順序 四一四
- 第三款 第三ノ人ニ對スル書入質ノ効 四一六
- 第四款 書入質ノ權ノ終ル事 四一八
- 第十九篇 義務者ノ不動産ヲ抵償トシテ奪フ事 四二三
- 第二十篇 期滿免除ノ權 四二五
- 第一章 總規則 四二五
- 第二章 物件保有ノ權 四二六

- 第三章 期滿得免ノ權ヲ得ルコト能ハサル理由 四二七
- 第四章 期滿免除ノ期限ヲ停止スル理由及ヒ其
期限ノ經過スルヲ中斷スル理由 四二八
- 第一款 期滿免除ノ期限ヲ停止スル理由 四二八
- 第二款 期滿免除ノ期限ヲ中斷スル理由 四二九
- 第五章 期滿免除ノ權ヲ得ルニ必要ナル期限 四三〇
- 第一款 總規則 四三〇
- 第二款 各種ノ期滿免除ノ權 四三一

目次畢

英佛民法異同條辨

佛蘭西

アントワープ、ド、サンデゾゼフ

著



此篇ニ記述セル英國律法ハ專ラ英倫、阿爾蘭ニ行ノ又藩屬地ニシテ其
 占領ノ時無人タルカ又ハ蠻族居棲シ未タ制法ナキノ地ニ施行ス
 ル者ナリ蘇格蘭、獨逸、揭兒、擲、絕爾、西諸島其他讓地又ハ征服ニ係ル藩屬
 地ニ此律法外ニ在ル者トス

蘇格蘭ハ昔時獨立ノ時英倫ト律法ヲ異ニス今尙ホ然リ不動産所有權

ニ關スル法律ハ封建時代ノ制度ニ良改ヲ加ヘシ者タリ又動産及ヒ人

事ノ法律ハ羅馬法ト略相似タリ

彌恩嶋ニハ斯干什撓スキャンデナヴィアノ古法ニ從ヒ又絕爾西、揭兒、擲、嶋ニハ塔耳

一、曼佛蘭西ノ慣習法ヲ奉ス

二

讓地又ハ征服ニ係ル藩屬地ニテハ内閣具申ノ王令又ハ王國議事院ノ議決ヲ以テ其地固有ノ律法ヲ變更セサルノ外皆ナ舊法ヲ遵守ス故ニ
 卬領亞細亞 英領亞細亞 阿那利亞細亞 及ヒ錫蘭印度 錫蘭印度 羅馬法和蘭 舊法ニ變更セシ者アリ 托兒尼亞細亞 錫蘭印度 西班牙法亞細亞 聖屢西亞細亞 下加
 拿他北亞細亞 巴理亞細亞 ノ舊慣習法アリ 莫利西亞細亞 那翁列倫法
 典ノ制アリ 東部印度土人ハ印度法或ハ回々法ヲ奉シ 英國法律ハ英人
 ノ移シ設ル所タリ 印度人中若クハ回教人中ニテ爭訟ヲ起スコアリ
 テ 印度法ニ豫定セサル場合ニハ英國法ヲ適用ス
 上加拿他新不倫瑞克 新著大嶋北亞細亞 及ヒ奧地多利亞北亞細亞 ノ植民ハ原ト
 英國人民ノ移住セシ者ナルカ故ニ英國律法ニ服従ス 西部印度ニ於テ
 ハ千七百六十三年英國王ノ布令ヲ以テ英國法律ヲ施行ス
 各藩屬地ノ律法ニハ地方律并ニ國王ノ布令又ハ議事院ノ議決ヲ以テ

改正ヲ加ヘシ者頗ル多シ 此改正布令ハ假令ヒ植民ノ後ニ之ヲ發スト
 雖モ該布令ニ明記セル藩屬地ニ非サレハ之ヲ施行セズ
 本篇ノ英國民法ハ千八百二十九年倫敦ニ於テ印行セル倫敦代言人トマス・ラクス 吐氏著述英國法典ニ據リテ 巴理控訴院トマス・ラクス 代理人トマス・ラクス 編
 集セシ者ナリ 原書英國法典ハ那翁列倫法典第千三百六十九條ニ終ル
 ヲ以テ該條ヨリ以下佛蘭西民法ニ對比ス可キ法例ハ 哺拉克氏トマス・ラクス ノ雜記
 中ヨリ之ヲ蒐集セリ 其他阿謨約氏トマス・ラクス ハ華義都智トマス・ラクス 及ヒ托謨林トマス・ラクス ノ著
 述ヲモ引用セリ 其編纂ノ法タルヤ 英律ノ錯雜ト不用ノ文章ヲ省キ 我
 民法ニ對比シタルヲ以テ 此書成リテヨリ始テ秩然タル英國民法ヲ見
 ルコトヲ得タリ

三

今法律ノ蘊奧ヲ極メ英國律法ヲ要略シ其元則ヲ掲ケ 佛蘭西法律ニ慣
 レタル者ナシテ解シ易カラシムル者世幾人カアル老練者 哺拉克斯蘭

四

吐氏一人アルノミ故ニ氏ハ啊謨約氏ノ著述ヲ印行ニ付スルニ當リ之ヲ校訂シ世人ヲシテ其書ヲ律法書ノ一ト認可セシメタリ

木下哲三郎譯

英佛民法異同條辨

佛蘭西

アントワニス、ド、サンヂョゼフ

著

馬屋原二郎譯

凡テ法律ノ布告功效及ヒ遵用

(第一條)

英國ニ在テハ普通法ト制定法トヲ殊別セリ普通法ハ古昔ノ

慣例ヨリ結成ス王國一般ノ慣習法ナル者即チ是ニシテ某郡縣又ハ某位階ニ於ケル別個ノ慣例トハ異ナル者ナリ英國法律ニ於テハ慣

可カラサル者ヲ以テ効力アリト爲スナ其規格トス之ヲ再言スレハ法律ニ因リ該法ノ起源ヲ推知シ得可キ年代ニ在ル者ヲ云フ即チリシヤル第一世即位元年(千八百十九年)ヲ以テ之ヲ別成セリ

通常一般ノ慣習法ハ各縣ニ於テ衆庶ノ代人タル陪審司ノ確認セシ

所ノ者ナリ

一

又「チャンゼレリ」法乃チ衡平法ト區別セリ元來該法ノ原則ハ自然ノ條

二

理ヨリ生シ又従前ノ審判例ニ根基スル者アレモ皆其淵源ヲ慣例ヨリ來タス者ニ非ス而シテ其適施タルヤ已ニ普通法ニ於テハ許ス能ハサル所ノ控訴ヲ開理シ常ニ此普通法ト殊異スル所ノ裁判權ヲ有スル者ニ於テ成ル者ナリ

制定法乃チ議院法トハ議院獨リ普通法ヲ修正シ或ハ既行ノ法律ヲ變更スル爲メ制設スル所ノ法律ヲ云フ

〔第二條〕 議院法ハ國王ノ制可ヲ得タル日ヨリ國內ノ地ハ遠近ヲ論セス一般ニ施行ス可キ者トス而シテ此法律ノ布告ヲ爲スヲ要セサルハ總テ英國人ハ其代議士ノ組織ニ因リ共ニ其法律ヲ議定セシ者ト看做スカ故ナリ然レモ全國ニ關スル制定法ニ就テハ五千五百部又某地方或ハ某身位ニ關スル制定法ニ就テハ三百部ヲ王家ノ印刷局ニ於テ印行シ之ヲ頒布スル者トセリ 佛國民法第一條參照

〔第三條〕 佛國民法第二條及ヒ第三條ト同シ

〔第四條〕 難事アリテ之ニ適用シ得可キ制定法ナキニ於テハ常ニ普通法ノ類似スル者ヲ以テ之ヲ解説スルニ足レリトス 佛國民法第四條ト異ナリ

〔第五條〕 佛國民法第五條及ヒ第六條ト同シ

○第一卷

○第一篇 民權ヲ有スル事及ヒ民權ヲ失フ事

○第一章 民權ヲ有スル事

〔第六條〕 佛國民法第七條及ヒ第八條ト同シ

〔第七條〕 英國王ノ保護及ヒ管轄ヲ受クル外國人ノ英國ニ在テ舉ケタル子ハ皆之ヲ本來ノ英國人ト看做シ而シテ之ニ 本來ノ英國人ヲ指ス 附從セ

ル諸般ノ特權ヲ享受スルヲ得可シ 佛國民法第九條參照

三

〔第八條〕 英國人タル父又ハ祖父ノ外國ニ於テ舉ケタル子孫ハ皆之ヲ

四

本來ノ英國人ト看做ス可シ但此父或ハ祖父反逆又ハ流放ノ刑ノ言
 渡ヲ受ケタル時或ハ敵國ニ奉仕セシ時ハ此限ニ在ラス
 祖父ヨリ遠キ親等ニ於テ英國人タリシ祖先ヲ有スル者ハ國屬人ク
 ル分限ヲ保續セサル者ト爲ス可シ又英國人タリシ者ノ孫ト雖モ英國
 人タルノ分限ヲ得可キ權理ノ開始セシヨリ五箇年内英國ニ復歸シ英
 國王ニ忠誠ノ誓約ヲ爲シ及ヒ制定法ニ從ヒ此他ノ定則ヲ循行スル
 ニ非サレハ此分限ヲ享ルコトヲ得ス凡ソ婦ハ其夫ト同一ナル法律ヲ
 遵奉スル者ト看做シ英國ノ女ノ外國ニ於テ舉ケタル子ハ之ヲ英國
 人ト看做サ、ルモ此子若シ英國ニ於テ生レタル時之ヲ英國人ト看做
 ス可シトス然レモ近時ノ制定法ニ依レハ英國ノ婦ノ外國ニ於テ舉
 ケタル子ハ假令ヒ外國人ニ嫁シタル者ノ子ト雖モ遺物相續ニ由リ
 得タル所ノ動産又ハ不動産ヲ訟求スルヲ得可シトス

補國民法第十條ト異ナリ

〔第九條〕 凡ソ外國人ノ間ニ於テハ友朋ト讎敵ノ外他ニ一切ノ差別ア

ルコトナシ讎敵トハ英國ト戰テ交ユル所ノ外國人民ヲ云フ

通例英國王ハ外國ト戰テ開ク時ニ方リテハ敵國ノ人民ナリト雖モ
 其行爲靜愷ナレハ英國内ニ止住スルコトヲ允許ス此場合ニ於テハ其
 者ヲ以テ友朋ト看做ス可シ

友朋タル外國人ハ英國王ノ保護ヲ受ケ動産ニ關スル所有權ヲ得及
 ヒ二十一年箇年ヨリ超過ス可カラサル期限ニ於テ住居ノ爲メ家屋ヲ
 借入ルコトヲ得可シ又此外國人ハ不動産ヲモ買フコトヲ得ルト雖モ王
 家若シ此不動産ヲ要求スル時ハ之ヲ保持スルコトヲ得ス然レモ何人
 タルヲ問ハス他人ノ財産所有權ヲ妨害スルコト能ハサルノ理ニ因テ
 此外國人ハ其外國人タルノ調査ヲ受クル迄ハ猶ホ本來ノ英國人ト
 等ク其不動産ヲ所有スルヲ得可シトス而シテ其外國人ノ子ハ之ヲ

五

六

相續スルコトヲ得スシテ王家ハ其者死亡シタル後ハ同上ノ調査ヲナ
サスシテ之ヲ沒收スルコトヲ得○友朋タル外國人ハ裁判所へ訴訟ヲ
爲シ又之ヲ受クルコトヲ得又遺囑書ヲ以テ動産ヲ隨意ニ處置スルコ
トヲ得可シ○其者ハ數個ノ償還ヲ爲ス可キ場合アルヲ除クノ外商事
ヲ行フノ能力アリトス

エデウアール第四世ノ命令書ニ據レハ外國人ノ重罪ヲ犯シタル者
アル時ハ本國人ト外國人トノ半數ニ於テ糾合セル該審司ニ因リ審
理セラル可シトス但シ埃及人ノ重罪ヲ犯シタル時カ又ハ他ノ外國
人ト雖モ反逆ノ罪ヲ犯シタル時ハ格別ナリ佛國民法第十條ト異ナリ

〔第十條〕 往時ニ在テハ英國人ニ嫁シタル外國ノ女モ英國王ノ允許ヲ
經其婚姻ヲ結ヒタル時ハ遺婦産ヲ受クルコトヲ得又其生ミタル子ハ
英國人トスレモ此女ハ尙ホ外國人ト爲シタリキ然モ近時ノ制定法

ニ據テ英國人ニ嫁シタル外國ノ女ハ即チ英國人ナリトス佛國民法第十條及ヒ第十九條ト合ス

〔第十一條〕 普通法ニ據ルニ凡ソ平時ニ當テハ外國人英國王ノ允許ヲ
クシテ英國ニ來住スルヲ得テ別個ノ允許ヲ受クルコト及ハサル諸般
ノ民權ヲ享クルコトヲ得可シトス

凡ソ外國人ハ歸化又ハ「デニザシヨン」一種ノ入籍許可ヲ受クルニ由
法ヲ云フナリリ本來ノ英國人タルノ分限ト頗ル比視セラレハチ得可シ

歸化セントスル者ハ家主四名ノ證認ヲ經タル諸願書ヲ政府ノ書記
官ニ呈シ以テ歸化ノ免許ヲ稟請ス可シ而シテ其請願書ハ歸化セン
トスル忠誠ノ誓約ヲ爲シタル後衡平裁判所ニ於テ簿記ス可キ者ヲ
リ又特別ノ場合ニ於テハ議院證書ニ因リ歸化ノ免許ヲ受クルコトヲ
得可シ佛國民法第十條ト異ナリ

七

八

一種制限ノ歸化法アリ即チ外國人英國人ノ軍艦ニ於テ久シク公務ヲ行ヒ又ハ殖民地ニ居住シ又ハ英國ノ爲メ奉行スル職務ト同視ス可キ勤務ヲ帶フルニ因リ歸化ノ免許ヲ受クル者はナリ

「デニザシヨン」ハ國王ノ免許狀ニ由リ之ヲ得可シ是レ外國人ニ其外國人タル分限ヲ失ハシメヌシテ土地英國内ヲ購求スルノ權理ヲ與フル者ナリ而シテ「デニザシヨン」ヲ得タル以後ニ舉ケタル此外國人ノ子「デニザシヨン」ヲ得タル以前ニハ其土地ヲ相續スルヲ得可カラヌ又此等外國人ハ官吏若クハ議員タルヲ得ヌ又ハ英國王ノ顧問タルヲ得ヌ

外國人ハ英國ト外國トヲ論セス其外國人トノ間ニ取結ヒタル責務ヲ履行セシムル爲メ被告者タル外國人ノ英國内ニ止住スルニ於テハ互ニ英國裁判所ニ訴訟ヲ爲スヲ得可シ英國民法第十八條ヲ見ルヘシ

此外國人ハ英國法律ニ於テ權理者ノ爲メ設ケタル方法ニ因リ義務者ヲシテ其契約ヲ履行セシムルヲ得可シ此方法ハ其國外國ニ於テ許行スル所ノ外ニ出ルモ亦然リ英國民法第十條ト合ス

〔第十二條〕 佛國民法第十五條ト同シ

〔第十三條〕 凡ソ外國ニ居住スル原告人ハ英國人タルモ其訟ヲ爲ントスル所ノ裁判廳ニ被告人ノ辨償ス可キ裁判費用ニ付キ豫メ保證ヲ立ツ可シ但シ其者原告人暫時ノ滯住ナル時或ハ國王ノ勤務ヲ帶ヒタル時又ハ公使若クハ裁判官タル時ハ格別トス然レモ東印土商社ノ官吏ハ此保證ヲ立ツルヲ免ル可カラス

英國内ニ於テ不動産或ハ價額アル物品ヲ所有スル事ヲ以テ上文謂フ所ノ保證ヲ立ツルヲ免ル可カラス英國民法第十六條參照

九

○第二章 民權ヲ失フ事

〇第一款 本來ノ英國人タルノ分限ヲ失フニ因リ民權ヲ失
フ事

〔第十四條〕 英國ニ生レタル英國人ノ權理ハ頗ル貴重ニシテ議院證書
ニ因ルニ非サルヨリハ他一切ノ形狀ニ因リ之ヲ奪フヲ得ス又國
王ノ獨意ニ成リタル證書ニ因リ之ヲ奪フヲ得ス自己ノ跋望ニ因リ
王家ノ允許ナク之ヲ棄ルヲ得ス佛國民法第十
七條ト異ナリ
然レモ假令ヒ自己ノ跋望ヲ以テ英國人タル分限ヨリ生スル義務ヲ
辭避スルコトヲ得サルモ己レノ行爲ニ因リ其分限ニ附從セル權理ノ
一部ヲ棄ルコトヲ得可シ

〔第十五條〕 顯理第八世ノ命令書ニ據レハ凡ソ英國人ノ外國王或ハ外
國政府ノ臣民ト爲ル可キ誓約ヲ爲シタル者ハ其國英外ニ滯在スル
時間外國人ト同一ナル分限ニ於テ之ヲ支配ス可シトス佛國民法第
十七條ト異

リナ

〔第十六條〕 シヤック第一世ノ命令書ニ於テハ何人タルヲ問ハス豫メ英
國王ニ忠誠ノ誓約ヲ爲サスシテ外國王又ハ外國政府ニ奉仕ス可キ
爲メ國英外ニ出ツル事ヲ重罪トス佛國民法第
七條ト異ナリ

〔第十七條〕 英國王ノ允許ヲ經スシテ外國政府ヨリ給料ヲ受クル事ハ
重罪タリ佛國民法第十
七條ト合ス

〔第十八條〕 英國人ハ英國王ノ允許ナク外敵ト通商ス可カラズ若シ英
國人己レカ財產ヲ外敵ノ者ト虛構シタル時ハ之ヲ外敵ノ財產ト做
シ差押フ可シトス凡ソ戰時ニ於テ外敵ト取結ヒタル契約ノ者ハ互相
フハ英國人ノ訴求ニ係ルモ之カ責務ナカル可シ佛國民法第
十七條參照

〔第十九條〕 然レモ英國人ハ局外中立國ノ國士ト爲リテ此國ニ於ケル
臣民ノ權理ト英國臣民ノ權理トヲ同時ニ享有スルヲ得可シ但英國

ニ歸化セシ者尙ホ外國ニ滞在シテ英國ニ復歸セス又ハ爰ニ住居ヲ定メサルニ於テハ英國人ノ專有スル商賣上ノ特權ヲ享クルコトヲ得ス又英國人ノ外國戶籍ニ入リシ者ト雖モ英國ニ於テ之ヲ捕縛スルヲ得可シ又王家ノ勅命ニ因リ外國ヨリ之ヲ召回スルヲ得可クシテ其者ノ財産ハ歸國ニ至ル迄之ヲ預置セシム可シ

〔第二十條〕 英國臣民ハ本國ニ復歸スル後ハ其外國ニ於ケル滞在又ハ行爲ニ因リ失フタル諸般權理ヲ復有ス可シ又本國ニ歸來セン爲メ旅中ナルモ同一ナリ佛國民法第十

〔第二十一條〕 外國人ニ嫁シタル英國ノ女ハ尙ホ英國人ノ有スル權理ヲ失フコトナシ往時ニ在テハ此等ノ女ノ國英外ニ於テ舉ケタル子ハ英國ニ於テ遺物相續ヲ爲スコトヲ得サリシカ今代ニ至リ斯ノ子モ動産不動産ヲ論セス之ヲ相續スルヲ得可シトス佛國民法第十

〔第二十二條〕 セナロシユ第三世ノ命令書ニ據レハ凡ソ英國王ノ允許ナク外國ノ兵籍ニ入ル者又ハ其意ヲ以テ外國ニ在留スル者或ハ他ノ英國人ヲ其兵籍ニ入ラシムル者ハ罰金及ヒ禁獄ノ言渡ヲ受ケ而シテ此等者ノ渡航セシ時之ヲ資便スル船長モ亦罰金ノ言渡ヲ受ク可シトス佛國民法第二十

○第二款 裁判所ニ於テ刑ヲ言渡シタルニ因リ民權ヲ奪フ事

〔第二十三條〕 數個ノ重罪ノ爲メ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ諸般民權ヲ剝奪セラル、ニ至ル可シ此場合ニ於テハ其者ヲ以テ准死者トナス佛國民法第二十

〔第二十四條〕 佛國民法第二十三條ト同シ
〔第二十五條〕 准死ノ刑ニ入ル可キ重罪ハ法律ニ因リ之ヲ定示セリ又

數個ノ有期流刑ヨリ生スル所ノ准死刑アリ例スレハ重罪ヲ犯シタル爲メ七箇年ノ流刑ニ處セラル、ヨリ生スル准死刑ノ如キ是ナリ
佛國民法第二十四條ト合ス

〔第二十六條〕 反逆ノ罪ヲ犯シタル者ノ不動産ハ之ヲ王家ニ沒收シ謀殺ノ罪ヲ犯シタル者ノ不動産ハ之ヲ侯家ニ沒收シ又自殺放火誘拐竊盜此他類同ノ重罪ヲ犯シタル者ノ動産ハ之ヲ王家ニ沒收ス可シ反逆及ヒ重罪ノ刑名ニ於テ指示スル忌嫌ノ犯罪即チ謀殺ヲナシタル者ノ如キハ遺物相續ニ因リ財産ヲ讓受ケ又ハ之ヲ讓與フルヲ得ス然レモ他種ノ罪科ヲ犯シタル者ニ就テハ此ノ如クナラス
佛國民法第二十五條參照

此他佛國民法第二十五條ニ記スル款項ハ正ニ反逆及ヒ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ適用セリ又犯罪ノ性質ニ從ヒ其款項ノ全部若クハ一部ヲ他種ノ罪科ヲ犯シタル者ニ適用スルコトアリ
然レモ婚姻ヨリ生スル夫婦ノ合縁ハ天然ノ死亡ニ至ル迄繼續スル者ナリ
佛國民法第二百二十七條ト異ナリ

〔第二十七條〕 反逆ノ罪ヲ犯シタル者ノ民事上ノ功效ハ其犯時ニ溯リ之ヲ失フ可シ故ニ犯罪後ニ其取結ヒシ賣買又ハ書入質等ノ契約ハ効ナシトス然レモ重罪ヲ犯シタル者ノ動産ニ關シテハ犯人其罪ヲ吐露セシ時カ又ハ陪審司之ヲ告發シタル時ノ如ク全ク其罪ヲ確認シタル日ヨリ起算シ民事上ノ功效ヲ失フ可シ此ノ犯罪ノ外ハ刑名宣告後ニ方リ民事上ノ功效ヲ失フ可シ然レモ詐偽ニ係ル賣買ハ宣告以前ニ在ルモ之ヲ取消ス可シ
佛國民法第二十六條ト異ナリ

〔第二十八條〕 反逆又ハ重罪ヲ犯シタル抗傳者ニ法外除置ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其者ハ死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ト同ク民事上ノ功效ヲ

失フ可シ然レモ陪審廳ニ於ケル五回ノ集會時間ニ必ス其犯人ヲ呼
召スレモ之ニ應セサルノ後ニ非サレハ此言渡ヲ爲ス可カラス佛國
氏法
第二十七條及第三
二十八條ト異ナリ

〔第二十九條〕 法外除置ノ言渡ハ之ヲ受ケタル者ノ事實又ハ權理上ニ
錯誤アル時ハ之ヲ取消ス可シ而シテ此場合ニ於テハ一旦此言渡ヲ
受ケタルモ初ヨリ之ヲ受ケサル者ト等ク諸般ノ權理ヲ復有スルヲ
得可シ佛國民法第二十九條
及第三十條參照

〔第三十條〕 テウクト、ハンテロソ國王法院ニ於テ法外除置ノ言渡ヲ爲シ而シテ他人ノ財產
ヲ沒收シタル時ハ前條ノ場合ニ於ケルモ其財產ヲ還付スルヲナカ
ル可シ

如何ナル場合ニ於テモ反逆又ハ重罪ヲ犯シ遁逃スル者ハ假令ヒ主
刑ニ就キ放免ヲ得タル時ト雖モ尙ホ其財產ヲ沒收セラル可シ佛國
民法

第二十六條及
第三十條ト合ス

〔第三十一條〕 法外除置ノ言渡ヲ受ケタル者病死セントスルニ當リ稟
請ニ因テ其言渡ノ取消トナル時ハ遺囑書ヲ作り又ハ遺囑執行人ヲ
任スルヲ得可シ佛國民法第三十
條ト異ナリ

〔第三十二條〕 流刑ニ處セラレタル者其限内遺物相續ニ因テ得ル所ノ
財產ハ其言渡ヲ受ケタル時所有セシ財產ト等ク之ヲ王家ニ收ム可
シ佛國民法第三
十三條ト合ス

王家ハ犯罪人ニ赦典ヲ與フルノ權及ヒ自己ノ財產ヲ衆庶ニ惠恤ス
ルヲ得可キカ如ク曾テ沒收シタル財產ヲ其犯罪人ニ還付シ又ハ犯
罪人ノ寡婦遺子若シハ其親屬ノ爲メ此財產ノ數部ヲ還付スル權ア
リ然レモ管赦典ヲ與ヘタル迄ニテ特別ニ惠恤ヲ爲サ、レハ其財產
ヲ還付スルヲ無カル可シ佛國民法第三十三條
第三十二條及

○第二篇 民生證書

○第一章 總規則

〔第三十三條〕 近世ニ至ル迄ハ洗禮、婚姻及ヒ埋葬ノ禮典ヲ證認スル爲メ英國寺院僧官ノ管掌スル宗區簿冊有リ唯、之ヲ以テ人ノ出產、婚姻及ヒ死亡ヲ回想ス可キ公正ナル記錄トナセシカ今世ニ至リ制定法ニ由テ宗區ノ僧官及ヒ宗教規則ニ關セス此等ノ事出產、婚姻、死亡ヲ云フヲ記證ス可キ簿冊ヲ製作セリ

〔第三十四條〕 佛國民法第三十四條ト同シ但、英國民法ニ於テハ本條時限ノ指定ヲ須要ト爲サ、ルヲ異ニスルノミ

〔第三十五條〕 民生證書ヲ管守スル官吏己レカ職務ヲ以テ明證スルニ及ハサル列記ヲ此證書ニ記入スル時ハ凡人ノ之ヲ記入シタルニ等キ者トス佛國民法第三十七條參照

〔第三十六條〕 民生證書ノ證人ハ男女ヲ問ハス誠實ニシテ其證スル所何事ナルヤヲ辨別シ得可キ年齢ニ達セシ者タル可シ佛國民法第三十七條ト異ナリ

〔第三十七條〕 各證書ニハ其簿冊ヲ管守スル官吏及ヒ出席スル者ノ手署アルヲ必要ナリトス若シ出席スル者己レカ姓名ヲ記スルヲ能ハサル時ハ十字架又ハ他ノ記號ヲ畫シ而シテ證人ハ此出席スル者ノ斯ク手署セシ旨ヲ記證ス可シ

手署アラサル民生證書ハ之ヲ真正ノ者ト爲ス可カラズ佛國民法第三十九條ト合ス

〔第三十八條〕 民生證書ハ其簿冊總轄所ヨリ送附スル所ノ簿冊ニ記入ス可シ而シテ婚姻證書ノ簿冊ハ二冊ニ修整ス可シ佛國民法第四十條參照

〔第三十九條〕 民生簿冊ハ其各葉ニ番號ヲ附シ而シテ各證書ハ其印刷

罫紙ニ之ヲ分別ス可シ

〔第四十條〕 民生證書ハ其簿冊ニ追次相連接シテ之ヲ記入ス可シ佛國民法

第四十三條參照

〔第四十一條〕 出產、婚姻、死亡、證書簿冊ノ副本ハ三箇月毎ニ之ヲ民生簿冊管守者ニ呈付ス可シ而シテ該管守者ハ之ヲ其總轄所ニ送付スル者トス又出產、死亡、證書ノ簿冊及ヒ婚姻證書簿冊ノ結了セシ時モ同一ナリ

〔第四十二條〕 何人タルヲ問ハズ相當ノ時間民生簿冊ヲ展觀シ搜索ヲ爲スノ權及ヒ民生簿冊管守者ヨリ其證書ノ寫ヲ受取ルノ權アリ佛國民法第四十五條參照

〔第四十三條〕 訴訟ニ付キ出產、婚姻及ヒ死去ノ證書ニ記載ス可キ事ヲ定ムルニ於テハ此證書ヲ以テ緊要ノ者ト爲サズ只其事ヲ證スルニ充ツ可キ者トス而シテ此證書若シ亡失セシ時ハ其記載シアリシ事ニ付キ其旨ヲ定ムルヲ得可シ佛國民法第四十六條ト異ナリ

〔第四十四條〕 外國ニ於テ記シタル英國人ノ民生證書ハ之ニ其事ノ記載シアルノミヲ以テ真正ノ者ト做ス可カラズ英國領事ノ記シタル保證書モ亦然リ佛國民法第四十七條及第四十八條ト異ナリ

〔第四十五條〕 民生簿冊管守者ハ己レカ懈怠、過失又ハ其職務ニ付キ定メタル規則ヲ犯ス時ハ五十リールノ罰金ノ言渡ヲ受ク可シ又何人タルヲ問ハズ民生證書ヲ贗造シ或ハ民生簿冊又ハ民生證書ノ寫ノ一部若クハ全部ヲ削除シ或ハ之ヲ破損スル者ハ皆本人ニ損害ノ償ヲ拂ヒ及ヒ法律ニ定メタル刑ノ言渡ヲ受ク可シ佛國民法第五十四條ニ至ル參照

〇第二章 出產證書

〔第四十六條〕 民生證書ヲ管守スル官吏ハ其郡内ニ於ケル各人ノ出產ヲ周知ス可シ而シテ定規ニ從ヒ此證書ヲ民生簿冊ニ記入ス可シ英國内ニ生レタル子ノ父或ハ母又其父母ノ死去セシ時カ又ハ其父母ニ事故アル時ハ此子ノ出生セシ所ノ家屋ニ同住スル者ハ皆其子ノ出產ノ日ヨリ四十二日内ニ於テ其出產ニ關シ己レカ了知スル事實ヲ明細ニ申述ス可シ四十二日後ニ至レハ該官吏ハ一切ノ出產證書ヲ簿記ス可カラス但出產ノ日ヨリ六箇月内ニ於テ此出產ノ時ニ出會セシ者又ハ嬰兒ノ父若クハ其後見人民生簿冊管守者ノ面前ニ於テ公式ナル申述ヲナス時ハ格別ナリ又出產ノ日ヨリ四十二日後ニ記シタル證書ハ之ニ民生簿冊管守者ノ手署アリテ其六箇月内ニ記シタル者ニ非サレハ之ヲ以テ其出產ヲ證スルニ足ラストス佛國氏法

第五十五條及ヒ第五十六條ト異ナリ

〔第四十七條〕 出產證書ニハ郡及ヒ縣出產ノ月日時刻其子ノ名若シ名アリト其子ノ男女父ノ名氏位階職業母ノ名氏其出產ヲ申述タル者ノ供認住所自署及ヒ民生證書ノ官吏ノ之ヲ簿冊ニ記入シタル日付及ヒ其手署ヲ掲載ス可シ出產證書ヲ簿記セシ日ヨリ六箇月内其子ニ洗禮ニ就テノ名ヲ命シタル時ハ一「シルリング」ヲ拂ヒ洗禮證書ヲ民生證書ノ官吏ニ差出シ其名ヲ民生簿冊ニ記入スルヲ得可シ民生證書ノ官吏ハ此洗禮證書ニ其記入セシヲ保證シ而シテ民生簿冊ノ管守長官ニ此旨ヲ報告ス可シ佛國氏法第五十七條參照

〔第四十八條〕 棄兒ヲ見出シタル時ハ貧院取締役其郡ノ民生簿冊ヲ管守スル官吏ニ必要ナル報告ヲ爲ス可シ佛國氏法第五十八條ト異ナリ

〔第四十九條〕 英國船ヲ以テ航海シ船中英國人タル夫婦子ヲ擧ケタル時ハ船長又ハ指揮官其出產證書ニ記載ス可キ異狀ニ付キ其保證書

ヲ記ス可シ佛國民法第五

〔第五十條〕

英國内ノ港灣ニ着船スルカ又ハ他ノ好便ニ於テ船長若ク

ハ指揮官ヨリ民生簿冊ノ管守長官ニ此保證書ノ副本ヲ送付ス可シ

長官ハ海上民生簿ニ之ヲ編入スル者ナリ佛國民法第六十條及第六十一條參照

○第三章 婚姻證書

〔第五十一條〕

婚姻ハ英國ノ寺院ノ法例ニ從ヒ之ヲ行フカ又ハ一切ノ

宗教法則ヲ用ヒス民生簿冊ヲ管守スル官吏ノ面前ニ於テ之ヲ行フ

ヲ得可シ

右ニ記スル第一ノ場合ニ於テノ婚姻ハ僧官ヨリ婚姻公告ノ免除ヲ

得サレハ婚禮ヲ行フ以前婚姻契約者ハ各自居住地ノ寺院又ハ僧官

ノ允許シタル堂宇ニ於テ三回ノ日曜日毎ニ絶ヘス婚姻ノ公告ヲ爲

ス可シ此婚姻公告ハ婚姻表記ニ因テ成リ此表記ニハ婚姻契約者之

カ表記ヲ作りタル日ヲ以テ其日付ト爲シ契約者雙方ノ名氏住所ト

何年月來其住所ヲ定メタル事トヲ示記ス可シ而シテ第一次ノ公告

ヲ爲ス以前少クモ七日内ニ於テ此表記ヲ教部卿ニ呈ス可シ

第二ノ場合ニ於テハ一千八百三十七年三月一日以降婚姻契約者雙

方ノ中一方ヨリ少クモ一週間以來其住居ヲ爲シタル郡ノ民生簿冊

管守者ニ婚姻表記ヲ差出ス可シ此表記ニハ婚姻契約者雙方ノ名氏、

職業、階級、住所ト其住居ヲ定メタル年月ト其婚姻ヲ行フ可キ寺院若

クハ堂宇又ハ此他ノ場所ヲ示記ス可キ者ナリ而シテ該管守者ハ婚

姻表記簿冊ニ其寫ヲ編入シ此簿冊ハ之ヲ審閱セシメテ望ム者アル

時ハ相當ノ時間ニ於テ之ヲ披閱セシム可シトス

貧院取締役ノ書記官ハ每一週日ニ更迭スル此取締役ノ隔週ノ集會

又ハ婚姻表記ヲ其簿冊ニ登記セシ後二十四日内ニ於テ其集會ヲ爲

ス毎ニ三次ニ婚姻表記ヲ朗讀ス可シ但シ婚姻公告ノ免除ヲ得タル時ハ格別トナス佛國民法第六十三條及第六十四條參照

〔第五十二條〕婚姻公告ハ民生簿冊ヲ管守スル官吏ニ頼リ之カ免除ヲ得可シト雖モ此免除又ハ英國寺院ノ婚姻規則ニ從ヒ僧官ヨリ此免除ヲ得ントスレハ婚姻契約者雙方ノ中一方ノ者其婚姻ニ障礙ナキ事及ヒ教門區内又ハ郡内ニ住居スル少クモ已ニ十五日以來ナル事及ヒ其者二十一歳以下ニシテ再婚ニ非サルニ於テハ父母或ハ親族ヨリ必要ナル許諾ヲ受ケタル事若クハ此許諾ヲ與フ可キ親族ナキ事ノ誓ヲ爲ス可シトス佛國民法第六十七條參照

〔第五十三條〕婚姻公告ノ免除ヲ得サル時ハ後ニ公告ヲ爲シタル日ヨリ二十一日ヲ過ルニ非サレハ其婚姻ヲ行フヲ得ス又ハ一回ノ婚姻公告ノ免除ヲ得タル時ハ其婚姻表記ヲ簿冊ニ登記セシ後七日間

ヲ過ルニ非サレハ婚姻ヲ行フヲ得ス佛國民法第六十四條ト異ナリ

〔第五十四條〕夫婦ト爲ラントスル者ハ此表記ヲ簿冊ニ登録セシヨリ三箇月内ニ其婚姻ヲ行ハサル時ハ更ニ婚姻表記ヲ作り及ヒ其公告ヲ新コスルカ又ハ此公告ノ免除ヲ受ク可シ然レモ此免除ハ婚姻表記ヲ簿冊セシヨリ三箇月内ニ非サレハ之ヲ受ルヲ得ス佛國民法第六十五條ト異ナリ

〔第五十五條〕何人タルヲ問ハス婚姻ノ事ニ付キ故障ヲ述フ可キ權理アル者ハ婚姻公告ヲ爲ス時ニ方リ公ケニ其故障ヲ述フルカ又ハ其婚姻表記ニ付キ禁スルノ文字ト己レノ姓名住所及ヒ其故障ヲ述フルヲ得可キ權理アル事ト婚姻表記簿冊ニ記入シ以テ故障ヲ述フルカ又ハ婚姻公告ノ免除ヲ受ク可カラサル事或ハ婚禮ヲ行フ可カラサル事ヲ教門裁判所へ訴へ其故障ヲ述フルヲ得可シ佛國民法第六十六條

條及ヒ第六
十七條參照

〔第五十六條〕 故障ヲ述フル者アルニ於テハ婚姻公告ノ免除又婚禮ノ保證書ハ其阻拒スル者ノ言去斥セラル、カ又ハ無根ナリト審案セラル、後ニ非サレハ之ヲ許與ス可カラス○何人タルヲ問ハス婚姻公告ノ免除又婚禮ノ保證書ヲ得タル事ニ對シ不當ナル故障ヲ述ヘタル者ハ此事ニ付テノ費用及ヒ損害ノ償ヲ擔當ス可シ又婚姻ニ故障ヲ述ヘ得キ權理ヲ有スル者ノ阻拒スル婚禮ニ故意ヲ以テ保證書ヲ與フル民生簿冊ノ官吏又ハ定規ニ背キ三箇月後或ハ二十一日前ニ此保證書ヲ與フル同官吏或ハ法律ニ因リ無効ト爲シタル婚姻ヲ簿冊ニ登記スル同官吏ハ法ニ據リ處刑ノ言渡ヲ受ク可シ佛國民法第十八條ト

〔第五十七條〕 婚姻ニ一切故障ナキ時ハ同上ノ定期滿チタル後民生簿冊ノ官吏ハ婚姻契約者兩家ノ請乞ニ因リ之ニ婚姻表記ニ記シタル條件ヲ掲載セル保證書ヲ與ヘ其婚姻ニ故障ノ申立ナシ定期ノ滿チタル旨ヲ言渡ス可シ○婚姻公告ノ免除ヲ得タル婚姻ニ於ケル保證書ハ朱字又此免除ナキ婚姻ノ保證書ハ黒字ニ於テ刊行セラル、者

ナリ
此婚姻ノ保證書ハ其婚式ヲ行ハシムル教部卿或ハ宗教禮式ヲ用井サル時ハ其婚禮ニ立會フ可キ民生簿冊ノ官吏ニ之ヲ出ス可シ佛國民法第六十九條ト合ス

〔第五十八條〕 凡ソ婚姻ハ其表記ニ示定セル場所ニ於ケルニ非サレハ之ヲ行フ可カラス若シ此表記ニ示定セサリシ場所ニ於テ行フタル時ハ其婚姻ノ効ナカル可シ佛國民法第七十

〔第五十九條〕 婚姻ヲ爲サントスル者ハ民生簿冊ノ官吏ヨリ其婚禮ニ

付キ保認書ヲ受取リタル後ハ宗教規則ニ從フカ又ハ民生簿册官吏
 及ヒ證人等ノ面前ニ於テ左ニ記スル陳述ヲ爲スニ於テハ互ニ満足
 トスル所ノ禮式ヲ用ヒ民生簿册所藏ノ場所ニ於テ婚姻ヲ行フヲ得
 可シ曰ク今予カ公式ニ從ヒ明言スル所以ノ者ハ某ト結ノ所ノ婚姻
 ニ一切ノ障礙ナキヲ了知スト又曰ク予ハ爰ニ面スル諸氏ニ證明シ
 テ云フ予ハ汝ヲ以テ吾カ婦(又ハ夫)ト爲サント佛國民法第七十五條參照

〔第六十條〕 凡ソ婚姻ハ午前八時ヨリ正午迄ノ間證人二名以上ノ面前
 ニ於テ公ケニ之ヲ行フ可シ佛國民法第七十五條參照

〔第六十一條〕 婚姻ヲ行ヒタル後ハ婚姻證書ノ簿册ニ婚姻ヲ行ヒタル
 年月日及ヒ場所(寺院堂宇等)教區、郡、縣、夫婦ノ氏名、住所、年齢、階級、職業、
 其父ノ姓名、階級、職業及ヒ婚姻公告ノ免除ヲ得タル事又ハ其公告ヲ
 爲シタル事ヲ記シ夫婦及ヒ其婚姻ヲ行ハシメタル官吏證人ハ之ニ

手署ス可シ佛國民法第七十六條參照

〇第四章 死去ノ證書

〔第六十二條〕 何人タルヲ問ハス民生簿册ノ官吏又ハ檢視官ノ允許ヲ
 經スシテ埋葬或ハ宗教上ノ葬式ヲ爲シタル者ハ此埋葬等ヲ爲シタ
 ル後一週間ニ於テ該官ニ其旨ヲ届出サル時ハ罰金十リノ言渡シ
 ヲ受ク可シ佛國民法第七十七條

〔第六十三條〕 民生簿册ヲ管守スル官吏ハ其郡内ニ於テ人ノ死亡ヲ嚴
 密ニ探知ス可シ而シテ其死亡ヲ知ルヤ直ニ之ヲ簿册ニ記載ス可シ
佛國民法第七十八條

〔第六十四條〕 何人タルヲ問ハス英國内ニ於テ人ノ死亡ニ出會シタル
 者又死亡者ノ最終ノ疾病ヲ看護セシ者又死亡シタル家屋ノ主人若
 クハ又此主人ノ已ニ死去シタル時ハ死亡者ト同居セシ者ハ民生簿

册官吏ノ尋問ニ因リ死亡ノ日ヨリ八日内ニ其申述ヲ爲ス可シ此官
吏ハ之ニ入費ヲ求メスシテ其死去ノ事ヲ簿册ニ登録セル旨ヲ記シ
タル保認書ヲ引渡ス可シ

此保認書ヲ得スシテ埋葬ヲ行フタル者ハ七日間ニ民生簿册官吏ニ
之カ申述ヲ爲ス可シ然ラサレハ罰金十リノ言渡ヲ受ク可シ佛國

第七十八條
ト異ナリ

〔第六十五條〕 死骸ヲ見出シタル時ハ檢視官共同郡ノ民生簿册官吏ニ
此事ニ付テノ必要ナル報告ヲ爲ス可シ佛國民法第八

〔第六十六條〕 死去ノ證書ニハ其死亡ノ月日郡縣氏名男女年齢職業階
級及ヒ死亡ノ原因及ヒ其中述ヲ爲ス者ノ供認住所手署ト死亡ヲ簿
册ニ登録シタル月日及ヒ其官吏ノ手署トヲ記ス可シ佛國民法第七

〔第六十七條〕 囚獄又ハ懲治場製工場貧院病院等ノ支配役ハ其管轄ノ
場所ニ於ケル死亡ニ付テハ同居ノ家主ト同一視セラル可シ佛國民

第十條
参照

〔第六十八條〕 非命ニ死セル者アル場合ニ於テハ其死骸ハ檢視官其死
ノ形狀ニ検査ヲナシタル後ニ非サレハ之ヲ埋葬スルヲ得ス凡ソ非

命ノ死者アレハ地方官吏ハ檢視官ニ其旨ヲ報告ス可シ然ラサレハ
罰金ノ言渡ヲ受ク可シトス○死骸ノ検査ハ檢視官隣郡ノ陪審員ト

共ニ之ヲ爲シ而シテ此検査ヲ爲シタル後該檢視官ハ其埋葬ヲ爲ス
コトヲ允許シ以テ死亡證書ヲ作ラシム可キ爲メ民生簿册官吏ニ必要

ナル報告ヲ爲ス可シ佛國民法第八十二條參照

〔第六十九條〕 獄舎ニ於テ死去スル者アル時ハ檢視官ハ其死體ヲ検査
ス可シ○英國ニ在テハ非命ニ死シタル者又ハ死刑ニ處セラレタル
者ノ死去ノ證書ハ他ノ法式ヲ以テ之ヲ作ル可シトスルコトナシ佛國

第八十三條ヨリ第
八十五條ト異ナリ

〔第七十條〕英國人ノ英國船中ニ死去スル者アル時ハ其死亡ヲ證スル
爲メ船長又ハ指揮官ハ民生簿冊ニ記入ス可キ所ノ諸件ニ付キ保證
書ヲ作ル可シ佛國民法第八
十六條參照

〔第七十一條〕英國内ノ港湊へ着船スルカ又ハ第一ノ好便ニ於テ船長
或ハ指揮官ヨリ民生簿冊管守長官ニ此保證書ノ寫ヲ送達ス可シ此
簿冊管守長官ハ海上民生簿ニ之ヲ編入ス可キ者タリ佛國民法第八
十七條參照

○第五章 兵士ノ身上證書

〔七十二條〕英國又ハ外國ニ在留スル兵士ニ係ル出産、婚姻及ヒ死亡
ヲ確認スルニ充ツ可キ簿録ハ觀兵名簿ト聯隊名簿トアルノミ觀兵
名簿ハ各聯隊副長官議法院ニ據リ軍隊ニ附屬スル自由兵ト否トヲ
問ハス凡テ軍人ノ氏名ヲ記録スル月表ヲ云フ而シテ該副長官ハ每

月陸軍省ノ書記局ニ其副本ヲ遞付シ其正本ハ聯隊司令長官ノ手ニ
留置シ者ナリ聯隊名簿ハ特ニ在職及ヒ非職士官ノ名簿ナリシカ英
國外ノ軍役ニ在ルノ際民生ノ諸件ヲ調査スルニ他ノ方法ナキヲ以
テ其司令長官ノ命令ニ因リ一般ニ其名簿ニ兵士ノ婚姻及ヒ其適法
子ノ出産ヲ記證スルニ充テタリ此制度ハ一千八百十八年七月一日

英國陸軍大將テュック、イナロクノ命令ニ因リ創定セシ者ナリ佛國民
法第八

十九條ヨリ第九十一
條ニ至ル迄ト異ナリ

〔七十三條〕士官又ハ兵士ノ擧ケタル子ノ洗禮ヲ行フ時ニハ左ニ記
スル件項ヲ簿記スル爲メ其管轄者ヲシテ所屬ノ副長官ニ遞延ナク
之ヲ報告セシム可シ

第一 此子出生ノ年月日

第二 洗禮ヲ行フ可キ場所及ヒ年月日

第三 此子ニ命シタル洗禮ニ付テノ名

第四 父母ノ氏名

第五 其父ノ位階

第六 洗禮ヲ行ハシムル僧官ノ氏名佛國民法第九十二條及九十三條參照

〔第七十四條〕 英國外ニ在ル軍隊ニ於テ其指揮官又ハ士官ノ命令ニ因

リ僧侶ノ行ハシメタル婚姻ハ英國領地内ニ於テ英國法律ニ據リ定

メタル法式ニ從ヒ行フタル婚姻ト均キ功效アル可シト爲ス者ノ如

シ譯者云此書中往々何々ト爲ス者ノ如シ等ノ文アリハ編述者ノ所見ニ係ル者ナリ看官之ヲ諒セヨ

聯隊名簿ニハ左ノ諸件ヲ記ス可シ

第一 兵士ノ階級、氏名及ヒ其婚姻ヲ行ハサルカ又ハ鰥夫ナル事

第二 其婦ノ氏名及ヒ其處女ナルカ又寡婦ナルカノ事

第三 婚姻ヲ行フタル年月日

第四 夫婦ノ手署

第五 婚禮ニ立會シ證人二名ノ手署

第六 婚姻ヲ行ハシメタル僧官ノ手署

第七 婚姻ヲ管スル諸件ノ正確ナルコトヲ認メタル副長官ノ保證佛國

民法第六十四條參照

〔第七十五條〕 副長官ハ觀兵名簿ニ某日誰某ハ死去セリ某日ニ討死セ

リ又ハ某日病院ニ於テ死去セル等ノ文字ヲ記シ各人ニ關スル其狀

景ヲ示記ス可シ佛國民法自第九十六條至第九十八條ト異ナリ

○第六章 民生證書ヲ改ムル事

〔第七十六條〕 出產、婚姻及ヒ死去ノ證書ヲ簿記スル主任者ハ其證書ノ

文面ニ錯誤アルコトヲ見出セシ時ハ其一箇月内出產セシ子ノ親族或

ハ婚姻セシ者ノ父母或ハ死亡ニ出會セシ者二名ノ面前或ハ此親族

若クハ父母ノ死亡後又ハ不在ナル場合ニ於テハ簿冊管守副長官及
ヒ誠實ナル證人二名ノ面前ニ於テ此證書ヲ更改セサル時ハ罰金ノ
言渡ヲ受ク可シ此更改ハ證書ノ餘白ニ之ヲ爲ス可クシテ其錯誤
リシヲ以テ敢テ此證書ヲ改作スルコトナシ又之ニ付テ其更改ノ月
日ヲ記シ及ヒ之ニ自署ス可シ又總テ婚姻證書及ヒ他ノ證書ヲ編入
スル簿冊及ヒ其證書ニ關スル諸保認書ニ付テモ均ク此更改ヲ爲ス
可キ者ナリ佛國民法第九十九條
及ヒ第二百零一條參照

○第三篇 住所

〔第七十七條〕英國法律ハ住所ニ關スル規則ヲ設ケサリシカ故ニ其原
則ヲ外國法律ニ資ラサルヲ得サルナリ然レモ今代ニ至ル迄論議頗
ル久延シ終ニ裁判所ニ於テ之ヲ議定セリ

〔第七十八條〕佛國民法第二百零二條及ヒ第二百零三條ト同シ

〔第七十九條〕元來ノ住所ヲ立チ去ラントスルノ意ヲ以テ住居ヲ移轉
セシ者トスルノ徵證ハ全ク其景況ニ因リ之ヲ定ム可シ佛國民法第
二百零四條及
ヒ第二百零五
條ト合ス

〔第八十條〕東印度ニ在勤スル者ノ住所ニ就テハ左ノ區別アリ即チ英
國王ノ軍隊ニ附屬スル者ハ其元來ノ住所ヲ保存セル者ト看做シ印
度商社ノ勤務ヲナス者ハ其元來ノ住所ヲ轉換セシ者ト看做シタリ
凡ソ領事官ハ軍人ニシテ商人タル分限ヲ兼帶スル者ヲ保護セサル
カ故ニ之ヲ以テ其者ハ元來ノ住所ヲ保存スル者トノ推定ヲ爲ス可
カラス佛國民法第二百零六條及
ヒ第二百零七條ト合ス

〔第八十一條〕佛國民法第二百零八條及ヒ第二百零九條ト同シ

〔第八十二條〕契約者ハ其雙方ノ間ニ於テ若シ訴訟ノ起ル時ハ現住地
ノ外更ニ他ノ住所ヲ撰定シ其住所ニ呼出狀ヲ送達シ又ハ其住所ノ

裁判所ニ訟ヲ爲ス可キコトヲ豫メ約定スルモ妨ケナシトス佛國民法第一百十一條

○第四篇 失踪

〔第八十三條〕 何人タルヲ問ハス己レカ危険ヲ顧ミサル者ニ非サレハ敢テ失踪者ノ財産ニ關與スルコト能ハス但ト失踪者ニ關係アル者ハ失踪者ヨリ委任ヲ受ケスシテ其財産ニ干涉スル者ニ對シ損害ノ償ヲ求ムルヲ得可ク又失踪者ノ財産ヲ管理スル者アルモ純一ニ報酬又ハ信懇上ヨリ生スル所ノ行事ニシテ此財産管理ノ失踪者ノ利益トナル場合ニ於テハ格別ナリ
凡ソ債主ハ其權理ニ從ヒ失踪者ノ財産ニ就キ返濟ヲ得ント訴フルヲ得可シ但種々ノ場合ニ於テ裁判所ヨリ召喚スレモ之ニ應セサル者ニ對シ其返濟ヲ得ントスルニハ定規ニ從ヒ此他ノ裁判上ノ手續

ヲ爲ス可シトス佛國民法自第一百十二條至第一百十四條參照

〔第八十四條〕 一般ニ失踪者ハ其生存ニ反スル證據アル迄ハ生存スル者ト看做スト雖モ其失踪時間非常ニ延續スル時ハ死去セシ者ト看做スコトヲ得可シ其相續人或ハ受贈者ハ失踪者ノ遺囑書アル時ハ之ニ裁判官ノ檢閲ヲ受ケ其遺留財産ヲ所有ス可キノ裁判官言渡ヲ受クルコトヲ得可シ佛國民法第一百十五條參照

〔第八十五條〕 失踪者ノ生存ニ就テハ七箇年來其音信ヲ得サル時ハ其生存ノ推測ヲ止ム可シ又船舶ニ就テモ二年又ハ三年來其現存スルヲ聞知セサレハ破壊セシ者ト看做ス可シ佛國民法第二十

〔第八十六條〕 失踪者ノ死亡ニ就テノ推測ヲ爲シ得可キ時ハ失踪者ニ關係アル者ハ財産ヲ所有ス可キノ裁判官言渡ヲ受クルヲ得可シ然レモ失踪者ノ權理ヲ保護セシ爲メ三年間其關係者ヨリ保證人ヲ立テ

シムル者ノ如シ佛國民法第百二十九條參照

〔第八十七條〕 失踪者ノ死亡ハ如何ナル時限ニ於テ之ヲ定ム可キヤノ議論ハ其死亡セシト檢察スル景況ニ從ヒ衡平裁判所ノ調査ニ就キ普通法裁判所ニ於テ陪審司之ヲ判定スル者ナリ若シ確證ト爲ス可キ景況ナキ時ハ失踪者ハ其失踪ノ日ヨリ七箇年ノ末ニ死亡セシト做ス者ノ如シ佛國民法第百三十條參照

〔第八十八條〕 失踪者己レカ財産ノ裁判言渡ニ因リ其相續人ノ所有ニ歸シタル後見ハレ出ツル時ハ此財産ヲ復有スルノ權及ヒ通常ノ訴權ニ依テ此財産ヨリ生セシ利益等ヲ請求スルノ權又此財産ニ損害ヲ受ケタル時ハ其償ヲモ請求スルノ權アリトス是此權理ヲ行フニ就テハ一切ノ制限ナキ者ノ如シ佛國民法第百三十三條參照

〔第八十九條〕 失踪者ノ死亡ニ關シ外人ノ得可キ權理ハ前條ニ記スル失踪者ノ生存又ハ死亡ノ推定ニ就テノ規則ニ隨ヒ之ヲ定メリ

〔第九十條〕 七箇年來音信ヲ得サル失踪者ノ配耦者ハ再婚ノ契約ヲ取結ヒ而シテ此失踪者顯レ出ツル時ハ其再婚ノ効ナキモビカミ一兩夫婦二又夫婦ノ罰ヲ受ケサル可シ

七箇年來音信ヲ爲サ、ル失踪者ノ婦ハ之ト婚姻ヲ行ハサリシ者ト等シ裁判所ニ於テ抗辨ヲ爲スヲ得可シ佛國民法第百三十九條ト異ナリ

〔第九十一條〕 幼者ノ父又ハ後見人ノ失踪中幼者ノ利益ヲ計リ訴訟ヲ要スル時ハ衡平裁判所此父等ニ代リ其事情ニ因テ訴訟ヲ爲ス可キヤ否ヤノ命令ヲ與フ可シ佛國民法第百四十一條ト異ナリ

○第五篇 婚姻

○第一章 婚姻ヲ結フニ必要ナル諸件

〔第九十二條〕 男十四歳女十二歳以下ニシテ取結ヒタル婚姻ノ契約ハ

四四

不完全タルヲ以テ唯^{ヒンツイユ}婚姻豫約ト等キ効アルノミ故ニ此等者ハ各同上ノ年齢ニ達スルニ至リ其契約ヲ非拒シ又ハ之ヲ無効ト做スヲ得可シ

年齢七歳以下ナル幼者ノ間ニ取結ヒタル婚姻豫約ハ其効ナカル可

シ佛國民法第四百十四條ト異ナリ

〔第九十三條〕 カントルベリーノ大教正ハ往時羅馬法皇ノ允許セシ事

項ニ於テ聖書ニ違反セサル所ノ諸般ノ免除^{テ云フニ就}ヲ與フルヲ得

可シト雖モ前條ニ記スル年齢ニ達セサル者ヲシテ婚姻ノ契約ヲ取

結フノ允許ヲ爲スヲ得ス^{佛國民法第四百十五條參照}

然レヒ王族ノ間ニ於ケル政略上ノ婚姻ハ如何ナル年齢ニ於テ之ヲ

取結フモ其効アル可シ

〔第九十四條〕 佛國民法第四百十六條ト同シ

〔第九十五條〕 婚姻ハ之ヲ爲ントスル者兩家ノ中一方其契約ヲ取結フ

ノ際暴行ヲ受ケタル場合ニ非サレハ此婚姻ニ承諾ナシト訴フルヲ

ヲ得ス

瘋癲ハ婚姻ニ承諾ナキ者トシ其契約取消ノ原由タリ

〔第九十六條〕 佛國民法第四百十七條ト同シ

〔第九十七條〕 二十一歳以下ノ男及ヒ女^{再嫁妻ノ者ヲ}ハ其父ノ許諾ヲ

得スシテ婚姻ヲ取結フヲ得ス^{佛國民法第四百十八條ト異ナリ}

〔第九十八條〕 其父已ニ死去セシ時ハ其後見人又ハ後見人ナキ時ハ其

母ニシテ再嫁セサル者又ハ衡平裁判所ヨリ任命セシ後見人ハ其二

十一歳ニ達セサル者ノ婚姻ニ許諾ヲ與フ可シ若シ此許諾ヲ與フ可

キ者ナキ時ハ其者ハ他人ノ許諾ヲ要セス其婚姻ヲ取結フヲ得可シ

五四

佛國民法第四百十九條及ヒ第四百五十條參照

〔第九十九條〕 二十一歳以上ノ男及ヒ女ハ人ノ許諾ヲ受クルヲ要セス
シテ婚姻ヲ取結フヲ得可シ及ヒ佛國民法第百五十七條參照

〔第一百條〕 婚姻公告ヲ爲サシメス又ハ民生證書ノ官吏ニ報告セスシテ
婚禮ヲ行ハシムル者官吏又ハ僧ハ十四箇年以内ノ流刑ノ言渡ヲ受
ク可シ但シ婚姻公告ノ免除ヲ得タル時ハ格別ナリ

〔第一百一條〕 不適法ノ子ニシテ父母ヲ知ラサル者ハ衡平裁判所ヨリ任
命セシ後見人ノ許諾ヲ受クルカ又ハ他人ノ許諾ヲ要セス後條ニ記
スル所ノ規則ニ從ヒ婚姻公告ヲ爲シタル後又ハ此公告ノ免除ヲ得
タル時ハ其婚姻ヲ爲スヲ得可シ佛國民法第百五十九條參照

〔第一百二條〕 父及ヒ後見人ナク又ハ母ナキ二十一歳以下ノ者ハ其婚姻
ニ許諾ヲ與フ可キ者ナキノ誓ヲ爲スニ於テハ人ノ許諾ヲ要セス婚
姻ヲ爲スヲ得可シ佛國民法第百

〔第一百三條〕 父又後見人母及ヒ此他ノ者才能ナキニ因リ又ハ英國内ニ
在ラサルニ因リ幼者ノ婚姻ニ許諾ノ意ヲ表スルヲ得サルカ若ク
ハ當然ノ理由ナク其婚姻ニ許諾ヲ與フルヲ肯セサル時ハ衡平裁
判所ニ於テ此婚姻ヲ允許スルヲ得可シ佛國民法第百六

〔第一百四條〕 佛國民法第百六十一條ト同シ

〔第一百五條〕 傍系ニ於テハレビナク猶太ニ依リ婚姻禁止ノ規則ヲ定メ
兄弟、姉妹及ヒ同等ナル姻族親ノ間ニ於ケル婚姻ハ禁スル所ナリト
雖モ夫ノ姻族親ハ其婦ノ姻族親ニ對シ姻族タルニ非サルニ因リ夫
及ヒ其子ハ其婦ノ姻族親ノ母及ヒ女ヲ娶ルヲ得夫ノ兄弟ハ此姻
族親ノ姉妹又寡婦ハ吾夫ノ姉妹タル者死シタル後其夫ニ婚スルヲ
得可シ佛國民法第百

〔第一百六條〕 伯叔父母ト甥姪トノ間ニ於ケル婚姻ハ之ヲ禁止ス而シテ

一切ノ權力ニ因リ此婚姻ノ障礙ヲ取除クヲ得ス佛國民法第百六十四條及ヒ千八百三十二年八月十六日ノ佛蘭西法律ト異ナリ

〔第百七條〕 婚姻ハ四等親即チ同父母ノ從兄弟、從姊妹以外ニ於ケル親族ノ間ニ取結フハ許ス所ナリ

○第二章 婚姻ヲ行フニ付テノ法式

〔第百八條〕 婚禮ハ民生證書ノ卷ニ記スル規則ニ從ヒ寺院ニ於テ僧官之ヲ行ハシムルカ又ハ民生簿冊ヲ管守スル官吏或ハ其補官ノ面前ニ於テ之ヲ行フ可シ

如此シテ行ヒタル婚姻ハ之ヲ法律ニ反シタル者ト爲スノ證據ナキ間ハ尙ホ之ヲ有効ノ者ト做スシ可シ佛國民法第百六十五條ト異ナリ

〔第百九條〕 英國民法第五十一條佛國民法第百六十三條參照ニ列記スル如ク婚姻公告ハ之カ免除ヲ得サルニ於テハ宗教區内又ハ夫婦トナル可キ者雙方ノ居住スル郡内ニ於テ之ヲ爲ス可シ然ラサレハ此婚姻ノ効ナカ

ル可シ佛國民法第百六十六條參照

〔第百十條〕 夫婦トナル可キ者ハ婚姻公告ヲ爲ス可キ以前七日間ニ民生證書ノ官吏ニ其旨ヲ稟告ス可シ而シテ此稟告ヲ爲ス以前少シモ七日間其婚姻ヲ行ハントスル所ノ郡内ニ住居ヲ爲ス可シ然レモ夫婦ヲラントスル者其婚姻ヲ行フニ至ル迄ノ十四日間住居セル場所ノ外他ノ場所ニ於テ婚姻公告ヲ爲ス可シ及ハサル可クシテ又婚姻ヲ行フタル後ハ此住居ニ付キ爭論ナカル可シ佛國民法第百六十七條第百六十八條ト異リナ

〔第百十一條〕 婚姻公告ノ免除ヲ得タル者ハ其數次ノ公告ヲ爲サス又ハ民生證書ノ官吏ニ其旨ヲ稟告セスシテ婚姻ヲ行フヲ得可シ佛國民法第百六十九條ト異ナリ

○五

〔第一百十二條〕外國ニ於テ英國人ノ間又ハ英國人ト外國人トノ間ニ取
結ヒタル婚姻ハ其國^外ノ法律ニ從ヒ之ヲ行フ時ハ其効アリトシ又
其國ノ法律ニ於テ此婚姻ヲ無効ニ措クモ英國法律ニ從ヒ之ヲ行フ
タル時ハ其効アル可シトス佛國民法第百七
十條ト異ナリ

○第三章 婚姻ニ故障ヲ述フル事

〔第一百十三條〕婚姻ニ付キ許諾ヲ與フ可キ者ハ婚姻ヲ爲ントスル者未
タ婚齡ニ滿サルノヲ以テ此婚姻ニ故障ヲ述フルヲ得可シ
然レモ何人タルヲ問ハス前婚ヲ絶タスシテ更ニ婚姻ヲ結フ者アル
時又ハ夫婦ヲラントスル者一方ニ精神昏亂ノ現狀又ハ亂倫ノ事ア
ル時ハ之ヲ原因ト爲シ其婚姻ニ故障ヲ述フルヲ得可シ
此種々ノ場合ニ於テハ寺院ニ於テ婚禮ヲ行フノ際口述ニ因リ故障
ヲ述フルカ又ハ民生證書ノ官吏ノ管掌スル婚姻表記簿冊ニ就キ書

面ヲ以テ故障ヲ述フルヲ得可シ佛國民法第百七十五條ト異ナリ

〔第一百十四條〕口述ヲ以テ婚姻ニ故障ヲ述フル者ハ「シレルリ」僧ヨリ需
メヲ受クルニ於テハ之ニ己レカ姓名、身分等通例ハ婚式ヲ執
行シタル後ニテ及ヒ其
故障ノ原因ヲ申述フ可シ又婚姻表記簿冊ニ就キ書面ヲ以テ故障ヲ
述フル者ハ己レカ住所、身分ヲ示指シ及ヒ己レカ姓名ヲ手署ス可シ
佛國民法第百七
十六條ト異ナリ

又代人ヲ以テ教門裁判所へ婚姻ノ故障ヲ述フルヲ得可シ
〔第一百十五條〕英國寺院ノ規則ニ依レハ父母又ハ後見人其幼者ノ婚姻
ニ故障ヲ述ヘタル時ハ己ニ婚姻ノ公告ヲ爲セシモ其効ナカル可シ
此他ノ場合ニ於テハ夫婦ヲラントスル者此故障ヲ受ケタルニ付キ
教門裁判官ニ控訴スルヲ得可シ故ニ故障ヲ述フル者アル時ハ教門
裁判官ノ審決ヲ下サル以前ハ婚姻公告ノ免除ヲ與フ可カラストス

又新法民法ニ依レハ民生簿册管守者ハ其婚姻ニ障碍ナキヲ了知スルコト非サレハ此公告ノ免除ヲ與フ可カラストス佛國民法第百七

〔第一百十六條〕 若シ民生簿册管守者其故障申述ニ言渡ヲ爲サス又ハ不當ノ言渡ヲ爲シタル時ハ夫婦ヲラントスル者民生簿册管守長官ニ控訴スルコト得可シ佛國民法第百七

〔第一百十七條〕 故意ニ出テ人ノ婚姻ニ故障ヲ述ヘタル者ハ罰金及ヒ損害ノ償ノ言渡ヲ受ク可シ佛國民法第百

○第四章 婚姻取消ノ訴訟

〔第一百十八條〕 何人タルヲ問ハス婚姻ニ關係アル者即チ瘋癲者ノ管財人ノ如キモ亦其瘋癲者ノ取結ヒタル婚姻ヲ取消サン爲メ初告裁判又ハ控訴裁判所ニ訴訟ヲ爲スコト得可シ佛國民法第百

〔第一百十九條〕 夫婦中一方他一方ノ人ヲ誤リテ取結ヒタル婚姻ノ契約ハ之ヲ取消スコト得可シト雖モ其一方ノ家族又ハ家産ヲ誤リテ取結ヒタル其契約ハ効アル可シトス

凡ソ人誤謬ヲ以テ他人ヲ害シ己レヲ利スルノ理ナシ故ニ夫婦中ノ一方他一方ヲ誑惑セシメテ取結ヒタル婚姻ノ契約ハ之ヲ取消ント訴フルヲ得ス佛國民法第百

〔第一百二十條〕 夫婦中一方ノ者婚姻前ヨリノ無勢力ナル時又其者自カラ無勢力タルヲ知ラサルモ他一方ノ者ハ之ヲ原由トナシ其婚姻ヲ取消ント訴フルヲ得可シ然レモ婚姻以後ニ生發セシ無勢力ニ就テハ然ラス

此場合ニ於ケル婚姻取消ノ訴訟ハ其無勢力ノ顯跡ナキニ於テハ三箇年間夫婦同室ヲ試ミサル以前ニ之ヲ受理ス可カラス佛國民法第百八十一條

ナト異

四五

〔第二百一十一條〕 夫婦中一方ノ承諾ナキ婚姻契約ト雖モ後日ニ至リ其

一方ノ明許又ハ默許アルニ於テハ婚姻ヲ結フコトヲ得可シ此場合ニ於テハ通常取消ト爲ス可キ婚姻モ其効アル可シトス

是故ニ暴行又ハ誦詐ニ因リ取結ヒタル婚姻ハ其暴行ノ止ミタル後又ハ誦詐ノ露レタル後尙ホ夫婦同室ヲ爲シタル時ハ此婚姻ヲ取消サント訴フルヲ得ス佛國民法第百二十二條參照

〔第二百一十二條〕 二十一歳ニ滿タサル者ノ取結ヒタル婚姻ハ其公告ヲ爲シタル後若クハ此公告ノ免除ヲ得タル後ニ至リ其者ノ父母又ハ後見人此婚姻ヲ許諾セサリシ事ヲ以テ之ヲ取消ス可カラズ但シ此婚姻ニ付キ故障ヲ申述タル時ハ格別ナリ
同上ノ者ノ取結ヒタル婚姻ニ故障ヲ受ケタル時ハ其婚姻ノ契約ハ全ク無効ナリトス佛國民法及ヒ第百八十五條參照

〔第二百一十三條〕 婚姻ハ之ヲ結ハントスル者相當ノ年齢ナル時ハ假令

ヒ其者偽誓ヲ爲シ此婚姻公告ノ免除ヲ得タルモ之ヲ以テ其婚姻ヲ取消スコトヲ得ズ但シ此場合ニ於テ只此偽誓ヲ爲シタル者ニ罪科アル可シトスルノミ佛國民法第百八十二條及ヒ第百八十五條參照

〔第二百一十四條〕 夫婦トナラントスル者一方ハ未タ婚姻ヲ結ヒ得可キ

年齢ニ至ラサルモ其父母ノ許諾ヲ經テ此年齢ニ達セシ他一方ト婚姻ヲ取結セシ時ト雖モ此雙方ノ者ハ互ニ其婚姻ヲ取消ント訴フルコトヲ得可シ但此場合ニ於テハ其約諾ヲ破却セシ譯ヲ以テ其已ニ婚姻ノ年齢ニ達セシ一方ノ者ヨリ損害ノ償ヲ得ント訴フ可カラズ佛國民法參照

五五

〔第二百五條〕 婚姻ヲ結ヒ得可キ年齢ニ達セスシテ已ニ懐胎スル婦ハ夫ト等ク其子ヲ我適法子ニ非スト爲スノ權アリ斯ノ子ハ即チ婚

姻外ノ子ナリトス

然レモ婚姻ヲ結ヒ得可キ年齢ニ至ラズシテ懐胎セル者此年齢ニ達セシ後タルモ引續キ同室セシ時ハ其子ヲ我適法子ニ非スト爲スヲ得ス又此婚姻ヲ取消スヲ得ス同参照

〔第二百二十六條〕 英國民法第九十二條第九十六條第百零四條第百零五條及ヒ第百零六條ニ記スル規則ニ背キ取結ヒタル婚姻ノ契約ハ固ヨリ其効無カル可シ而シテ何人タルヲ問ハス其婚姻ニ關係アル者ハ皆之ヲ取消サント訴ツルヲ得可シ佛國民法第百八十四條參照

〔第二百二十七條〕 宗教法律ニ反スルカ爲メ無効ト爲ス可キ婚姻ハ夫婦中一方ノ者死去セシ上ハ之ヲ取消スニ及ハサルモ當然無効ト爲ス可キ婚姻ハ夫婦結婚時間ノ長短ヲ問ハス及ヒ其死去ノ如何ヲ論セズ之ヲ取消ス可シ佛國民法第百八十七條參照

〔第二百二十八條〕 佛國民法第百八十八條及ヒ第百八十九條ト同シ

〔第二百二十九條〕 婚姻ハ夫婦ヲラントスル者其管轄者僧官又ハノ面前又ハ相當ノ場所特別ノ免除ヲ得ニ於テ之ヲ行ハサル時ハ其効無カル可シシテ刑法ニ定タル刑ノ言渡ヲ受ク可シ佛國民法第百九十一條參照

〔第三百十條〕 古昔ノ普通法ニ依ルニ隱密ニ婚姻ヲ行フタル者ハ罰金及ヒ禁獄ノ言渡ヲ受ク可シトナセリ又數個ノ制定法ニ依レハ公告ヲ爲シテ婚姻ヲ行フモ若シ夫婦故意ニ出テ其公告書ニ各自ノ洗禮ニ就テノ名及ヒ氏名ヲ詳記セサル時ハ此公告ノ効ナカル可シトス然レモ其婚姻ニ至テハ之ヲ行フタル後迄夫婦中一方ノ者此過失ヲ知ラサリシ時ハ其効アル可シトス佛國民法第百九十二條第百九十三條ト異ナリ

〔第三百十一條〕 新法ニ依レハ民生簿册管守長官ニ稟告ヲ爲サスシテ行フ所ノ婚姻ハ其効無カル可シトス又婚姻ヲ行フニ不實ノ申述ヲ

爲ス者若クハ詐偽ノ證書婚姻ヲ作り之ニ手署スル者ハ偽誓ノ罪アル可ク及ヒ其所有ノ財産并ニ其婚姻ニ因リ得タル相續ノ權理ヲ王家ニ沒収ス可シトス教法又ハ婚姻公告及ヒ其免除ニ關スル規則ニ背キ婚姻ヲ行ハシメタル教部卿ハ三箇年間職務停止ノ罰ヲ受ク可シ佛國民法前條ト異ナリ

〔第三百二十二條〕 民生簿冊ニ於ケル婚姻ノ記入ハ其婚姻ノ功效ヲ證スル爲メ重要トセス佛國民法第百九十四條參照

〔第三百二十三條〕 凡ソ婚姻ハ證人或ハ婚禮ニ出會セシ者ノ證言又ハ衆評ニ因リ之ヲ證ス可シ但夫其婦ノ姦通ヲ犯シタルニ付キ其同犯夫姦ニ對シ損害ノ償ヲ訟求スル時ニ於テハ同室又ハ衆評ノ外他ノ徵證アルヲ必要ナリトス佛國民法第百九十五條ト異ナリ

〔第三百二十四條〕 婚姻證書ハ只之ニ列記スル所ノ如ク其婚姻ヲ行フタル月日及ヒ場所等ヲ證スルニ止マリテ夫婦タルノ證憑ヲ定ムル者ニ非ス故ニ民生證書ニ記載セル申供ノ眞實ナラサルニ於テハ諸種ノ證據ヲ以テ之ヲ排撃スルヲ得可シ佛國民法第百九十六條ト異ナリ

〔第三百二十五條〕 正當ニ婚姻ヲ行ハサルノ證憑ナキニ於テハ夫婦ノ如ク公ニ生活ヲ共ニスル者ヲ以テ其婚姻ヲ行フタル者ト看做ス可シ然レハ此婚姻ノ成立ニ付キ不動産ニ關スル所有權ノ要求ヲ爲ス時ハ陪審司ヲ満足セシムル爲メ此婚姻ノ法律ニ適シタルノ確證アルヲ必要トス又動産ニ關シテハ夫婦タルノ現狀アルヲ以テ此婚姻ヲ證スルニ足レリトス佛國民法第百九十七條ト異ナリ

〔第三百二十六條〕 法律ニ於テ無効ト爲ス可キ婚姻ニ生レタル子ハ之ヲ婚姻外ノ子ト爲ス可シ而シテ婦ハ嫁粧トシテ持來リシ諸般ノ財産ヲ回收ス可シ但シ其夫詐欺ノ情無シシテ已ニ費用セシ此財産ハ格

別ナリ佛國民法第二百零一條及第二百零二條ト異ナリ

〔第三百三十七條〕前婚ノ尙ホ存在スルノ間取結ヒタル婚姻ノ契約ハ其効ナカル可シ而シテ婦ハ假令ヒ善意ニ出テ此契約ヲ取結ヒタルモ寡婦ト同ク其婚姻ヨリ生スル正當ノ權理ヲ求ムルコトヲ得ス佛國民法第二百零一條第二百零二條ト異ナリ

〇第五章 婚姻ヨリ生スル責務

〔第三百三十八條〕佛國民法第二百零三條ト同シ但英國法律ニ於テハ宗區ノ負擔スル貧民ニ就キ別個ノ法則ヲ說明スルヲ異ナリトス
祖父母ハ父母ト同ク其卑屬親ノ自カラ生計ヲ爲スコト能ハサル時ハ之ヲ養育ス可キノ責務アリ佛國民法第二百零三條參照ニ

〔第三百三十九條〕佛國民法第二百零四條ト同シ
茲ニ記スル場合即チ父ハ他人ヨリ其子ニ給送シタル物品ニ付キ假令ヒ其物品其子ノ産業ニ必要ナル者ト雖モ代テ其辨償ヲ爲スノ責務アルヤノ論議ハ陪審司ノ判決ニ付スル者トス通例父タル者ハ他人ヨリ其子ニ送付シタル商品ハ之ヲ辨償スルノ責務無カル可シ但シ此父ノ命令又ハ明許若クハ默許ニ出ル時ハ格別ナリトス

〔第四百十條〕佛國民法第二百零五條ト同シ
〔第四百十一條〕養料ヲ給ス可キノ責務ハ血屬親ノ間ニ止マリテ姻屬親ノ間ニ及フコトナシ故ニ婿及ヒ媳婦ト義父母トノ間ニ於テハ互ニ養料ヲ給スルノ責務ナカル可シ然レモ新法ニ依レハ義父ハ婚姻以前ニ生レタル其婦ノ適法ノ子又ハ不適法ノ子ノ年齢二十一歳ニ達スル迄又ハ其婦ノ死去スル迄ハ此子ヲ養育ス可シトス佛國民法第二百零六條及第二百零七條ト異ナリ

〔第四百十二條〕凡ソ養料ヲ求ムル者ハ年齢疾病又ハ不慮ノ災難ニ罹

ル等ノ事故アリテ自カラ給養シ能ハサルノ原由ナカル可カラス而シテ又之カ求テ受ケタル他一方ノ者モ其養料ヲ給與シ得キノ身位ニ在ルヲ必要ナリトス

養料ヲ給與シ得キノ景況及ヒ其養料ノ定分ヲ定ムルハ裁判官ノ賢察ニ委スル者トス 佛國民法第二百八條及ヒ第二百九條參照

〔第四百十三條〕 養料ノ求テ受ケタル者ハ之ヲ求ムル者ヲ自己ノ住所ニ引寄スルニ及ハサル可シ是此規則ハエリザヘツト第四十三號法律及ヒ其他養料ノ事ニ就テハ單ニ供給ヲ爲ス可シトスル爲メニ設ル法律ヨリ基キ來リシ者ナリ 佛國民法第二百十條參照

○第六章 夫婦雙方ノ權理及ヒ責務

〔第四百十四條〕 夫婦ハ只一個人クリト看做セルカ故ニ夫婦ハ親愛ヲ盡シ夫婦タルノ待遇ヲ爲ス可シ 佛國民法第二百十二條參照

〔第四百十五條〕 夫ハ其婦ト婚姻ヲ結フ間又ハ婚姻ヲ解キタル後若クハ其婦ヨリ後レテ生存スル時ハ畢生間此婚姻ヲ結ヒシ爾來其婦ノ贈遺若クハ相續ニ因リ得タル所ノ物權ニ關スル財產ニ付キ其入額ヲ所得スルヲ得可シ又夫ハ此婚姻ヲ結ヒシニ因リ其婦ノ人權ニ關スル財產ヲ己レカ所有スル財產中ニ改入スルニ於テハ此人權ニ關スル財產ニ付キ所有者タリトス

婦ノ一方ニ於テハ其夫ノ生存中ハ夫ノ家産ノ割合ヲ以テ己レニ須要ナル給與ヲ受ク可キ權又其夫ノ死亡後ハ「テウエール」遺産ヲ受クヘキ權アリ

〔第四百十六條〕 夫婦ハ兩身一體タルヲ以テ夫ハ其婦ヲ愛護スル猶ホ自己ニ於ルカコトクナル可シ又夫ハ其婦ニ暴行又ハ凌辱ヲ爲シタル者アル時ハ此者ニ對シ損害ノ償ヲ要ムルノ權アリ

〔第四百十七條〕 夫婦ハ協同ノ生活ヲ爲ス可キカ故ニ其各一方ヲシテ已レト同居セシムルノ權アリ然レモ婦ハ其夫ノ指令スル住所ニ居住ス可クシテ又夫ハ特ニ指定シタル場所ニ其婦ヲ閉居セシムルヲ得可シ但婦ハ此旨ヲ裁判所ニ訴へ而シテ訴理適當ナリト審察セラル、時ハ此閉居ヲ免ル、ヲ得可シ夫ハ其婦ヲ誘拐スル者若クハ之ヲ隱匿スル者ヲ追告スルヲ得可シ佛國民法第二百四十四條ト合ス

〔第四百十八條〕 凡ソ婦ハ假令ヒ夫ト別居シ又ハ殊別ノ入額ヲ有スル者ト雖モ獨自カラ訴訟ヲ爲シ又ハ之ヲ受クルヲ得ス則チ婦ノ民事上ノ身位ハ其夫ノ身位ト同一致ナルカ故ナリ

然レモ婦ハ近親又ハ朋友ノ名義ニ因テ其夫ニ對シ衡平裁判所へ訴訟ヲ爲スヲ得可キ場合アリ又婦ハ其夫ニ與ラスシテ教門裁判所へ訴訟ヲ爲シ又ハ之ヲ受クルヲ得可シ

〔第四百十九條〕 凡ソ結婚ノ婦ハ刑法ニ因テ罰ス可キ行爲ニ付テハ常人ト等ク己レヲ辨護スルノ權理ヲ有セリ又婦ハ自カラ犯シタル諸般ノ罪科ニ就テハ其夫ト別異ニ告訴セラル可シ

然レモ一般ニ婦ノ其夫ト共ニ犯セル刑法上ノ罪科ニ就テハ法律以テ此婦ヲ保護スル者トス是レ則チ婦ハ其夫ニ畏從スル者ト思料スルカ故ナリ但謀殺、故殺等ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ此限ニ在ラズ佛國民法第二百十六條

〔第五百十條〕 普通法ニ依レハ凡ソ婦其夫ノ明許若クハ默許ナクシテ他人ト取結ヒタル契約ハ全ク其効無カル可シトス然レモ婦其夫ノ用務ヲ辨理スル時ハ即チ其夫ノ代理人又ハ家從ノ如ク看認ム可キカ故ニ婦通常協議上ノ事務内ニ入ル可キ諸件ヲ執行スルニ於テハ其夫ノ默許ヲ得タル者ト看做ス可シ又夫ハ其婦ニ必要ナル費額ヲ

給與スルノ責務アルカ故ニ若シ婦此費額ヲ得サルカ爲メ負債ヲ爲シタル時ハ夫之ヲ支辨ス可シ佛國民法第百二十條

然レモ衡平法ニ依レハ結婚ノ婦其夫ト財產ヲ分有スル時ハ己レカ財產ヨリ其負債ヲ償却ス可シトス佛國民法第百二十二條

〔第五百十一條〕 婦ハ其夫ノ准死ノ刑ヲ受ケタル後ハ獨自カラ裁判所ヘ出ツルコトヲ得可シト雖モ若シ其夫禁獄及ヒ或種ノ刑ヲ受ケタル時又ハ失踪中ナル時ハ此能力無カル可シ但シ此最末ノ場合ニ於テ

ハ其夫死亡セント推定有ルカ又ハ外國ノ戶籍ニ入りタルカ若クハ國敵トナリタル時ハ格別ナリ佛國民法第百二十一條

〔第五百十二條〕 夫ハ傳移契約者ノ介入ヲ以テ自己ノ爲メ其婦ニ他人ト契約ヲ取結フ可キノ權理及ビ訴訟ヲ爲ス可キ權理ヲ與フルコトヲ得可シ然レモ此場合ニ於テハ婦ヲ其夫ノ單純ナル代理人ト同視ス

可シ但婦ハ其夫又ハ其傳移契約者ノ名義ヲ以テスルニ非サレハ自己ノ名義ヲ以テ訴訟ヲ爲スヲ得可カラス佛國民法第百二十三條

〔第五百十三條〕 丁年ニ至ラサル夫ヲ有スル婦ハ獨自カラ裁判所ニ訴訟ヲ爲シ又ハ之ヲ受クルコトヲ得ス佛國民法第百二十四條

〔第五百十四條〕 夫ノ許諾ナクシテ其婦ノ取結タル契約ハ何人タルヲ問ハス之ヲ取消サント訴フルヲ得可シ佛國民法第百二十五條

〔第五百十五條〕 結婚ノ婦ハ夫ノ允許ナクシテ遺囑證書ニ因リ動産又ハ不動産ヲ處置スルヲ得ス然レモ夫ハ婚姻ヲ行フ以前ニ在テ其婦

ノ傳移契約者ト婦ノ遺囑證書ヲ作成スルコトヲ協議スルヲ得可シ又婦ノ一身ニ屬スル動産ハ其夫ノ承諾ヲ要セスシテ遺囑證書ニ因リ

之ヲ處置スルコトヲ得可シ佛國民法第百二十六條

○第七章 解婚

〔第五百十六條〕 准死ノ刑ハ夫婦ノ合縁ヲ崩潰セスシテ只婦ノ民事上

ノ身位ニ付キ夫婦タルノ連結ヲ解放シ而シテ婦ニ獨自カラ訴訟ヲ
爲スノ權理ヲ與フル者ナリ佛國民法第千二百
二十七條ト異ナリ

○第八章 再婚

〔第五百十七條〕 婦ハ其夫ノ死去後又ハ離婚ノ宣告後ハ直ニ再婚ヲ契

約スルヲ得可シ若シ再婚ニ付キ故障ヲ申述ントスル者ハ此事ニ
付テノ議院證書ヲ受ク可シ佛國民法第
二百二十八條ト異ナリ

○第六篇 離婚

〔第五百十八條〕 離婚ニ二種アリ第一完全ノ離婚ニシテ「ア、ピンキエロ

」ニトリモ「イ」ノ離婚是ナリ其第二ハ不全ノ離婚即チ「ア、メンサ
アエテロー」ノ離婚ニシテ是レ佛國民法ニ於ケル夫婦別居ト適應ス
ル者ナリ佛國民法第
三百十一條

〔第五百十九條〕 完全ノ離婚ハ婚姻前ヨリ成立スル離婚ノ原由即チ前

婚ノ成存禁婚ノ親等ニ於ケル相婚未タ婚齡ニ達セサルヲ婚姻前ヨ
リ惡疾ナル無勢力ヲ原由トナシ之カ言渡ヲ爲スヲ得可シ此離婚
ハ佛國民法ニ於テ單ニ婚姻取消シコ止マル可キ者ナルモ此書ニ於
テ説論スル此ノ如シ

又完全ノ離婚ハ婚姻以後ニ生シタル離婚ノ原由ヲ以テ之カ言渡ヲ
爲スヲ得可シ然レモ此場合ニ於テ特リ議院證書ニ因リ其言渡ヲ
爲スニ限ル可シ

○第一章 離婚ノ原由

〔第一百六十條〕 姦通ハ不全ノ離婚即チ夫婦別居ノ原由タリ故ニ夫婦ハ
各他一方ノ者姦通ヲ爲シタルニ因リ其別居ヲ爲サント訴フルヲ得可
シ又治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ後見人ハ此者ノ不貞ナル配耦者ニ對シ

別居ヲ爲サシメント訴フルヲ得可シ佛國民法第三百六條ト異ナリ

又完全ノ離婚モ姦通ヲ原由トナシ議院證書ニ因リ之カ言渡ヲ爲ス

ト多シ佛國民法第二百二十九條及第二百三十條ト異ナリ

〔第六十一條〕夫婦中一方ノ者苛酷ノ待遇ヲ爲ス時ハ陪審司ノ判斷

ニ因リ他一方ノ者ノ別居ヲ爲ント訴フルヲ允許スルヲ得可シ佛國民法第三百零六條參照

〔第六十二條〕婦ハ其夫倫理ニ反戾スル重罪姦淫等ヲ犯シタル者ト

同ク刑ノ言渡ヲ受ケタル時ハ之ヲ原由トシ別居ヲ爲サント訴フル

ヲ得可シ

〔第六十三條〕離婚及ヒ夫婦別居ハ夫婦ノ相諾ヲ原由トナシ之ヲ訴

フルヲ得ス佛國民法第二百三十三條第三百七條

〇第二章 定マリシ原由アル離婚

〇第一款 離婚ノ訴訟

〔第六十四條〕夫婦別居ハ婚姻取消シノ訴訟ト同ク其原由ノ如何ヲ

問ハス之ヲ教門裁判所ニ訴へ而シテ通常ノ法式ニ於テ審判ヲ受ク

可シ佛國民法第三百七條參照

〔第六十五條〕教門裁判所ハ夫婦中一方ノ重罪ヲ犯シタル事ニ付キ

他一方ノ爲シタル別居ノ訴訟ニ言渡ヲ爲スニハ必ス先ツ其罪ヲ犯

シタリトスル一方ノ者ノ其管轄裁判所ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル

コアルヲ調査スルヲ必要ナリトス佛國民法第二百二十六條

〔第六十六條〕教門裁判所ハ被告人ヲ出庭セシメタル後原告人ニ其別

居ノ訴旨ヲ記シタル請願書ヲ出サシメ而シテ後其訴フル所ノ事ヲ排

斥ス可シ然レモ裁判官ニ於テ之ヲ認許スル時ハ證據人ノ言ヲ聞キ

而シテ審問官ハ其證言ヲ書取ル可シ又被告人ニ於テハ至當ノ方法

ヲ以テ之カ訴ヲ抗拒スルヲ得可シ佛國民法第二百五十九條

〔第六十七條〕

夫婦別居ノ訴ヲ爲シタル夫婦ハ互ニ和解ヲ爲サント

スルニ一切定期アルコトナシ又裁判官ノ別居ヲ爲サシメタルノ命令

ハ單ニ其夫婦ノ和解ヲ爲ス迄各居ノ生活ヲ爲スコトヲ允許セシニ止

ルノミ

〔第六十八條〕

夫婦別居ノ訴訟ヲ起ス所ノ姦通又ハ他ノ事實ヲ認定

スルコトハ夫婦中一方ノ者ノ自認ノミヲ以テ充分ノ證左ト爲スニ足

ラス渾テ其隱行ヲ見察スルニハ必ス證人又ハ他ノ證憑ナカル可カ

ラス又別居ヲ訴フル夫婦ハ各自他ノ一方ニ其證人ヲ非拒セシムル

カ又ハ之ニ反審セシムル爲メ豫メ其證人ノ氏名ヲ報知ス可シ

〔第六十九條〕

裁判官ノ代理者タルプラチンアンハ只ニ證人ヲ審問

スルニ止リ而シテ其審問後ニ至リ裁判官其證言ヲ認許セシ時ハ之

ヲ公告シ而シテ後訴訟ハ代言師ニ依リ對質ヲ受ケ之カ判決ヲ受ク

可キ爲メ公庭ニ送付セラレ、者ナリ凡テ教門裁判所ノ言渡ハ書面

ニ認メ原被ノ面前ニ於テ公宣ス可シトス

〔第七十條〕

夫婦別居ノ訴訟中ハ夫ヲシテ其婦ニ食料ヲ給與セシム

ル者多シ凡ソ教門裁判所ハ夫婦曾テ其婚姻ヲ取結ヒタルコト實ナ

ルコトヲ以テ已ニ夫ノ家産ニ從ヒ其食料ノ價額ヲ定ル者トス佛國

民法第二百五十九條

〔第七十一條〕

婚姻ニ關スル控訴ハ十五日內ニ於テ之ヲ爲ス可シ則

チカントルヘリノ高僧院ハ控訴ヲ管理スル所ニシテ又參議院ノ司

法局ハ其控訴ノ最上院タリ佛國民法第二百六十三條ト異ナリ

○第二款 離婚ノ訴訟中夫婦ノ權理

〔第七十二條〕

離婚ノ訴訟中夫婦ノ適法ノ子ハ其父ニ委屬スルヲ常

式トス教門裁判所ハ此子ノ年齢ノ如何ヲ問ハス其適法子タルノ權
理ヲ奪フ可カラストス佛國民法第二百七十七條ト異ナリ

第七十三條 同上ノ訴訟中婦ハ其夫ノ住居ヲ退去ルコトヲ得可シ又
其夫之ヲ他人ニ附託セント欲スル時ハ婦ハ司法權ニ依リ己レカ自
由ヲ享クルコトヲ得可シ佛國民法第二百六十五條

第七十四條 同上ノ訴訟中婦ハ只養料ヲ受ク可キ權理ヲ有スルモ
其動産及ヒ不動産ノ收獲ハ婚姻ノ功効ニ由リ夫ニ歸屬スル者トス
佛國民法第二百七十一條ト異ナリ

○第三款 離婚ヲ訴フル權理ノ終ル事

第七十五條 姦通ヲ原由ト爲シタル夫婦別居ハ左ノ場合ニ於テ之
ヲ訴フルコトヲ許サス

第一 夫婦互ニ不義ヲ行フタル時

第二 夫自カラ其婦ヲシテ賣淫セシメ又ハ其賣淫ヲ縱容シタル時

第三 錯誤強姦又ハ誘拐ニ於ケル姦事ノ如キ固ヨリ姦通ノ意ナカ
リシ時

第四 姦事ノ露顯セシ後夫婦和解ヲ爲シタルカ又ハ宥恕ヲ加ヘタ
ル時

宥恕ニ默諾ト明諾アリ明諾トハ書面ヲ以テ宥恕ヲ爲スヲ云フ默諾
トハ譬ヘハ夫其婦ノ不貞ヲ了知スルニ尙ホ其婦ト寢床ヲ共ニスル
等是ナリ佛國民法第二百七十二條

第七十六條 佛國民法第二百七十三條ト同シ

○第三章 夫婦和諾ノ離婚

第七十七條 夫婦別居ハ夫婦和諾ニ因リ之ヲ訴フ可カラスト然レモ
英國ニ於テハ夫婦ハ保證人タル外人ノ擔保ニ因リ夫婦別居ノ狀況

ニ於テ各居生活スル者アルナリ 佛國民法第二百七十五條

○第四章 離婚ノ功效

第七十八條 議院證書ニ因リ離婚ヲ宣告シタル時ハ其夫婦タリシ者ノ間ニ於テ一切婚姻ノ成立セシメテ同一様ナル身位ニ置カ
ル可シ但其者ハ議院證書ニ因リ故障ヲ受ケサルニ於テハ再婚ヲ行
フコト得可シ 佛國民法第二百九十五條ト異ナリ

第七十九條 議院證書ニ因リ姦通ヲ原由トナシ離婚ノ言渡ヲ受ケ
タル時ハ其不義ヲ犯シタル者ハ其從犯ト婚姻ヲ取結フコト得ルモ
結婚ノ婦ヲ姦セシ後之ヲ娶リテ己レカ過失ヲ償ハサル時ハ尙ホ
榮譽ヲ害セシ者ト看做ス可シ

凡ソ姦通ヲ爲シタル者ハ刑法ニ依リ科罰ヲ受クルコトナシ 佛國民法
第二百九十八條ト異ナリ

第八十條 議院證書ニ因リ離婚ノ言渡ヲ受ケタル時ハ諸般ノ財產
ニ付キ所有者タル可シ但シ他ニ議院證書ニ因リ命令シタルコトアル
時ハ格別ナリ

婦姦通ヲ爲シタル時ハ遺婦產ヲ受クルノ權理ヲ失フ可シ但シ婚姻
契約書ニ因リ遺婦產ヲ豫定シタル時ハ格別ナリ 佛國民法第二百九十九條ト異ナリ

第八十一條 夫婦別居ノ言渡ヲ爲シタル後ハ夫ノ家産ノ割合ニ應
ジ其婦ニ食料ヲ給與セシム可シト雖モ議院證書ニ因リ姦通ヲ原由
トシ離婚ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其家産ノ贏餘スルモ婦ノ放逸ヲ續
行セシメサルカ爲メ該證書ニ因リ其食料ノ價額ヲ規定減殺スルヲ
常トス 佛國民法第三百一條

第八十二條 夫婦別居ノ言渡ヲ爲シタル後ハ父獨リ其子ヲ保育ス
ルノ權ヲ有スト雖モ衡平裁判所ハ若シ此父ノ行狀恒ナラサルカ又

ハ其子ヲ教育スルヲ得サルノ恐ナル時ハ之ヲ保育スル權ヲ父ヨリ
 取上ルヲ得可シ凡ソ子ヲ保育スル權理ハ其子ヲ教育シ及ヒ養料
 ヲ支給スルノ義務ニ連及スル者ナリ然レモ平衡裁判所ハ母ノ請願
 ニ由リ其子ニ交通スルノ能力アル可シト命令スルヲ得可シ但シ
 此婦姦通ヲ犯シ別居ノ言渡ヲ受ケタル時ハ格別ナリ佛國民法第三百
 條三
 姦通ヲ原由トシ離婚ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テハ議院ハ同上ノ
 子ノ承運ヲ定ムル者トス

第百八十三條 夫婦ハ別居ヲ爲シタル時ト雖モ其子ノ適法子タル事

又ハ其財産上ニ付テハ此子ノ權理ヲ變易スルヲ莫カル可シ

○第七篇 父母タル事及ヒ子タル事

○第一章 婚姻ニ生レタル子

第百八十四條 佛國民法第三百十二條第一項ト同シキモ左ノ諸件ヲ

追加ス可シ即チ夫又ハ他ノ關係者ハ婦ノ受胎セシ時夫ノ不在又ハ
 身體上又ハ意想上ノ現狀ニ於テ其婦ト同室シ能ハカリシヲ信認
 シ其子ノ不適法子タルヲ證明スルヲ得可シ英國法律ニ於テハ懷
 胎ノ期限ヲ定ムルヲナシト雖モ此事ニ就テハ專ラ陪審司ノ賢察ニ
 委付スル者トス

第百八十五條 夫ノ無勢力ニシテ當サニ子ヲ有スルヲ能ハカリシヲ

チ身體上ノ現狀ニ由テ證明スル時ハ之カ關係者ハ總テ此子ノ不適
 法ノ子タルヲ申告スルヲ得可シ佛國民法第三百
 十一條ト異ナリ

第百八十六條 婦其夫ト別居シ姦通ヲ爲シタルハ公衆ノ知得スル所

ナレハ其生レタル子ハ即チ不適法子タル可シト爲スモ此別居ノ
 際夫其婦ト交接セシ時ハ否ラス但議院證書ニ因リ離婚ノ言渡ヲ爲

シタル後生レタル子ニ付テハ格別議院ノ相當ト審案スル所ニ於テ
判決ヲ下セハナリ

〔第一百八十七條〕 夫婦ノ交接ハ之ニ反スルノ證據アル迄ハ尙ホ存在セ
ル者ト看做ス可シ然レモ夫婦別居ノ訴訟ヲ爲シタル時ハ其交接ノ
推定ヲ終フ可シ但協議ヲ以テ其居ヲ分テタル者ハ此限ニ在ラス

〔第一百八十八條〕 父母婚姻ヲ結ヒタル以來母ノ受胎シ得可キ時限ヨリ
最モ早ク舉ケタル子ハ其父婚姻ヲ行フタルニ因リ之ヲ我子ナリト
認メタル者ト爲シ之ヲ適法ノ子ト爲ス可シト雖モ此推定ハ破却シ
得可キ者トス佛國民法第三百
十四條ト異ナリ

〔第一百八十九條〕 父母結婚中ニ生出シ得可キニ其父ノ死亡後最モ晩ク
生レタル子ハ之ヲ不適法ノ子タリトス然レモ是レ裁判所及ヒ陪審
司ニ於テ似相上ノ顯證ヲ要スル所ナリ佛國民法第三百
十五條ト異ナリ

〔第一百九十條〕 適法ノ子タルコトヲ抗辨スルコトハ一切ノ定期アルコトナシ
然レモ久延ナル認諾ハ適法子タルノ推定ヲ起サシメ出訴ノ權ヲ終
ラシムル者トス佛國民法第三百十六條ヨリ
第三百十八條迄ト異ナリ

〇第二章 子タルノ證及ヒ適法子タルノ證

〔第一百九十一條〕 公正ノ簿冊即チ氏生證書ニ於ケル出產又ハ洗禮ノ記
入ハ其子ノ適法子タルノ推定ニ供スル者ナルモ此推定ハ他ノ證據
ニ由リ之ヲ排撃シ又ハ之ヲ變易スルヲ得可シ佛國民法第三百十六
條及ヒ第三百二十條

ナト異
ナリ

〔第一百九十二條〕 他ノ證據ナキニ於テハ佛國民法第三百二十一條ニ規
定シタル所ノ景狀アルヲ以テ適法子タルノ推定ナリトス但此推定
モ亦他ノ證據ニ由リ之ヲ排撃スルヲ得可シ

子ト家族ノ間ニ適法ノ子ナリト言做シタル事遺囑證書ニ記載シア

ル語意、公私ヲ問ハス民生簿冊ニ於ケルノ記入墓碑、指環、聖經ニ於ケル單記及ヒ侯家ニ保存スル系圖若クハ口傳ハ等ク子ノ出產及ヒ親等ヲ推定スルノ證據ナリトス佛國民法第三百二十一條

〔第九十三條〕 何人タルヲ問ハス父ナリト假稱セラレタル者ノ子コ非スシテ他ノ者ノ子タルヲ證明シテ此父ノ子タルヲ非拒スルヲ得ヘシ但、此父ナリト假稱セラレシ者ノ血胤ト同ク法律上得ヘキ所ノ利益ヲ失フニ付テハ此限コ在ラズ

又何人タルヲ問ハス適法ノ子タルノ故ヲ以テ所有スル財産ヲ要求スルコハ子ノ適法子タルヲ諍駁スルヲ得可シ佛國民法第三百二十二條

〔第九十四條〕 適法子タル事ヲ證スルニハ常ニ證人證據ニ由ルヲ得可シ又單一ノ聞知ト雖モ明瞭ニ眞實ヲ顯出セシムルニ足ル可キ者ナル時ハ之ヲ以テ其證據トスルニ足レリトス佛國民法第三百二十三條

〔第九十五條〕 佛國民法第三百二十五條ト同シ

〔第九十六條〕 子ノ適法子タル事ヲ判定スルハ普通法裁判所ニ於ケル陪審司ノ關知スル所ナリ衡平裁判所モ亦其適法子タル事ニ疑團アル時ハ之ヲ陪審司ニ交付スル者ナリ

〔第九十七條〕 適法子タルヲ證スル爲メ充分ナル證據ヲ有スル者ハ其權理ヲ攘竊セントスル者ニ排撃スルヲ得可シ佛國民法第三百二十七條

〔第九十八條〕 適法子タルヲ訴フルコハ此子又ハ其相續人ニ於テ定期ナカル可シ然レモ制定法ニ於テ定メタル期限ノ經過シタル時ハ原告人ハ被告人ノ此定期間所有者ト同ク保有セシ所ノ財産ヲ回收スルヲ得サル可シ佛國民法第三百二十八條

○第三章 不適法ノ子ノ事

○第一款 不適法ノ子ヲ適法ノ子ト爲ス事

〔第一百九十九條〕 婚姻外ニ生レタル子ハ其父母ノ後成ノ婚姻ニ因テ適法ノ子タルヲ得佛國民法第三百三十一條乃

〔第二百條〕 不適法ノ子ハ議院證書ニ因ルニ非サレハ適法ノ子タルヲ得佛國民法ノ條

○第二款 不適法ノ子ヲ我子ナリト認ムル事

〔第二百一條〕 不適法ノ子ヲ我子ナリト認メタルモ此子ニ父ノ氏名ヲ帶用セシムルノ外一切民事上ノ權利ヲ與フルヲナシ英國法律ニ於テハ不適法ノ子ト其父トノ間ニ於ケル民事上ノ親縁ヲ認許セスシテ凡ソ不適法ノ子ニカシニユリユスヒリユス羅甸語血緣ナキナリトス佛國民法第三百四十二條

○第八篇 養子ノ事

〔第二百二條〕 養子ハ人ノ合格又ハ民事上ノ身位ヲ變換スル者ナル故

ニ英國法律ニ於テハ許認スル者ニ非ス然レモ實際ニ於テ養子法ト類同スル者アリ即チ孤子等ノ需用又ハ教育ヲ與フル者ハ之ニ契約又ハ生存中ノ贈遺若クハ遺囑贈遺ニ因リ己レカ名氏又ハ徽號ヲ承襲セシムルヲアリテ又裁判所ハ其養育者ノ親愛及ヒ感格ニ由リ養子ノ功効ヲ許認セルアリ今之ヲ例スルニ人己レカ家族ニ於テ養育スル所ノ女子ヲ餘人力姦セシ時ノ如ク之カ爲メ其損害ノ償ヲ求ムルハ當ニ己レカ此女子ニ對スル責務ヲ妨害セシカ故ナルノミナラズ其親愛スル所ノ目的ニ重大ナル凌辱ヲ受ケシカ故ナリ○養育ヲ受ケントスル者ハ己レカ父ト其養育ヲ爲サントスル者ノ間ニ於テ一旦己レテ養ハントシテ協議シタル後其相互ノ契約ヲ取消シ、時ハ其養育者ニ對シ己レカ教育ニ就テノ需用又ハ身位ニ相當セル給與ヲ受ケント訴フルヲ得可シトス佛國民法第三百四十三條乃

○第九篇 父タルノ權理

〔第二百三條〕 佛國民法第三百七十一條乃至第三百七十三條ト同シ

〔第二百四條〕 子ハ父ノ許諾ヲ得スシテ其父ノ住居又ハ己レニ示定セ

ラレタル居宅ヲ立去ル可カラス

〔第二百五條〕 父ハ國安ヲ害セサルニ於テハ威力ニ依リ又ハ司法權ニ

依リ其子ノ身體ヲ保管スルヲ得可シ但父ノ不忍言ノ醜行又ハ苛酷

ノ待遇アル時ハ格別ナリ此場合ニ於テハ衡平裁判所ハ此子ニ後見

人ヲ任命シ而シテ其父ヲシテ此子ニ養料ヲ給セシムル者トス佛國民法

第三百七十三條ト異ナリ

〔第二百六條〕 父ハ施體又ハ閉居等ノ手段ヲ以テ幼年ノ子ヲ穩當ニ矯

正スルヲ得可シト雖モ尋常官吏ノ吟味ニ係ル可キ重罪又ハ輕罪ヲ

犯セシ時ニ非サレハ此子ヲ懲治監ニ禁錮スルヲ得ス普通法裁判

所又ハ衡平裁判所ハ父ノ其子ヲ遇スル甚ク嚴酷ナルカ又ハ父タル

ノ威權ヲ濫用スルノ場合ニ非サレハ決シテ之カ中裁ヲ爲サ、ルナ

佛國民法第三百七十五條ヨリ第三百八十條ト異ナリ

〔第二百七條〕 不適法ノ子ノ父ハ假令ヒ其子トノ間ニ法律上ノ親縁ヲ

存セスト雖モ之ヲ當然ノ後見人ト看倣シ此子ノ教育又ハ給養ヲ擔

當セシム可シ然レモ此子若シ教區内ノ負擔ヲ受クル時ハ貧院官吏

ハ此子ニ對シ父タルノ愛子及ヒ保護ヲ與フルモノトス

母モ亦不適法ノ子ヲ保育看顧スルヲニ付キ之ヲ負擔セント請願ス

ルニ於テハ法律上先班ノ權アリトス而シテ父此子ヲ引取リタル時

ト雖モ母ハ己レニ其子ヲ還付セシムルノ權アリ

〔第二百八條〕 父及ヒ母ハ其子ノ財産ニ付キ尋常後見人ノ有スル權理

ノ外他ニ一切ノ權理アルヲナシ而シテ此子ノ幼年間ハ其財産ノ入

額ヲ收領スルモ其丁年ニ至ル時ハ之カ計算ヲ爲ス可キノ責務アリ
トス佛國民法第三百八十四條ト異ナリ

第二百九條 父ハ後見人ト等ク子ヲ養育スル爲メ供用セル費額ヲ以テ此子ノ負債ト爲ス可カラス何トナレハ父ハ其子ヲ給養ス可キノ義務アレハナリ但父ノ家産充分ナラサルカ又ハ此子ノ念欲若クハ産業ヲ營ムニ付キ其費額ノ過大ナル時ハ格別ナリ此場合ニ於テハ衡平裁判所ハ子ノ財産ニ付キ父ノ受ク可キ金額ヲ定メタル者トス然レモ母ハ其子ヲ給養ス可キノ責務アル者ニ非サルカ故ニ假令ヒ己レニ充分ナル家財ヲ有スル者ト雖モ其子ノ財産ニ付キ之カ教育ニ充ツ可キ金額ヲ受クルヲ得可シ佛國民法第三百八十五條及第三百八十六條ト異ナリ

第二百十條 父ハ其子ト同居シ又ハ其給養ヲ支辨スル時ハ其子ノ勞働及ヒ其子ノ財産ヨリ生スル潤益ヲ受クルノ權アリ佛國民法第三百八十七條

○第十篇 幼年クル事 後見人ノ事及ヒ後見免脱

○第一章 幼年クル事

第二百十一條 佛國民法第三百八十八條ト同シ

○第二章 後見ノ事

○第一款 父及ヒ母ノ後見ヲ爲ス事

第二百十二條 父ハ適法ノ子ノ後見人タリ然レモ此父ノ行狀正シカラサル場合ニ於テハ衡平裁判所ハ他人ヲ以テ此父ニ代ヘ此子ノ後見人ニ任スルヲ得可シ○父ハ他ノ後見人ト同ク子タル者ノ財産ヨリ生スル利益ニ付キ計算主任者タリ佛國民法第三百八十九條

第二百十三條 父ハ遺囑證書ニ由リ又ハ己レカ意思ヲ表スルニ充ツ可キ他種ノ證書ニ因リ其妻ヲ除クカ若クハ其妻ト共ニ後見ヲナサシムル爲メ其適法ノ子ニ後見人ヲ與フルヲ得可シ佛國民法第三百九十一條

三百九十七條

父若シ此子ノ後見人ヲ任命シテ死去シタル時ハ母ハ即チ後見人タル可シ佛國民法第三百九十九條

第二百十四條

同上ノ子遺物相續ニ因リ父又ハ祖先父ヨリ傳來セル

「ソカアシユ」ニ於ケル財產俟家ニ年貢ヲ拂フ可キ貴務アル不動產又其年貢ヲ拂フナキモ食邑ノ名義ニ於ケ

タル不動產ヲ所有スル時ハ母ハ此財產ニ付キ後見ヲ爲スヲ得ルモ佛國民法第三百九十九條

此子ノ年齢十四歳ニ達スル迄ヲ以テ之カ限リトス佛國民法第三百九十九條

第二百十五條

子ニ父母共ニ亡キ時ハ「ソカアシユ」ニ於ケル財產ニ就

テノ後見ハ此子ノ死去ノ場合ニ於テ此財產ノ相續ヲ爲ス能ハサル

最近ノ親ニ屬ス可シ

第二百十六條

父ハ子ノ後見ヨリ其妻ヲ除クノ權アリ又妻ヲ以テ其

子ノ後見人ト爲スモ己レカ相當ト審案スル所ニ於テ其權限ヲ定ム

ルノ權アリ又父ハ凡テノ後見人ノ權力ヲ節減スルノ權アリトス佛國民法第三百九十九條

條第三百九十九條

第二百十七條

父ハ子ノ己ニ生出セシ者ト同ク母ノ懷内ニ在ル子ニ

後見人ヲ任命スルヲ得可シ然レモ普通法ニ依レハ凡ソ死者ニ子

ノアジナル時ハ財產相續ノ權理ヲ有スル者ハ死者ノ子ノ生出セサ

ル以前ニ在リテ此財產ヲ保有スルヲ得可シトス但此子ノ生出セシ

後此財產ヲ返還ス可キハ勿論ナリ佛國民法第三百九十九條

第二百十八條

父ハ其妻ノ受胎セサル以前又ハ再婚ヲ爲ス時ハ其妻

タリシ者ノ産出シ得可キ所ノ子ニ後見人ヲ任命スルヲ得可シ

第二百十九條

子ハ母ノ看護ヲ求ムルノ權アリ然レモ母ハ其子ノ後

見ヲ許諾スルニ及ハサル者トス佛國民法第三百九十四條

第二百二十條

母ハ再婚ヲ爲スモ其前婚ニ舉ケタル子ニ於ケル後見

ノ權ヲ失フコトナシ

〔第二百一十一條〕 再婚ノ夫ハ其妻ノ前婚ニ舉ケタル子ニ於ケル後見ヲ爲スニハ特別ニ後見職ニ任セラル、カ又ハ其妻ト共ニ之ヲ行フ者カハ英國民法ニハ見ヘサルナリ佛國民法第三百九十六條ト異ナリ

○第二款 後見人ヲ任スルノ權

〔第二百二十二條〕 後見人ヲ撰定スルノ權ハ獨リ父タル者ニ屬ス可シ母ハ祖父母ト等シ同上ノ權ナシトス佛國民法第三百九十七條ト異ナリ

〔第二百二十三條〕 同上ノ權ハ遺囑證書又ハ證人二名以上ノ面前ニ於テ作成セル證書ニ因リ之ヲ行フ可シ然レモ該證書作成ニ就テハ法律上一切ノ書式ヲ定メス只父ノ意思ヲ表スル者ヲ以テ足レリトス

佛國民法第三百九十八條

〔第二百二十四條〕 父ハ相當ト審案スル所ニ於テ後見人ノ員數ヲ定メ

而シテ此後見人等ヲシテ共同又ハ各自ニ共示定シタル要務ヲ行ハシムルヲ得可シ又父ハ此後見人ニ意見ヲ與フ可キ者一名若クハ數名ヲ任命スルヲ得可シ

〔第二百五條〕 父ニ依テ撰定ヲ得タル後見人ハ其後見ヲ辭退スルヲ得可シ此場合ニ於テハ衡平裁判所ハ他ノ後見人ヲ撰任スル者トス佛國民法第四百一條ト異ナリ

○第三款 尊屬親又ハ此他親族ノ後見ヲ爲ス事

〔第二百二十六條〕 父母共ニ死去シ而シテ此父ノ撰任シタル後見人ナキ時ハ祖父又ハ他ノ尊屬親ハ當然ノ後見人ト同ク普通法ニ從ヒ後見人タル可キ者トス佛國民法第四百二條

〔第二百二十七條〕 父方ノ祖父ト母方ノ祖父ト互ニ相競フ時ハ假令ヒ普通法ニ於テ父方ノ尊屬親ハ母方ノ尊屬親ヨリ優等ニ置ク者ナルモ

雙方ノ中一方ノ最初ニ子ヲ引取リシ者ニ其後見ヲ爲サシム可シ佛國民法第四百四二條乃至第四百四四條

〔第二百二十八條〕「ソカアジユ」ノ財産ニ於ケル後見ニ就テハ英國民法

第二百十四條及ヒ第二百五條ヲ參觀ス可シ

〔第二百二十九條〕凡ソ子ハ自カラ後見人ヲ撰定スルヲ得可シト雖モ

此場合ニ於テハ衡平裁判所ハ更ニ他一名ノ後見人ヲ任命スルヲ常トス

〔第二百三十條〕何人タルヲ問ハス(祖父兄弟等ヲ云フ)諸某ヲシテ後見

ヲ爲サシム可キノ契約ニ於テ財産所有權ヲ幼者ニ讓與スルヲ得可

シ而シテ幼者ノ父之ヲ許諾スル時ハ父ハ此財産ニ於ケル後見ノ權

理ナカル可シトス佛國民法第四百五條

○第四款 裁判所ヨリ任命シタル後見ノ事

〔第二百三十一條〕國王ハ全國ノ大父ノ如クシテ幼者ノ總後見人タリ

故ニ國王ハ後見ノ職務ヲ衡平裁判長ニ委付シ幼年ニシテ後見人ヲ

有セサル者ニ其後見人ヲ任與セシメ又ハ幼者ノ父ト雖モ慈愛ヲ缺

ク者ヲシテ其後見職ヨリ除退セシム凡ソ衡平裁判所ハ幼者ノ身體

又ハ其財産ニ關シ其管轄權ヲ行フヤ其相當ト審案スル所ニ於テ幼

者ノ最近ノ親族ノ意見ヲ聞クヲ常トス佛國民法第四百十六條ト異ナリ

〔第二百三十二條〕教門裁判所ニ於テモ亦幼者ノ人權ニ關スル財産ヲ

管理スル爲メ之ニ後見人ヲ任命スルヲ得可シ而シテ此他ノ裁判所

モ皆幼者ニ關シ訴訟アル時ハ之ニ「アトリテム」訴訟ニ於ケル後見

人ヲ任命スルヲ得可シ

〔第二百三十三條〕衡平裁判所ハ英國殖民地内ニ在ル幼者ノ財産ニ付

キ特別ノ管理人ヲ任命スルヲ得可シ又此殖民地ノ裁判所ヨリ此幼

者ノ財産ニ付キ別個ノ後見人又ハ管理人ヲ任命シタル時ハ此等者ノ職務ハ全ク衡平裁判所ヨリ任命シタル者ノ職務ト殊別スル者トス佛國民法第 四百七十七條

〔第二百三十四條〕 衡平裁判所ヨリ任命シタル後見人ノ權力ハ其任命ヲ受ケタル日ヨリ始マル可シ佛國民法第 四百十八條

〔第二百三十五條〕 父ノ遺囑證書ニ因リ撰任ヲ受ケタル後見人ハ己レカ畢世間又ハ遺囑證書ニ於ケルモ其後見ノ職務ヲ他人ニ讓渡ス可カラズ但、其幼者ノ父ヨリ允許ヲ受ケシ時ハ格別ナリ○凡ソ後見ノ職務ハ後見人ノ死去後其相續人ニ移ル可キ者ニ非スト雖モ其代理人ハ後見人ノ行ヒタル錯誤ニ付キ其責ニ任ス可シトス佛國民法第 四百十九條

○第五款 後見人ト幼者ノ間ニ於ケル訴訟

〔第二百三十六條〕 衡平裁判所ハ後見人ト後見ヲ受クル幼者トノ間ニ

於ケル權利ニ故障アル場合ニ於テハ之カ中裁ヲ爲ス者トス又後見人カ怠慢ヨリシテ幼者ニ權利ヲ失ハシムルニ至ル時ハ幼者ハ常ニ親友最近ノ親ニ依リ其後見人ニ對シ訴訟ヲ爲スヲ得可シ然レモ此者ハ親友裁判所ノ宣告ヲ受クルニ非サレハ此後見人ヲ更迭スルヲ得ス又己レカ中裁ヲ擯斥セテラレタル場合ニ於テハ其訴訟ニ付テノ費用ヲ擔當ス可シ佛國民法第 四百二十六條ト異ナリ

○第六款 後見職ヲ辭退スル事

〔第二百三十七條〕 後見職ハ決シテ公務ニ非サルカ故ニ何人タルヲ論セズ之ヲ承諾ス可キ責務ト雖モ裁判所ハ一旦後見ノ職ヲ承諾シ又ハ之ヲ奉行セシ者ニ之ヲ續行セシムルヲ得可シ但、後見職ヲ辭退スルニ重要ナル原由アルカ又ハ幼者ノ最近親族ノ贊成アル時ハ格別ナリ然レモ法律ニ依リ任命スル後見職即チ普通法ニ從ヒ任命ス

ル或種後見職ノ如キハ其任ヲ受ケタル者ハ之ヲ辭退スルヲ得可
カラスト云フ

無償ニシテ後見ヲ行フヲ肯スル者ナキ時ハ衡平裁判所ハ有償ノ收
獲者ヲ任ス可シ此者ハ幼者ノ財産ヨリ生スル入額ノ割合ニ準シ其
給料ヲ扣除ス可キ權アリ 佛國民法第四百二十七條乃至第四百四十一條ト異ナリ

○第七款 後見ノ職ニ任スルニ不合格ナル事及ヒ後見ノ職
ヲ罷ムル事

〔第二百三十八條〕 幼者及ヒ瘋癲、白痴、啞、盲、聾ノ者ハ「ソカアジユ」ノ財産
ヲ有スル幼者ノ後見人タルヲ得ス 佛國民法第四百十四條

〔第二百三十九條〕 凡テ父ノ任命シタル幼者ノ後見人又ハ普通法ニ依
リ撰定シタル後見人ハ司法權ノ監督ヲ受ク可シ而シテ幼者ノ身體
又ハ財産ヲ管理スルコ之ヲ危險ニ陷ラシメ又ハ之ヲ冒用スルノ事

見ハル時ハ此後見人ヲシテ其後見ノ職ヲ免黜セシム可シ
詐欺ニ係ル倒産ヲ爲シタル者ハ後見職ヲ免黜ス可シ 佛國民法第四百三條

〔第二百四十條〕 遺囑ノ後見人ハ全ク後見ノ職ヲ免黜セラルヲ無カル
可シト雖モ裁判所ハ幼者ノ財産及ヒ教育ヲ辨理セシムル爲メ更ニ
別個ノ後見人ヲ任スルヲ得可シ

〔第二百四十一條〕 遺囑ノ後見人ハ叛逆又ハ他ノ重罪ヲ犯シタルニ付
キ刑ノ言渡ヲ受クルカ又ハ法外除置ノ言渡ヲ受クル者ト雖モ之カ
爲メ後見ノ職權ヲ奪ハル、ヲ無カル可シ而シテ此者ハ衡平裁判廳
ヨリ其後見職ヲ免黜スルノ言渡ヲ受クル迄ハ尙ホ之ヲ執行スルヲ
得可シ 佛國民法第四百四條

○第八款 後見人ノ權限及ヒ職務

〔第二百四十二條〕 何人タルヲ問ハス幼者ノ友朋ト同ク幼者ノ爲メ裁

判所へ代訴スル者事實ノ真正ニ幼者ノ權利ヲ計リタル者ナル時ハ可成丈其訴訟ヲ爲シタル事ニ付キ之ヲ勸獎賞稱スルヲ以テ一般ノ規則トス佛國民法第四百五十條

〔第二百四十三條〕 後見人ノ權限ハ「ソカアシユ」ノ後見、遺囑ノ後見、當然ノ後見又ハ裁判所ヨリ任命シタル後見等ノ種類ニ從ヒ各其異趣アリ即チ遺囑ノ後見人及ヒ裁判所ヨリ任命シタル後見人ノ權限ハ最モ弘大ニシテ他諸種ノ後見人ノ權限ヲ包有スル者ナリ當然ノ後見人ノ權限ハ幼者ノ身體ヲ監護スルノミニシテ又此權限ハ「ソカアシユ」ノ後見人カ之ヲ許認スル時間ノミ行ヒ得可キ者トス然レモ「ソカアシユ」ノ後見人ハ幼者ノ身體上ト財産上トニ其職權ヲ及ホス者ナリ但此後見ノ職務ハ幼者「ソカアシユ」ニ於ケル財産ヲ所有スル時ノミ行フ者ナリ英律第四百五十四條參看佛國

〔第二百四十四條〕 後見人ト幼者トニ於ケル互相ノ權理及ヒ義務ハ其後見ノ職務ノ繼續スル時間ハ恰モ父子ニ於ケル者ト同一ナリ父ノ遺囑セシ後見人ノ權理ハ其子ノ二十一歳ノ年齢ニ達スル迄又ハ父ノ示定シタル後見免脱ノ期ニ達スル迄ハ父タル權ノ繼續セル者ナリトス凡ソ幼者ノ爲メ一家ノ善政及ヒ譽榮ヲ計リ諸事ヲ執行スルハ後見人ノ職務ナリ又後見人ハ幼者ニ支給ス可キノ義務アリト雖モ其教育及ヒ給養ノ費用ヲ擔當スルニ及ハサルヲ回視ス可シ

〔第二百四十五條〕 後見人ハ幼者ノ身體ヲ謀ル者アルニ於テハ裁判所へ訴へ此幼者ヲ保留スルノ權アリ

〔第二百四十六條〕 後見人ハ一已ノ利益ニ於テ其幼者ト財産買受ノ契約ヲ取結フモ其効無カル可シ佛國民法第四百五十七條

〔第二百四十七條〕 後見人ハ幼者ノ丁年ニ至ラサル時間又ハ此期限ヨ

リ久延スルモ衡平裁判所ノ允可ヲ經タル時ハ幼者ノ財産ヲ貸貸スルヲ得可シ佛國民法第千四百二十九條ト異ナリ及ヒ

〔第二百四十八條〕

後見人ハ幼者ノ財産ヲ賃借スルヲ得可シ佛國民法第百四

十百五

〔第二百四十九條〕

一ソカアジユニ於ケル後見人及ヒ遺囑ノ後見人ハ幼

者ノ名義ニ非スシテ自己ノ名義ニ於テ後見ノ諸事ヲ行フ可シトス

然レモ普通法ニ依テ定メタル當然ノ後見人又ハ司法權ニ依リ任命

シタル後見人ハ同様ナラサル者ノ如シ

〔第二百五十條〕

後見人ハ其職務ヲ行フニ怠慢又ハ有心故造ノ失敗ニ

付テハ其責ニ任ス可シ又其職務ヲ行フニ當リ其代理人ノ爲シタル

過失ニ付テモ亦然リ佛國民法第百四十九條ト異ナリ

〔第二百五十一條〕

後見人其職務ヲ行フニ幼者ト爭論ヲ生ス可キ危險

ヲ慮リ豫メ衡平裁判所ノ允許ニ依ルニ非サレハ幼者ノ爲メ他人ニ

對スル訴訟ヲ爲ス可カラサル事及ヒ衡平裁判所官吏ノ面前ニ於テ

毎歲幼者ノ財産ニ付キ計算ヲ爲サンコトヲ請陳スルヲ得可シ又後見

ノ事件ニ付キ困難ナル場合アルニ於テハ後見人ハ衡平裁判所ニ訴ヘ

而シテ衡平裁判所官吏ニ命シ之ニ報告書ヲ作ラシメ及ヒ其措置ノ

果シテ幼者ノ利益ナルマ否ヲ申述セシムルコトアリ是最モ稠密ナル

方法ト云フ可シ佛國民法第百四十七條ト異ナリ

〔第二百五十二條〕

後見人ハ幼者ノ財産ニ於ケル計算ニ就キ爭論ノ生

セシコトヲ豫防スル爲メ其財産目錄ヲ作ラシムルコトヲ得可シト雖モ此

事ニ付テハ一切ノ期限及ヒ方式ノ要ス可キ者アルナシ又後見人ハ

幼者ニ對シ有スル所ノ債主權ニ付テモ一切ノ定則アルコトナシ佛國民法

第百五十一條ト異ナリ

第二百五十三條

凡ソ幼者ノ所有スル動産ハ後見ノ名義ヲ帶ヒタル者ノ手ニ在ラスシテ遺囑執行人又ハ遺囑外ノ財産ニ於ケル法定ノ

管理人ノ掌ル所ナリ而シテ此執行人又ハ管理人ハ此財産ヲ賣拂ヒ

又ハ之ヲ息貸シ又ハ幼者ノ丁年ニ至ル迄之ヲ所有スルヲ得ル者ナ

リ 佛國民法第四百五十二條
第四百五十三條ト異ナリ

第二百五十四條

後見人ハ幼者ニ給養ヲ與ヘ及ヒ教育ヲ爲スニ幼者ノ年齢及ヒ家産ト身位トニ從ヒ賢父タル者其幼者ノ爲メ費用シ得

可キ所ノ金額ヲ仕拂フヲ得可シ衡平裁判所ハ後見人ノ請願アルニ

因リ幼者ノ景狀ニ從ヒ此金額ヲ定ム可シ 佛國民法第四百五十四條

第二百五十五條

前ニ記スル所ノ者ノ外總テ幼者ノ財産ヨリ生スル入額ハ保證ヲ受ケ息貸ス可キ者ナリ後見人ハ己レニ受取リタル幼

者ノ金高ト利息等ニ就キ其責ニ任ス可シ然レモ後見人ハ私ノ擔保

ニ於テ之ヲ息貸スルヲ得スシテ必ス政府ノ擔保若クハ不動産書

入質ニ於テ之ヲ息貸ス可シ 佛國民法第四百五十六條

第二百五十六條

後見人ハ財産相續ノ順序ヲ更迭スルニ係リテハ物權ニ關スル財産ヲ人權ニ關スル財産ニ換ヘ又ハ人權ニ關スル財産

ヲ物權ニ關スル財産ニ交ヘ其財産ノ性質ヲ變更ス可カラズ而シテ

後見人ハ幼者ノ物權ニ關スル財産ヲ賣拂フヲ得ス然レモ後見人

幼者ノ利益ト爲ル可キヲ確正ナル時ハ其財産ノ性質ヲ變更スルヲ

ヲ得可キ者ノ如シ 佛國民法第四百五十七條ト異ナリ

第二百五十七條

後見人ハ衡平裁判所ノ允可ヲ經テ幼者ノ爲メ物權ニ關スル財産ヲ購求スルヲ得可シト雖モ財産相續ニ係リテハ此

財産ヲ以テ人權ニ關スル財産ナリトス

第二百五十八條

後見人ハ幼者ノ盡ス可キ責務及ヒ不動産ニ就テノ

負債ヲ拂フ爲メ幼者ノ資本金ヲ仕拂フヲ得可シト雖モ此金額ハ
人産ニ關スル財産ナリトス

第二百五十九條 後見人ハ幼者ノ財産ヲ書入質ト爲スヲ得ス佛國
第七百五十七條

第二百六十條 後見人ハ幼者ノ財産ヨリ生セシ入額ノ利子拂方トシ
テ他人ヨリ手形金ヲ受取ルヲ承諾スル時ハ此手形金ニ就キ其責
ヲ受ク可シ

第二百六十一條 後見人ハ他人ヨリ幼者ニ爲シタル贈遺ヲ受領スル
ノ權無カル可シ

第二百六十二條 英國ニ於テハ後見人ハ幼者ノ他人ト共通スル財産
ヲ平等ニ分派シ幼者ノ損失トナラサル時ハ此分派ヲ爲スヲ得可
シト云フ要スルニ衡平裁判所ノ許諾ヲ以テ同上ノ財産ヲ分派スル

時ハ假令ヒ幼者ハ丁年ニ至テ之カ調査ヲ請願スルヲ得可シト雖モ
斯ノ如クシテ分派ヲ爲ス時ハ幼者ヲシテ之ニ從ハシメサルヲ得サ
ル者ノ如シ抑幼者ハ議院ノ證書ニ依ルニ非サレハ責務ヲ負ハサル
可シト雖モ新法ニ依レハ衡平裁判所ハ數個ノ場合ニ於テ幼者ニ代
リ訴訟ヲ爲シ又ハ幼者ノ利益ヲ計リテ管理人ヲ任命スルヲ得可キ
者ナリ然レハ則チ該裁判所モ亦幼者ヲシテ責務ヲ負ハシムルヲ
得ル者ナリ佛國民法第四百六十五條及
第四百六十六條ト異ナリ

第二百六十三條 後見人ハ幼者カ他人ト共有スル不動産ニ就テハ共
所有權ヲ賣拂フヲ得ス此不動産ニ就テハ他ノ共有者ノミ己レカ
所有權ヲ賣拂フヲ得可シトス佛國民法第二百六
十五條ト異ナリ

第二百六十四條 後見人ハ幼者ノ得可キ權理ニ就キ其負債主ノ義務
ヲ盡ス能ハサル時ノ如ク緊要ナル場合ニ於テハ和解ヲ爲スヲ得

可シト雖モ皆己レカ危險ニ歸スルモノナリ○後見人ハ幼者ニ入額ヲ拂フ者ニ受領證ヲ出スヲ得可シ又地主ニ地料ヲ拂フヲ得可シ
佛國民法第四百六十七條ト異ナリ

○第九款 後見人ノ算計

第二百六十五條 佛國民法第四百六十九條ト同シ

第二百六十六條 凡ソ後見人又ハ幼者ノ父ト雖モ其後見ヲ受クル者

ノ幼年ナル時間ハ此幼者ノ親友ノ請求アルニ於テハ衡平裁判所ヘ其後見ノ諸事ニ付テノ算計ヲ爲サハル可カラス
佛國民法第四百七十一條ト異ナリ

第二百六十七條 後見ノ諸事ニ付キ正當ニ仕拂フタル費額ト其算計

ノ費用トハ之ヲ後見人ニ償フ可シ
佛國民法第四百七十一條第二項

第二百六十八條 後見ヲ受クル者丁年ニ達セシ時ハ後見人ヨリ其計

算ヲ爲スヲ免除シ又ハ此算計ヲ爲サシメタルモ之ヲ調査セスシ

テ其後見ノ任ヲ解除スルヲ得可シ○後見人ト此丁年ニ達セシ者トノ間ニ於テ充分ナル理由ニ依リ約定シタル和解ハ此後見ヲ受ケタル者ヲシテ其責務ヲ負ハシム可シ但後見人ノ詐欺ニ出ルカ又ハ後見ヲ受ケタル者ノ精神清寧ナラサル時等ニ於ケル和解ハ此限ニ在ラス然レモ凡ソ後見人ハ其幼者ニ關シテ己レヲ富マス可カラサルヲハ一般ノ定規ナルカ故ニ衡平裁判所ハ同上ノ場合ニ於ケルノ和解ニ付キ此定規ヲ遵行シタルヤ否ヤヲ審理スルヲアル可シ而シテ後見人ノ幼者ニ對スル威權ヨリ成リタル和解ハ其効無カル可シ
佛國民法第四百七十二條ト異ナリ

第二百六十九條 後見ヲ受ケタル者其後見人ニ對スル計算ノ訴訟ヲ

爲スヲ怠リ六箇年間ヲ經過シタル時ハ法ニ於テ他件ト同ク出訴ノ權ヲ失フヘシ但後見人ノ詐欺ニ係リタル事アルニ於テハ此限ニ

在ラス佛國民法第四百七十五條ト異ナリ

第二百七十條 後見人ハ後見ヲ受ケタル者ノ丁年ニ達セシ以後又ハ其者ノ幼年間ニ於ケル出納ニ付キ計算ヲ終ヘサル以前尙ホ其者ノ財産管理ヲ繼行スル時ハ全ク後見繼續ナリトス此場合ニ於テハ其者ト後見人トノ間ニ爲シタル和解ハ其者ノ幼年時間ニ成リタル者ト看做ス可シ

〇第三章 後見免脱

第二百七十一條 後見免脱ハ幼者ノ民事上ノ能力ヲ改更スル者トシ英國法律ニ於テ認許セサル所ノ者ナリ他再婚ノ事ニ就テ之ヲ觀レハ幼年ニシテ婚姻ヲ行フタル者ハ此婚姻ヲ行フヲ以テ全ク後見ヲ免レタル者ト同視セラレ其再婚ヲ行フニ當テハ親屬ノ許諾ヲ受クルヲ必要ト爲サ、ル者ノ如シ然レモ凡ソ二十一歳以下ノ男子ハ假

令ヒ婚姻ヲ行フコアルモ後見ヲ免ル、コヲ得サル可シ但女子ハ其婚姻ヲ行フヲ以テ後見ヲ免ル可シトス佛國民法第四百七十六條乃至第四百八十七條ト異ナリ

〇第十一篇 丁年者瘋漢浪費

〇第一章 丁年ノ事

第二百七十二條 丁年ハ男女ヲ問ハス二十一歳トス佛國民法第四百八十八條
丁年ハ出産ノ週年ニ當ル日子ノ滿チタル後之ヲ得了ス

〇第二章 瘋漢

第二百七十三條 白痴ト瘋癲トニ殊別アリ佛國民法第四百八十九條ト異ナリ

第二百七十四條 白痴ハ天稟知覺ヲ喪失スル者又ハ天稟ノ聾、啞、盲ナル者ヲ云フ此等者ノ身體ヲ保護シ及ヒ財産ヲ管理スルノ權理ハ王家ニ屬ス可シ則チ王家ハ人民ノ總後見人ノ如クシテ白痴ノ生存中其財産ヲ毀損セスシテ此財産ヨリ生スル利益ヲ享ク可シ但シ此白

痴ノ需用ヲ給與シ及ヒ其死亡後ニ至リ相續人ニ此財産ヲ還付スル
事ハ格別ナリ

〔第二百七十五條〕 瘋癲ハ疾病憂悶災難等ニ係リテ精神知覺ヲ喪失セ
シ者又ハ聾啞盲ト爲リタル者ヲ云フ英國王ハ之カ後見人ト看做サ
ル可シト雖モ只此等者ノ身體及ヒ財産ヲ保護管理スルノミニシテ
此財産ヨリ生スル利益ヲ享クルノ權理ナカル可シ又此等者平常ニ
復セシ時ハ此財産ヲ還付スルナリ

〔第二百七十六條〕 何人タルヲ問ハス(父母友朋債主トテ論セス)知覺ヲ
喪失セシトスル者ニ對シ檢視ヲ受ケシメント訴フルヲ得可シ然レ
モ此者ノ財産ヲ王家ニ付與セサルカ爲メ此者ハ天稟ノ白痴ナリト
申陳スル者アルハ僅少ナリ 佛國民法第四百九十九條及ヒ
第四百九十一條ト異ナリ

〔第二百七十七條〕 檢視ヲ受ケントスル者ハ其旨ヲ衡平裁判所へ訴フ
可シ而シテ該裁判所ハ之カ檢視ヲ緊要ナリト審案スルコ於テハ其
被告人カ知覺ヲ喪失セシヤ否ヲ審閱シタル後之ヲ公宣スル爲メ陪
審司ノ徵召ヲ擔當スル官吏ヲ任命ス可シ 佛國民法第四百
九十二條

〔第二百七十八條〕 凡ソ瘋癲者又ハ其友朋ハ瘋癲者ノ職務任命ヲ拒辭
スルヲ得可シ又瘋癲者職務ヲ命セラレタル時ハ代人若シハ代言師
ニ依リ其旨ヲ訴へ之ヲ固辭ス可シ此代人等ハ陪審司ノ論告ヲ抗辨
シ又ハ延期ヲ請願スルヲ得可シ 佛國民法第四百九
十六條ト異ナリ

〔第二百七十九條〕 檢視法ニ依レハ某ハ瘋癲者ナリト申告セラレタル
時ハ此者ノ身體及ヒ財産ヲ保管スル爲メ管財人ヲ任命ス可シトス
〔第二百八十條〕 檢視書ニ就キ故障ヲ申述ル者アル時ハ衡平裁判所ハ
再ヒ檢視ヲ命スルヲ得可シ

〔第二百八十一條〕 檢視書ニハ何ナル年月ヨリ其者ノ知覺ヲ喪失セシ

ヤ及ヒ其者ハ問平常ニ復スルコトナキヤテ記載ス可シ而シテ其知覺ヲ喪失セシ者トノ言渡ヲ受ケクル以後ニ於テ其者ノ記シタル諸般ノ約定書ハ其効無カル可シ但此者平常ニ復シタル時間ニ於テ記シタル約定書ハ此限ニ在ラス佛國民法第五百零二條ト異ナリ

〔第二百八十二條〕

瘋癲者ノ取結ヒタル契約書ハ其者ノ死亡後ニ至ル

モ精神放失セシノ故ヲ以テ此契約ヲ取消サント訴フルコト得可シ又

假令ヒ瘋癲者ニ管財人ヲ任與セカリシ時ト雖モ亦然リ佛國民法第五百零四條

〔第二百八十三條〕

通例瘋癲者ニハ管財人二名ヲ任命ス一ハ瘋癲者ノ

身體ヲ監護シ一ハ其財産ヲ管理スル者トス第一ノ管財人ハ瘋癲者

ノ死亡又ハ其瘋癲ノ繼續ニ一切關係ナキ者ヲ以テ之ニ充テ第二ノ

管財人ハ瘋癲者ノ相續人即チ財産保存ニ最モ關係アル者ヲ以テス

ルヲ例トス 佛國民法第五百零七條ト異ナリ

此原由アルニ依リ妻及ヒ親族ヲ以テ同一ニ管財人ト爲ス者多シ

〔第二百八十四條〕

瘋癲者ノ財産管理ハ專ラ其家産ニ從ヒ其利益及ヒ

安寧ヲ目的ト爲スニアリ但此者ノ有スル債主權ニ就テハ此限ニ在

ラス

〔第二百八十五條〕

父知覺ヲ喪失セシ時ハ其子ノ婚姻ニ就テノ許諾ハ

衡平裁判所之ヲ與フ可シトス佛國民法第五百十一條

〔第二百八十六條〕

瘋癲者平常ニ復シタル時ハ管財人其職務ヲ辭スル

ヲ得可シ然ル時ハ其管理セシ財産ニ就キ計算ヲ爲ス可シ佛國民法第五百十

條ニ

○第三章 浪費者

〔第二百八十七條〕

他人ヲ害スルコト無ケレハ己レカ財産ヲ隨意ニ使用

ス可シトノ原則ハ英國法律ニ於テ奉體ス可キ所ノ者ナリ故ニ浪費

ヲ爲ス者アルモ他ニ瘋癲ノ症ナキ時ハ此事ニ付キ訴訟ヲ爲スヲナシ然レモ管財人ヲ任命スルコトハ單ニ瘋癲者ニ於ケルノミナラス精神ノ衰耗又ハ年齢若クハ疾病ヨリ來レル無能力者ニ於テモ之ヲ任命スルコトアリ故ニ衡平裁判所ハ浪費ヲ爲ス者ノ財産ヲ讓受ケ或ハ之ヲ低價ニ買求メントスル等ノ契約ニ付キ仔細ニ監督ヲ爲スコトアルノミ佛國民法第五百三十三條乃至第五百五十五條ト異ナリ

○第二卷 財産

○第一篇 財産所有權ノ區別

〔第二百八十八條〕英國ニ於テ財産所有權ニ就テノ規則ハ封建制度ニ基キタルヲ以テ財産ニ就キ主本タル區別ハ動産ト不動産トニ非スシテ物權ニ關スル財産ト人權ニ關スル財産トノ區別ナリ佛國民法第五百十

六條ト異ナリト

〔第二百八十九條〕物權ニ關スル財産ハ人ノ永世又ハ畢世間所有スル不動産ヲ云フ人權ニ關スル財産ハ諸般ノ動産及ヒ何ナル期限ノ久延ナルヲ問ハス只其約定期限内ノミニ於テ入額ヲ所得スル權理等ヲ云フ其物權ニ關スル所有權ハ唯食邑ノ性質ヲ有スル者ニシテ是カ爲メ永世又ハ畢世間ノ入額所得權及ヒ土地所有權トノ二要件ヲ生セリ又人權ニ關スル所有權ハ同上ノ性質ヲ缺却シ所謂ルノルマソ古法ノ「シヤテル」家産ニシテ即チ財産ノ不動産ナルト否トニ隨ヒ物權ニ關スル「シヤテル」ト人權ニ關スル「シヤテル」トヲ區別セリ

○第一章 物權ニ關スル財産

〔第二百九十條〕土地及ヒ食邑ノ名義ニ於テ所有スル建造物ハ不動産ニシテ又其性質ニ因テ物權ニ關スル財産トス佛國民法第五百

〔第二百九十一條〕風車、水車、浴場其他機、螺釘、砲等ニ因リ土地ニ懸設セ

ル建造物ハ一般ニ不動産ニシテ物權ニ關スル財産ナリトス然レモ
同上ノ建造物ノ木材ニシテ只棧ニ因テ土地ニ懸設セサル者ハ不動
産ト看做サスシテ單純ノ「シヤテル」ノ性質ヲ有スル者トス第五百十
六條
異ナリト

第二百九十二條

前ニ記スル所ノ外商賣上ニ於テ更ニ一種ノ財産區
別アリ則チ土地ニ固着セル建造物ノ眞ニ觀節ノミニ供シタル者ナ
ルカ又ハ單ニ從僕ノ用ニ供スル者ナルカ又同上ノ建造物ハ他ノ財
産ヲ害スルコトナク取除クコトヲ得可キヤニ從テ之ヲ區別セリ即如ハ
建造物ノ物權ニ關スル財産ニ於ケル附加物ナルヤ又住居ノ權若ク
ハ藩籬等ノ如ク入額所得權ヨリ分離ス可カラサル補加物ナルヤ又
ハ他ノ物件ニ於ケル附加物ナルカ或ハ商賣品ノ如ク財産ニ關係セ
スシテ只其目的ノ財産ニ連及セサル者ナルヤヲ以テ之ヲ區別スル

ヲ原則トス是ニ因テ農作ノ土地ニ於ケル入額所得者ト商賣上ニ於
ケル入額所得者トノ間ニ於テ異殊ナル權理ヲ生スルニ至レリ則チ
此農作ニ於ケル入額所得者ハ其年間ニ建築セシ棚場等ヲ取除クコ
トヲ得ス之ニ反シ商賣上ニ於ケル入額所得者ハ譬へハ器械ヲ製造ス
ル爲メ建築セル家屋ノ假令ヒ土地ニ定着セシ者ト雖モ之ヲ取除キ
又ハ器械ヲ覆戴スル爲メ建築セシ高聳ノ家屋ヲ取除クコトヲ得可シ
抑此區別ニ就テハ多クハ各地及ヒ特別ノ慣習ニ關スル者ナレハ之
カ定則ヲ明示スル最モ難シトス即チ此事ニ付キ許多ノ裁判例アル
モ各自ニ異同アルヲ以テ知ル可シ

第二百九十三條

此規則ノ適用ハ遺物相續人ト遺囑執行人トノ間又
ハ畢世間ノ入額所得者ト財産回收者トノ間又ハ土地領有者ト侯家
トノ間ニ從テ異同アリ

凡ソ土地ニ附從スル諸般ノ物件ハ嚴シク之ヲ存留ス可シトスルモ
畢世間ノ入額所得者ト財産回收者トノ間ニ於テハ土地ニ連結セル
物件ヲ取除ク權理アルヲ以テ同上遺物相續人ト遺囑執行人トノ間
ニ於ケルヨリ更ニ寛裕ナリ然レモ土地領有者ト侯家トノ間ニ於テ
ハ最上ノ寛裕ヲ得ラル、者トス

〔第二百九十四條〕 佛國民法第五百二十條ト同シ

然レモ遺物相續人ト遺囑執行人トノ間ニ於テハ數個ノ場合ニ於テ
土地ニ就キ人工ヨリ生スル利益ト天然ノ利益トヲ區別セリ即チ土
地保有權ノ其保有者ノ過失ナシ偶然終リタル時ハ人工ノ利益則チ
「アンヘラーフ」ト名クル所ノ者ノ土地ニ附着セルモ其收穫物ハ動産
ニシテ人權ニ關スル財産ト看做シタリ之ニ反シ土地ヨリ生スル天
然ノ利益則チ草假令ヒ人モ木樹菓等ノ如キハ物權ニ關スル財産ト

リトス又樹木林木ハ一般ニ不動産ト爲スモ商賣上ノ爲メ之ヲ培植
スル時ハ動産ニシテ人權ニ關スル財産ナリトス栽培者ハ其土地ヲ
培植スルノ權ヲ終フルニ當テハ其商賣上ノ爲メ培植スル樹木ノ種
子ヲ取除クコトヲ得可シ但天然ニ生殖スル樹木ハ此限ニ在ラス

〔第二百九十五條〕

伐採期限ヲ定メ伐出シタル小樹及ヒ已ニ伐リ出シ
タル大木ハ之ヲ動産ナリトス買得者ニ伐採セシム可キ爲メ賣拂フ
タル樹木モ亦同様ナリ佛國民法第五
百二十一條

〔第二百九十六條〕

舍内ニ水ヲ灌導スル水管ハ不動産所屬ノ一部ニシ
テ財産相續人ト其執行人トノ間ニ於テハ之ヲ物權ニ關スル財産ナ
リトス然レモ侯家ト水管ヲ設置シタル守地者トノ間ニ於テハ其水
管ノ僅ニ不動産ニ所屬シテ不動産ヲ害スルコトナシ此水管ヲ取除ク
ヲ得可キ時ハ之ヲ人權ニ關スル財産ナリトス佛國民法第五
百二十三條ト異ナリ

〔第二百九十七條〕 土地ノ所有者其地ノ耕作ニ用ユ可キ爲メ備ヘタル
動産ハ釘子、螺釘等ニ因リ土地若クハ建造物ニ固着セル物ノミヲ不
動産ナリトス

故ニ侯家又ハ守地者ニ屬スル土地ヲ耕スニ用ユル獸類及ヒ農業ノ
器具土地ニ播植セサル種子ノ類ハ動産ニシテ人權ニ關スル財産ナ
リトス○野獸ハ特純ノ所有ニ屬スル者ニアラス但其獸類ノ獲殺セ
ラレタル者捕獲若クハ羈絆セラレタル者ハ此限ニ在ラス此場合ニ
於テハ此獸類ハ動産ニシテ人權ニ關スル財産ナリトス又蓄馴ノ獸
類モ亦同様ナリ然レモ唯一籠鳩、籠兔、家兔等ノ如キ籠養スル者ハ之
ヲ物權ニ關スル財産ナリトス○製造所ニ附着スル物即チ烤酒又ハ
麥酒ヲ製造スル器械等ノ如キハ財産相續人ノ爲メ物權ニ關スル財
産ノ一部ナリト看做セリ糞料ノ積累シアル時ハ耕作地ノ一部ヲ爲

シタル者ト看做サスシテ土地ニ配布シタル者ノミ之ヲ其地ノ一部
ヲ爲シタル者トス非國民法第五百二十四條ト異ナリ

〔第二百九十八條〕 總テ粘及ヒ石灰ヲ以テ不動産ニ附着シタル物品ノ
不動産ヲ害セスシテ取除クヲ得サル者ハ物權ニ關スル財産ト看
做シ之ヲ財産相續人ニ屬ス可シ但シ屋材ニ附着セル玻璃板モ亦同
様ナリ然レモ侯家ト守地者トノ間ニ於テハ此守地者ノ供用又ハ裝
飾ノ爲メ不動産ニ設置シタル物品即チ毛氈等ノ如キハ假令ヒ釘子
ニ因リ壁ニ附着セルト雖モ之ヲ取除クヲ得可シ但シ此物品ヲ取除
クニ付キ其不動産ヲ損害スルカ又ハ此物品ノ不動産ニ必要ナル時
ハ此限ニ在ラス非國民法第五百二十五條

〔第二百九十九條〕 人ノ畢世間不動産ノ入額ヲ得ルノ權ハ物權ニ關ス
ル財産ニシテ土地ノ義務ヲ得ルノ權理又ハ不動産ニ附從セル無形

物ニ於ケル諸權理又ハ不動産取戻ノ訴權ハ渾テ之ヲ物權ニ關スル
財產ナリトス佛國民法第五百二十六條

○第二章 人權ニ關スル財產

第三百條 「シヤテルベルソチール」人權ニ關スル家産ト名クル動産ハ活動物ト
否トヲ問ハス總テ容易ニ運搬シ得キ物品ヲ云フ又人ノ畢世間ヨ
リ稍短縮ナル期限ニ於ケル動産ニ付テノ諸權理ハ其期限ノ短脩
ヲ問ハス只期限ノ定メアル同上ノ權理ヲ「シヤテル、レユル」物權上ト
名クルモ亦之ヲ人權ニ關スル財產ナリトス佛國民法第五百二十八條ト異ナリ

第三百一條 義務者一身ニ止リテ人權ニ關スル財產ヲ以テ支辨ス可
キ無期又ハ畢世間ノ年金ハ假令ヒ不動産ヲ以テ其支辨ヲ擔セラ
レシ時ト雖モ單純ニ人權ニ關スル財產ナリトス然レモ物權ニ關ス
ル財產ヨリ支辨ス可キ年金ヲ以テ之ト混同視スルコト勿レ凡ソ義務

者ノ一身ニ止リ又ハ動産ヨリ生スル諸權利ハ人權ニ關スル財產ト
ス又金額ヲ目的トセル契約ノ義務ヲ得キ訴權爲替手形、銀行手形
及ヒ商社、保險會社或ハ公有地ニテ其興作ニ關シテノ株數及ヒ訴權

ハ人權ニ關スル財產ナリトス佛國民法第五百二十九條

第三百二條 物權ニ關スル財產ヲ賣拂ヒ其未タ受領セサル所ノ代金

ハ人權ニ關スル財產ナリトス

第三百三條 無期ノ年金ハ之ヲ受ク可キ者ノ許諾ナク其元金ヲ皆濟

ス可カラス但特別ノ契約アル時ハ此限ニ在ラス佛國民法第五百三十條ト異ナリ

第三百四條 佛國民法第五百三十一條第一項ト同シ

然レモ船舶ノ所有權ニ就テハ他ノ動産ノ所有權ト異殊ナル別段ノ

法則アリ

第三百五條 食邑フレイカルドニ屬スル財產ヨリ一時分離シタル物件ハ物權ニ關

スル財産トス此他佛國民法第五百三十二條ト同シ

〔第三百六條〕 遺囑贈遺者死去ノ際家屋ヲ其内ニ現在セル諸物品ト共ニ贈與セント契約シタル時ハ其家屋内ニ現在スル銀行手形及ヒ金匣ニアル金銀ヲ算入セル者トス然レモ諸般義務及ヒ抵償ハ現ニ物品ニ在ラスシテ其物品ニ就キ得可キ權利ノ證據タルニ過キサレハ之ヲ包括セサル者トス佛國民法第五百三十六條ト異ナリ

○第三章 公有、共有及ヒ私有ノ財産

〔第三百七條〕 佛國民法第五百三十七條ト同シ

〔第三百八條〕 道路、巷徑、市街ノ修繕ヲ官府又ハ郡邑ニ於テ負擔スル時ハ假令ヒ其地ニ開鑿セル作工、鑛業又ハ栽培セル樹木ノ私有ト爲ル者アルモ此道路、巷徑、市街ニ在ル者ハ公有ニ屬ス可シ又舟楫ノ通ス可キ河川、港口、海灣、海岸、海峽、碇泊場等ハ王家ニ屬ス可シ佛國民法第五百三十八條

〔第三百九條〕 遺囑セヌシテ死去スル者ノ財産及ヒ遺物相續人ナキ者

ノ財産ハ王家ニ歸屬ス可シ又所有者ヨリ返還ノ求メナキ動産ハ最初ノ占得者ニ屬ス可シ但「エハルグ」ト名クル漂泊物、沈沒物又ハ埋藏ノ寶貨ノ如キハ王家若クハ其所在地ノ侯家ニ屬ス可シ佛國民法第五百三十九條

〔第三百十條〕 砦門、壕梁、城砦、砲壘ハ王家ニ屬ス佛國民法第五百四十條

〔第三百十一條〕 「コンミュン」有共ノ財産ト名クル者ハ土地ニシテ他ニ之カ所有權ヲ有スル者アリト雖モ住民ハ此地ニ於テ己レカ耕耘ニ用ユル獸畜ヲ牧蓄スルノ權アル者ヲ云フ是レ商社、市府若クハ郡邑ノ所有トスル財産ト異ナル者ナリ佛國民法第五百四十二條

○第二篇 所有權

〔第三百十二條〕 動産即チ人権ニ關スル財産ハ特純ニ人ノ所有權ノ目的トスルヲ得可キ者タリト雖モ土地ノ所有權ニ至テハ英國法律ノ原則ニ於テ常ニ間接若クハ直接ニ於テ國王ニ屬シ國王獨リ全國ニ涉リテ之カ直接ノ所有權ヲ有スル者トス而シテ國民ハ只國王ヨリ食邑トシテ土地ヲ得ルカ或ハ祖先ノ財産相續ニ因リ之ヲ得ルカ又ハ代價ヲ拂ヒ之ヲ得ルコト有ルノミトス○往時「シユゼラン」ノ侯家ノ如キ國王ヨリ直ニ土地ヲ授領セルト看做ス可キ者ハ之ヲ「フラン、トナシエー」ト名ケ別種ノ侯家ヨリ土地ヲ授領セルト看做ス可キ者ハ之ヲ「スウ、トナシエー」ト名ク此場合ニ於テハ此侯家ハ「フラン、トナシエー」ノ如ク直接ニ食邑ヲ有セサル侯家ト看做セルカ故ナリ往昔封縣ノ世ニ在リテハ「食邑」ニ對峙シ領主ニ年貢供給等一切ノ義務ヲクシテ自己特有ノ土地即チ「アール」ト名クル者アリシカ當今英國

ニ於テハ此種ノ土地ヲ所有スルコトヲ得ス英國民法第五百四十四條ト異ナリ

〔第三百十三條〕

然レモ理論上ニ於テ國王ハ獨リ全國ノ所有者ニシテ

食邑ヲ領有スル者ハ只「入額」所得者ト做スト雖モ其實施上ニ於テハ此食邑ヲ領有スル者ハ恰モ封建政度ノ已ニ廢止セラレシ者ト等ク此土地ヲ賣渡シ又ハ讓渡シ若クハ之ヲ毀損シ或ハ之ヲ使用シ又ハ變惡ニ陷ラシムル等總テ他人ヲ損害セサルノ一要件アルコト於テハ動産ヲ隨意ニ處置スルヲ得ル如ク其所有權ハ特純ニシテ完全ナラサルハナシ故ニ侯家ヨリ食邑ヲ領有セルト看做ス可キ者ハ假令ヒ純粹ノ守地者即チ侯家ノ思念ニ因リ食邑ヲ領有スル者ト准守地者即チ侯家ノ思念ニ因ラスシテ食邑ヲ領有スル者ト殊別アルモ其間單ニ名義ノ異ナルコトアルノミニシテ其土地所有ノ權理ニ至テハ大抵同一ナリ又此者ノ權理ハ國王ヨリ直ニ食邑ヲ領有セル者ノ權理

ニ比較スルニ等ク不朽ニシテ且ツ弘大ナリ

〔第三百十四條〕 食邑ニ二種アリ一ハ特有ノ食邑ニシテ即チ之ヲ所有スル者ノ手ニ在リテ自由ニ之ヲ處置スルヲ得キ者ヲ云フ是レ此食邑ヲ有スル者ニ限り純粹ノ處置權アル者ナリ一ハ特有ニ非サル食邑即チ是コシテ之ヲ所有スル者ノ財産相續人タル可キ者ニ損害ヲ釀スコアル時ハ之ヲ處置スルヲ得ス是レ佛國ニ於ケル贖回ノ契約アル財産ニ於ケルト稍類似スル者ナリ

〔第三百十五條〕 何人ニ限ラス其權利ノ如何ヲ問ハス相當ノ償ヲ得タル上ニ非サレハ其財産所有ノ權ヲ奪ハルコト無カル可シ但數個ノ場合ニ於テハ議院ノ權威ニ因ルカ又ハ公益ノ爲メ之ヲ奪フコアルハ此限ニ在ラス佛國民法第五百四十五條

〔第三百十六條〕 動産及ヒ不動産ヲ所有スル者ハ左ニ記スル規則ニ從ヒ此財産ヨリ生スル物及ヒ附加物ニ因リ天然又ハ人工ニ於テ合同スル物ニ付キ皆之ヲ所有スルノ權アリ佛國民法第五百四十六條
○第一章 財産ヨリ生スル利益ニ付テノ權利

〔第三百十七條〕 佛國民法第五百四十七條ト同シ
〔第三百十八條〕 畜馴ノ獸類ノ子ハ其牝獸ノ所有者ニ屬ス可シ但鷺鳥ノ雄雛ニ限り其雄鷺ノ所有者ニ屬シ嶋雛ハ其嶋鷺ノ所有者ニ屬ス可シ

〔第三百十九條〕 英律ニ於テハ他人ノ物件ニ就キ其允許ヲ經ス勞力ヲ用ユル者ハ一切償ヲ求ムルノ權利ナシトスルヲ通則トス故ニ他人ノ田地ヲ耕耘シ又ハ培養スル者ハ純粹ノ惠恤上ヨリ成リタル者ト看做セリ佛國民法第五百四十八條ト異ナリ

〔第三百二十條〕 凡ソ人ノ善意ト惡意トヲ問ハス總テ他人ノ財産ヲ占

有スル者ハ其財産ヨリ生セル利益ヲ其真正ノ所有者ニ還與スルカ
 又ハ財産ノ價格ニ從ヒ其借料ヲ拂フ可シトス然レモ真正ノ所有者
 ハ亦毎歳ノ收獲ヲ取戻サントスルノ權理ハ七箇年ノ期限ヲ經過ス
 ルヲ以テ之ヲ失フ者トス又人ヨリ財産讓渡ヲ得シ證券ヲ認識スル
 ハ此財産ヲ讓受クル者ニアレハ假令ヒ其證券ノ不良ナルヲ知ラス
 ト雖モ此ノ如クシテ財産ヲ保有スル者ハ其財産ヨリ生スル利益ヲ
 己レカ所得ト爲スヲ得ス佛國民法第五百四十九條及
 第五百五十條ト異ナリ

○第二章 附加物ノ權

〔第三百二十一條〕 佛國民法第五百五十一條ト同シ

○第一款 不動産ニ關スル附加物ノ權

〔第三百二十二條〕 佛國民法第五百五十二條ト同シ

〔第三百二十三條〕 佛國民法第五百五十三條ト同シ

第三百二十四條 佛國民法第五百五十四條ト同シ

他人ノ地内ニ供用セル品物ノ所有者ハ其土地ヲ所有スル者ノ許諾
 ナクシテ此品物ヲ取除ク時ハ損害ノ償ヲ拂フコトアル可シ

〔第三百二十五條〕 土地ノ所有者ニ非サル者己レノ物件ヲ以テ他人ノ
 地内ニ植附、造營及ヒ土功ヲ爲シタル時ハ其事ノ商賣ヲ目的ト爲セ
 シ者ニ非サレハ此土地ノ所有者ハ償ヲ出スヲナクシテ此物件ヲ保
 有シ又ハ損失ノ償ト費用トヲ求メテ其物件ヲ取除クノ權アリ佛國
 民法

第五百五
 十五條

〔第三百二十六條〕 然レモ善意ナル占有者カ爲セシ修理ニ就テハ真正ノ
 所有者カ其修理ヲ爲スコトヲ了知シテ己レ所有者タルノ權理ヲ以テ
 其占有者ニ此修理ヲ差留メサリシ時ハ其占有者カ爲シタル費用ヲ
 還償セスシテ此修理ヲ己レカ所有トナスヲ得ス又詐詭ニ出テタル

占有者ニ對シテモ天然公平ノ道ニ從ヒ其修理ヨリ生セシ實價ヲ償還ス可シトス

〔第三百二十七條〕佛國民法第五百五十六條第五百五十七條及ヒ第五百五十八條ト同シ

〔第三百二十八條〕兩個ノ傍側ノ地間ニ流通スル河川ノ水速ニ漲流シテ其一方ノ傍側ノ地ヲ乾涸ニ至ラシメ其一部ヲ裁割シ他方ノ傍側ノ地ニ移去シタル時ハ其裁割ヲ受ケシ地ノ所有者ハ猶ホ其移去シタル地ヲ所有スルノ權アリ佛國民法第五百五十九條

〔第三百二十九條〕海中又ハ舟楫ノ通ス可キ河川中ニ生シタル嶋嶼發見地及ヒ漸積地ハ王家ニ屬ス可シ但數個ノ地方ノ現狀ニ於テ特例アルハ此限ニ在ラス佛國民法第五百六十條

〔第三百三十條〕佛國民法第五百六十一條及ヒ第五百六十二條ト同シ

〔第三百三十一條〕舟楫ノ通ス可キ河川其故道ヲ去テ新決ノ道ヲ造ル時ハ故道ノ地ハ王家ニ屬ス可シ佛國民法第五百六十三條ト異ナリ

〔第三百三十二條〕佛國民法第五百六十四條ト同シ

○第二款 動産ニ關スル附加物ノ權

〔第三百三十三條〕本件ニ就テハフランクトン氏ニ因リ羅馬法ヲ採用シ裁判所ノ數個ノ裁判言渡ニ因リ之ヲ確定セリ佛國民法第五百六十五條

〔第三百三十四條〕所有者ノ異ナレル二個ノ品物各所有者ノ許諾ニ因リ合同シアル時ハ各所有者ハ其己レニ屬スル部分ニ付キ之ヲ共通スルノ權アリ又二個ノ物品ニ就キ己レニ屬スル部分ヲ識別シ得サル時又ハ其物品ヲ分離シ得サル時及ヒ其所有者他一方ノ所有者ノ承諾ナク又ハ其知覺セサルニ於テ其物品ノ混合セシ時ハ英國法律ハ其所有權ヲ侵掠セラレタル此一方ノ所有者ニ其全部ヲ所有セシ

ムル者トフ然レモ其物品ノ明ニ分離シ得可キ者ナル時ハ所有者ハ各其部分ニ就キ所有權ヲ存有シ假令ヒ此一方ノ所有者一旦詭欺ニ涉リ其物品ヲ混合シタルモ亦此ノ如シ佛國民法第五百六條ト異ナリ

〔第三百三十五條〕

他人己レニ屬スル物品ヲ用ヒ之ヲ改造セシ時ト雖モ其物品ノ所有者之ヲ己レノ所有ト爲スニ妨ケ無カル可シ例之ハ人アリテ布ヲ繡織シ又ハ金屬ヲ器具ニ改造セシ時ノ如ク其改造物ニ就テノ所有權ハ尙ホ其主本タル物品ノ所有者ニ屬ス可シ然レモ「チリーフ」菓物ヲ食油ニ製造シ葡萄酒ヲ葡萄酒ニ製造セシ時ノ如ク其物品ノ性質ヲ變更セシ時ハ其主本タル物品ノ所有者只其物品ノ價ヲ求ムルノ權アルノミ佛國民法第五百七十一條ト異ナリ

〔第三百三十六條〕

佛國民法第五百七十二條ト同シ

第三百三十七條 一箇ノ物品ヲ數人共有スル時ハ各己レカ所有ニ屬スル部分ヲ賣却シ又ハ他一方ヲシテ其物品ヲ分割セシムルヲ得可シ佛國民法第五百七十五條及ヒ第八百十五條

〔第三百三十八條〕

佛國民法第五百七十七條ト同シ

○第一篇 畢世間ノ財産

〔第三百三十九條〕

佛語ニ所謂ル「エシユフルイ」ノ語ハ英國往時ノ成文法ニ用ヒラレシモ近世法律ニ行ハレズ然レモ此ノ如ク名クル所ノ權理ハ實際英國法律ニ在テモ佛蘭西法律ニ於ケルカ如キ諸般ノ功効ト共ニ存行セリ即チ他人ニ屬スル食邑又ハ業有ノ財産ニ就キ己レカ畢世間其入額ヲ所得ト爲スノ權ヲ有スルヲ得是レ此財産所有者ハ佛國ニ所謂ル財産虛有權アル者此入額所得ノ權ヲ有スル者ヲ畢世間ノ收獲者ト名ケ又食邑又ハ業有財産所有權ノ他人ニ回屬

スルヲ期トシ其財産ヨリ生スル入額所得ノ權ヲ有スル者ヲ定期間ノ收獲者ト名ケリ佛國民法第五百七十八條ト異ナリ

第三百四十條 畢世間ノ入額所得權ハ法律ニ據リ之ヲ規定セリ即チ寡婦ノ爲メ「デウエール」寡婦產ヲ定示セル場合ノ如ク寡婦ハ其先夫ノ遺留セル財産三分一ニ付キ入額ヲ所得スルノ權アリテ夫ハ其婦ノ死去セシ場合ニ於テハ先婦ノ遺留セル凡テ物權ニ關スル財産ニ付キ入額ヲ所得スルノ權アルカ如キ是ナリ又畢世間ノ入額所得權ハ契約生存贈遺遺囑贈遺ニ因リ之ヲ設定スルヲ得可シ又ハ特有ニ非サル食邑ヲ有スル者適子ナキカ故己レニ入額所得權ヲ存行スルヲ得サル時ノ如ク偶然ノ事ニ因リ之ヲ設定スルヲ得可シ佛國民法第五百七十九條ト異ナリ

第三百四十一條 佛國民法第五百八十條及ヒ第五百八十一條ト同シ

○第一款 畢世間ノ收獲者ノ權利

第三百四十二條 佛國民法第五百八十二條ト同シ

第三百四十三條 佛國民法第五百八十三條及ヒ第五百八十四條ト同シ

第三百四十四條 畢世間ノ入額所得權ノ開始セル時草木ノ枝根ニ附着セル天然ノ利益ハ此收獲者ニ屬ス可シ又其所得權ノ終リシ時ハ同上ノ利益ヲ食邑ノ所有者ニ屬スル者トス然レモ人工ヨリ生スル利益即チ「アンフラーフ」ト名クル者ハ收獲者ノ行爲不良ナルニ因ルニ非スシテ例之ハ其天然ノ死亡ニ因テ俄ニ所得權ノ畢リタル時ノ如キハ此收獲者ノ耕耘又ハ植附等ノ勞ニ報ヒ之ヲ此收獲者ニ屬スル者トス佛國民法第五百八十五條

第三百四十五條 年金及ヒ其元金ヨリ生スル利益ヲ所得ト爲ス者ハ

契約ニ因リ定メタル期限毎ニ之ヲ得ル者ト看做スト雖モ數多ノ議
院法ニ因リ其収獲權ノ終リニ至リ之カ支辨ヲ得可キ方法ヲ規定セ
リ佛國民法第五百八
十六條ト異ナリ

第三百四十六條 入額ヲ得可キ物件中耗盡ス可キ物アル時ハ直ニ之
ヲ賣拂ヒ又ハ之ヲ耗盡セサル物ニ變易ス可シ但シ収獲者ニ於テ此
物件ノ儘之ヲ使用ス可キノ契約アル時ハ格別ナリ然レモ使用スル
ニ因リ損敗ス可キ物品ハ甲者之ヲ使用シテ後更ニ乙者ニ之ヲ使用
セシムルヲ得サルカ故ニ最初ニ使用セル者ニ之ヲ屬ス可シ佛國民
法第五百八十七
條ト異ナリ

第三百四十七條 年金ヲ得可キ元金ニ付キ入額所得ノ權ヲ得タル者
ハ其權ノ己レニ屬スル期限内ハ其年金ヲ己レノ所得トナスノ權ア
リト雖モ此期限前ニ於ケル物ヲ所得ト爲スノ權無カル可シ佛國民
法第五百八十七
條ト異ナリ

八百八十
八條

第三百四十八條 動産書籍等ニ就キ入額所得ノ權ヲ有スル者ハ當然
ノ方法ニ於テ之ヲ使用スルヲ得可シ往昔ニ在テハ此ノ如キ収獲者
ハ己レカ死去後ニ至リ之ヲ返還ス可キ爲メ保證人ヲ立ツ可シト爲
シタリキ然レモ方今ニ在テハ「レヘルシナント」物品取戻シノ權ノ
理者ト云フ意權利ヲ承認スル爲メ只目錄ニ自署スルノ義務アルノミ佛國民法第
五百八十九
條

第三百四十九條 凡ソ収獲者ハ樹木ノ新樹ヲ損傷セサルニ於テハ相
當ノ時候ヲ計リ及ヒ伐採ノ分量ヲ定メ其小樹ヲ伐出スルヲ得又
商賣ノ爲メ栽培ヲ爲ス者ノ庭園又ハ培樹場ニ於ケル菓實ヲ有ス可
キ樹木ノ小樹ヲ己レニ得ントスルニ之ヲ移搬スルヲ得可シト雖
モ此他ノ場合ニ於テハ否ラス佛國民法第
五百九十條第
一四一

第三百五十條 畢世間ノ收穫者ハ多量ノ枯木アル時ハ他ノ生木ニ及
ホサ、ルニ於テハ温爐耕作造營藩籬等ノ爲メ必要ナル枯木ヲ伐採
スルヲ得可シ又同上ノ收穫者ハ生木ヲ害セサルニ於テハ尙ホ之ヲ
伐採スルヲ得モ爲シ得可シト雖モ裝飾ノ爲メ植ヘ附クル樹木ヲ伐
採スルヲ得ス佛國民法第五
百九十一條

第三百五十一條 前條ニ記スル場合ノ外收穫者ハ高聳ノ樹枝アル木
ヲ伐リ倒スヲ得ス但收穫者所有者ノ權理ヲ侵害スルヲ無クシテ
之ヲ伐リ倒スヲ得可キモ裝飾ニ供セシ樹木ハ之ヲ伐リ倒スヲ
得ス佛國民法第五
百九十二條ト異ナリ

第三百五十二條 收穫者ハ土地ノ習慣ニ從ヒ「ウーブロン」草ノ架ニ用
フ可キ樹木ヲ採收シ又ハ農作ニ特要ナル樹木ヲ伐採スルヲ得可
シ佛國民法第五
百九十三條

第三百五十三條 庭園若クハ野圃内ニ蕃殖スル菓實ノ樹木但培植場
ニ於ケル新樹ハ格別其他意外ノ事ニ因テ倒僞シ又ハ摧折セラレタ
ル樹木ハ土地ノ所有者ニ屬ス可シ但收穫者ハ此樹木ヲ所得ト爲ス
モ其所有者ノ權理ヲ侵害スルヲナキ時ハ此限ニ在ラス佛國民法第
五百九十四
條ト異
ナリ

第三百五十四條 收穫者ハ其入額ノ生ス可キ財産ヲ使用シ又ハ其權
理ノ已レニ屬スル定期間之ヲ他人ニ貸與スルヲ得又其權理ヲ他人
ニ賣拂ヒ或ハ之ヲ讓リ渡スヲ得可シ佛國民法第五
百九十五條

第三百五十五條 佛國民法第五百九十六條及ヒ第五百九十七條ト同
シ

第三百五十六條 收穫者ハ其權理ヲ得ルノ以前ニ在テ穿開シタル金
礦及ヒ石礦ヲ掘出スヲ得ルト雖モ新ニ金礦ヲ發見セン爲メ土地

ヲ開鑿スルハ此土地ヲ所有スル者ノ權理ヲ害スル者トス但シ古時
ノ礦脈ヲ再ヒ開鑿セン爲メ新ニ土地ヲ開鑿スルハ格別ナリ佛國民
法第五
百九十
八條

第三百五十七條 佛國民法第五百九十八條ト同シ但シ入額所得者又ハ
其執行人ハ其收獲權ノ終リニ至リ取除クコトヲ得可キ物件アルト否
トニ從ヒ英國民法第二百九十一條及ヒ第二百九十八條ノ原則ヲ適
用スルヲ異ニスルノミ

○第二款 收獲者ノ責務

第三百五十八條 收獲者ハ其入額ノ生ヌ可キ物件ヲ其現狀ノ儘ニテ
受取リ而シテ其物件不動産ニ關スル時ハ保有權ノ引渡シナク及ヒ
餘人ノ介入ナクモ直ニ其收獲ノ權ヲ得可シ然レモ其物件ノ動産ニ
關スル時ハ其目錄ヲ作製ス可シトス佛國民法第六
百條ト異ナリ

第三百五十九條 收獲者ハ入額ノ生ヌ可キ物件ヲ毀損セサル爲メ保

證ヲ立ツルニ及ハサルハ動産ニ於ケルト同一ナルトス然レモ物件
ノ所有者ハ己レカ權理ヲ害セラル、場合ニ於テハ此物件ヲ取戻サ
ントノ訴訟ヲ爲スコトヲ得可シ佛國民法第九百
一條ト異ナリ

第三百六十條 畢世間ノ入額ヲ得サシムル爲メ百ニ三ノ利息ニ於テ
國債ト爲シタル金額又ハ穀物賣拂ヒ代金及ヒ其代金ノ同上ノ方法
ニ於テ息貸セシ者及ヒ利息ハ畢世間ノ收獲者ニ屬ス可シ佛國民法
第六百二
條

第三百六十一條 收獲者ハ物件ヲ修理ス可シト謂フト雖モ使用スル
ニ因リ損敗ス可キ物件ニ付テハ之ヲ修理スルニ及ハスシテ凡ソ物
件ノ損敗ニ付キ修理ヲ爲ヌ可キハ收獲者ノ相續人カ負擔ナリト爲

シタリ佛國民法第
六百五
條

〔第三百六十二條〕 食邑ノ所有者及ヒ收獲者ハ皆意外ノ事ニ因テ損敗セシ物件ヲ修理スルニ及ハスト雖モ譬ヘハ歲月ヲ經タルニ因リ自カラ壞敗セントセシ建造物ノ崩潰ヲ豫防セシ爲メ之ヲ修理スルコトハ收獲者ノ負擔ス可キ者ノ如シ佛國民法第六百七條

〔第三百六十三條〕 佛國民法第六百八條ト同シ

〔第三百六十四條〕 入額所得者ハ其入額ノ生スル土地ニ付キ支辨ス可キ金員アルモ之ヲ出スニ及ハス若シ此不動産ニ關與セル性質アル負債ヲ辨濟シタル時ハ其金員ヲ拂ヒタルノ故ヲ以テ其財産ニ就キ其金員ヲ取還ス可キ權利アリトス佛國民法第六百九條

〔第三百六十五條〕 一般ニ遺囑ヲ爲ス者ノ特約ナキニ於テハ其者ヨリ人ニ年金ヲ贈遺トシテ與ヘシ時ハ遺物ノ入額ヲ贈遺トシテ得タル者ハ其年金ノ金額ヲ償フコトナク其儘此財産ヨリ畢世間ノ年金ヲ拂フ可キ者トス佛國民法第六百十條

〔第三百六十六條〕 遺囑者ノ財産中ニテ別段定メタル土地ノ入額所得權ヲ贈遺トシテ得タル者ハ此土地ヲ抵償ト爲シタル負債ヲ償フニ及ハス若シ此負債ヲ償フニ充分ナル他ノ遺物財産ナキ時ハ入額所得者及ヒ土地所有者ハ共ニ其辨償ヲ爲ス可キモ入額所得者ハ只其負債ヲ拂フニ必要ナル金額ノ利子ニ相當スル迄金高ヲ拂フノミトス佛國民法第六百十一條及ヒ第六百十二條

〔第三百六十七條〕 財産ノ入額所得權ヲ與ヘタル時間ニ他人此財産ヲ掠奪スルコトアルモ此財産所有者ハ之ヲ取還ス可キノ權利ヲ失ハサ佛國民法第六百十四條

〔第三百六十八條〕 佛國民法第六百十五條ト同シ

〔第三百六十九條〕 籠柵中ノ鳩兔及ヒ池中ノ魚類又ハ此類ノ魚鳥ニ付

キ入額ヲ所得ト爲ス者其權理ヲ得タル時ト同數ナル魚鳥ヲ還與セ
サル時ハ其所有者ニ損害ヲ加ヘタルノ訴訟ヲ受ク可シ但意外ノ事
ニ因リ其魚鳥ノ死ヲ致シタル時ハ此限ニ在ラス佛國民法第
六百十六條第

○第三款 入額所得權ノ終ル事

〔第三百七十條〕 佛國民法第六百十七條ト同シ

然レモ英律ニ於テハ入額所得ノ權理ヲ行ハサル事即チ他人其所得
權ヲ占有スルニ因リ所得者ハ其權理ヲ失フ可キ期限ヲ二十年間ト
爲シ佛國民法ニ於テハ之ヲ三十年ト爲ス期限ノ長短ヲ異ニスルノ

〔第三百七十一條〕 入額ヲ所得ト爲ス者ハ權限冒瀆又入額ノ生スル財

産ヲ毀壞シタル事及ヒ修理ヲ加ヘスシテ財産ヲ損敗セシメタル事
又ハ入額所得者ト所有者ノ間ニ於テ取結ヒタル約件ヲ履行セサル

事又ハ法律ニ據リ規定セル數個ノ場合即チ入額所得者ノ過失ニ因
リ其權ヲ失フ可シ

衡平裁判所ハ數個ノ場合ニ於テ入額所得ト爲ス者ノ債主ノ爲メ入
額所得者ニ其權理ヲ復有セシムルコトアリ佛國民法第
六百
十八條ト異ナリ

〔第三百七十二條〕 會社ニ土地入額所得權ヲ贈遺ト爲シタル者其期限

二十年ヲ超過スル時ハ其贈遺ノ効ナカル可シ但國王ノ許允ヲ經ル
カ又ハ慣例ニ因リ施行セラル、賑恤上ヨリ成リタル贈遺ハ此限ニ

在ラス佛國民法第
六百
十九條ト異ナリ

〔第三百七十三條〕 佛國民法第六百二十一條第六百二十二條及ヒ第六
百二十四條ト同シ

若シ建造物ノ火災又ハ暴風其他意外ノ事ニ因リ崩壞シタル時ハ其
建造物ノ入額ヲ所得ト爲ス者之ヲ再造スルニ非サルヨリハ其屋財

ヲ使用スルノ權無シトス

〇第二章 使用ノ權及ヒ住居ノ權

第三百七十四條 英國ニ於テハ佛蘭西法律ニ明示スル使用ノ權及ヒ住居ノ權人氏互相ノ間ニ取結ヒタル契約ニ因リ又ハ遺囑證書ニ因リ存行スト雖モ其權ヲ行フノ方法及ヒ其權限ハ專ラ之カ約定證書ニ關スル者トス但シ本件ニ付キ難事ノ生セシ場合ニ於テハ天然ノ條理ニ因リ裁判ヲ爲スハ格別ナリ尙ホ又英佛兩律ノ間ニ於テハ使用ノ文字上ニ差異アルヲ知ル可シ今其英國ニ於テ使用ノ文字ヲ不動産ニ就キ用ユル時ハ佛國ニ於ケル所有權ノ文字ト其意味ヲ同フスレハナリ佛國民法第三百六十六條及二百二十五條及二百六十六條ト異ナリ

〇第四篇 土地ノ義務ヲ得可キ權理及ヒ此類ノ權理

第三百七十五條 佛國法律ニ於テ土地ノ義務ヲ得可キ權理ト名ソル

モノハ英國法律ニ在リテ「モノト」所用權ニテ是レ無形物ニ就テノ權理ト左ニ記載スル此他ノ權理トテ合稱セシ者ナリ即チ第一箇場ノ權、牧畜ノ權、通行ノ權等第二寺院ニ於テ特ニ設置セル几脚ニ倚座スルノ權、他人ノ放棄ヒシ家屋又ハ期滿所得權ニ因リ其家屋占有セシニ就キ之ニ附從スル權第三寺院ノ有司ヲ撰舉スル權ニ包含スル首長ノ權第四「デキム」ノ權即チ野産ニ於テハ刈獲物又獸類ニ就テハ滋乳、綿毛、人工ニ於テハ手製ノ商品及ヒ漁獵等ノ如ク每歲生殖スル利益ノ十分一ヲ得ルノ權チ云フ此權ハ僧侶中ノ者ニ屬セシカ近時ノ制定法ニ因リ「デキム」ノ利益ヲ拂フ可キ者ノ財産ヨリ特別ノ年金ヲ得可シト改正シタリ第五官職ノ權之ヲ再言スレハ俸給ヲ受ク可キ某職務執行ノ權第六不動産ヨリ生スル利益ノ一部ト看做シタル入額ヲ得ルノ權是ナリ佛國民法第六百三十七條ト異ナリ

第三百七十六條 前條ノ諸權理ニ左ノ權理ヲ列記ス即チ貴族ノ稱號ニシテ特別ノ名譽待遇ヲ得ルノ權及ヒ某種ノ裁判所ニ於テ裁判ヲ受ケサルノ特權ナリ他ハ佛國民法第六百三條ト同シ

○第一章 土地ノ義務ヲ得可キ權理ノ種類

○第一款 水利ノ權

第三百七十七條 佛國民法第六百四十條ト同シ

然レモ高阜ノ地ヨリ流下スル水ヲ低下ノ地ニ受ケシムル權理ハ自

然ニ出ツル者ト看做シ高阜ノ土地所有者ノ有スル特權ヨリ成ル者

ト看做サス佛國民法第六百四十條ト異ナリ

第三百七十八條 佛國民法第六百四十一條及ヒ第六百四十二條ト同

シ但前條ニ就テ其佛國民法ノ精神ト異ナル所アルヲ知ル可シ己レノ土地内ニ水源ヲ所有スル者ハ之ヲ特有スルノ權無カル可クシテ

其之ヲ川ユルノ權ハ低下ノ土地所有者ヲシテ穩當ニ之ヲ川ユルヲ得ルノ權ニ因テ制限セラル、ナリ但人工ニ成リタル水流ニ就テハ此限ニ在ラス

第三百七十九條 水源ノ所有者ハ他人ニ必要ナル水ヲ給スル時ハ其

天然又ハ在來ノ水路ヲ變更スルヲ得ス但シ期滿得免ノ權ニ因リ其

水路ヲ變更シ得可キ權理アル時ハ格別ナリ佛國民法第六百四十三條ト異ナリ

第三百八十條 河流ノ傍側ニアル土地ヲ所有スル者ハ他ノ土地所有

者ヲ害セス其水ノ分量ヲ充分ニ貯ヘ置カシムル時ハ己レノ土地ヲ

潤ス可キ爲メ又ハ他ノ目的ヲ以テ其水ヲ用ユルノ權アリ

第三百八十一條 若シ水ヲ川ユル權ヲ有スル者等ノ間ニ於テ訴訟ノ

起ル時ハ裁判廳ハ嚴重ニ雙方ノ水ヲ用ユ可キノ權理ヲ保護ス可クシテ他ニ農業ニ就キテ資益アルニ關セス其モノ、約定セシ權理ヲ

失ハシム可キ行爲ヲナシタルトテ宥恕ス可カラス佛國民法第六百四十四條ト異ナリ

○第二款 繞圍

第三百八十二條 土地所有者ハ隣地ノ所有者ヲシテ相接シタル土地ニ繞圍ヲ造ラシムルヲ得サル可シトスルハ英律ノ原則ナリ若シ繞圍ヲ造ル事ニ付キ雙方懇信上協議ヲ遂ケ得サル時ハ之カ爲メ損害ヲ受ケタル者ハ他ノ一方ノ者ニ對シ曾テ協議ノ未熟又ハ他ノ原由ヲ以テ其損害ノ償ヲ得ント訴フルヲ得可シ然レモ數個ノ場合即チ詭詐ノアルカ又ハ數多ノ訟求者アルニ於テハ衡平裁判所ハ其繞圍ヲ造ラシム可キ爲メ官吏ヲ任命スルコトアリ佛國民法第六百四十六條ト異ナリ

此ハ佛國民法第六百四十七條ト同シ

第三百八十三條 二個ノ侯領地ニ於テ數人相互ニ用ユル地ニ獸類ヲ牧畜スルノ權アル者一個ノ侯領地内ニ土地ノ分割ヲ得テ之ニ繞圍ヲ造リタル時ハ他一個ノ侯領地内ニ於テ數人相互ニ用ユル地ニ獸類ヲ牧畜スルノ權ヲ得ント要求スルヲ得可シト雖モ分割ヲ得テ繞圍ヲ造リタル土地ノ侯領地内ニ於テハ其獸類ヲ牧畜スルノ權ヲ失フ可シ佛國民法第六百四十八條

○第三款 兩屬ノ牆壁及ヒ溝渠

第三百八十四條 牆壁ノ所有權ハ其牆壁ノ建造シタル土地ノ所有權ニ隨屬スル者トス若シ隣接ノ地ヲ分界スル牆壁ノ一部ハ甲者ノ所有地内ニ歸シ他ノ一部ハ乙者ノ所有地内ニ建造シタル時ハ此甲乙兩者ハ各其所有スル土地内ニ建築スル牆壁ノ所有者ナリ故ニ牆壁ノハ法律ノ一點ヨリ之ヲ視レハ兩個ノ牆壁ト看做ス可クシテ牆壁ノ

隣地ニ屬スル者ヲ損敗セシメサルニ於テハ其所有者ハ各己レニ屬
スル牆壁ノ部分ヲ頽敗ニ至ラシムルモ隣地ノ所有者ニ對シ一切ノ
責務ナシトス又隣地ノ所有者ニ屬スル牆壁己レニ屬スル部分ナク
シテ支持シ能ハサル時ト雖モ尙ホ己レニ屬スル部分ヲ廢棄スルヲ
得可シトス佛國民法第六百五十三條第六百五十
五條及ヒ第六百五十六條ト異ナリ

第三百八十五條 牆壁ノ建築セル土地其所有者ト隣地ノ所有者トノ
共有ニ係ル時ハ牆壁モ亦共有タル可シ而シテ其土地ニ分界セル牆
壁ヲ使用スルノ權ハ此土地ニ於ケルカ如ク雙方ニ屬スルノ憑據ト
爲スト雖モ之ニ反スル證據アル時譬ヘハ牆壁ノ所有者ハ特ニ此牆
壁ノ設置ヲ要セシ者ニ屬シ又ハ此者獨リ自カラ之ヲ建造セシ時ノ如
キハ此推測ヲ止ム可シ同上ノ證據ナキニ於テハ隣地ノ分界ヲ爲シ
クル牆壁ノ特有ニ歸スルヲ推定スルニハ專ラ土地ノ景狀ニ因ル

可シ而シテ佛國民法第六百五十四條ニ於テ許認セル雙方ノ所有ニ
屬スル分界ノ牆壁ニ非サルノ憑據ハ英國ニ在テモ等ク其牆壁ノ特
有ニ歸スル所有權アリト訴フル者ノ爲メニ指定スル者ノ如シ然レ
モ牆壁及ヒ藩籬ハ其定在スル土地ノ所有者ニ屬スルヲ以テ法律ノ
原則トハナシタリ佛國民法第六百五
十四條ト異ナリ

第三百八十六條 普通法ニ依レハ土地ノ所有者ハ隣地ノ所有者ヲシ
テ兩屬ノ牆壁ヲ改造セシムルノ權理ナシトス但シ其牆壁ノ建造セ
ル土地ヲ共用スル時ハ格別ナリ此場合ニ於テ牆壁又ハ溝渠ノ共用
ナル時ハ各他ノ一方ノ者ヲシテ之カ修理ヲ爲サシムルヲ得可シト
ス佛國民法第六百五十五條及
ヒ第六百五十六條ト異ナリ

第三百八十七條 牆壁ヲ共用スル者ハ他諸般ノ物件ヲ共用スル者ト
等ク相互ニ之ヲ使用スルヲ得可シ佛國民法第六
百五十七條第六

第三百八十八條 共用ノ牆壁ニ付テハ倫敦府下ニ在テマトロポリク
ンファイルチンクト名クル特別ノ法律ヲ設ケ專ラ牆壁ノ建造ヲ堅牢
ナラシメ及ヒ火災ヲ豫防シ及ヒ市中ノ承霈ヲ修繕セシムルノ方法
ヲ定メリ佛國民法第六百五十九條ヨリ第六百六十二條

第三百八十九條 佛國民法第六百六十六條ヨリ第六百六十八條ト同
シ

第三百九十條 相接シタル土地ヲ植籬及ヒ溝渠ヲ以テ二個ニ分界シ
タル時ハ此植籬ハ溝渠ノアラサル田地ニ屬スト爲ス者ノ如シ若シ
植籬ノ兩端ニ溝渠アル時ハ此植籬ノ所有權ハ證書ヲ以テ之ヲ證ス
可ントス佛國民法第六百七十條

第三百九十一條 隣地ノ樹枝己レカ所有スル土地内ニ侵入シタル時
ハ之ヲ伐採スルノ權アリ佛國民法第六百七十二條

第三百九十二條 二個ノ隣接セル土地ヲ分界スル植籬内ニ在ル樹木
ノ抵根雙方ノ土地ニ蕃殖スル時ハ此樹木ハ即チ雙方ノ土地所有者
ニ屬ス可シ佛國民法第六十七條

○第四款 二個ノ家屋ノ中間ニ造營ヲ爲シ得可キ距離

第三百九十三條 何人タルヲ問ハス隣人ニ妨害ヲ與ヘサルニ於テハ
己レカ所有地内ニ於テ隨意ニ或ル事ヲ爲スヲ得可シトスルハ普通
ノ法則ナリ但シ隣人土地ノ義務ヲ得可キ權理ヲ有スル時ハ格別ナ
リ故ニ土地ノ所有者隣地ヲ崩壞セシムル場合ニ於テハ己レカ土地
内ニ溝渠ヲ掘穿スルヲ得スト雖モ己レニ屬スル土地ヲ以テ隣地
ノ建造物ヲ支持スルニ及ハス若シ此建造物重量ニシテ隣地ヲ崩壞
セシムル時及ヒ溝渠ノ爲メ隣地ヲ崩壞セシムル時モ之カ損害ヲ償
フニ及ハス但シ隣地ノ所有者ヲシテ土地ヲ以テ舊時ヨリ此建造物

ヲ支持セシム可キ權理アル時ハ格別ナリ 佛國民法第六百七十四條

〔第三百九十四條〕 何人タルチ問ハス己レノ地内ニ於テ隣地ノ所有者
ヲ害ス可キ行爲ヲナスヲ得ス譬ヘハ隣家ニ近接シテ豚豕ヲ牧養シ
又ハ厩脂ヲ熬熟シ又ハ騒劇若クハ人身ニ害アル可キ商業ヲ爲スヲ
得ス但シ期滿免除ノ權ヲ得タル時ハ格別ナリ

〇第五款 望下ノ事及ヒ窓牖ヲ穿ツ事

〔第三百九十五條〕 佛國民法第六百七十六條ト同シ

隣人ノ承諾ヲ得スシテ兩屬ノ牆壁ニ窓牖ヲ穿テ或ハ隣家ヲ覘ヒ得
可キ場所ヲ取設クル時ハ鄰家ノ所有者ハ之ヲ遮閉スルニ止マリテ
之ヲ差留ムルノ權ナシ但シ二十個年來之ヲ開穿シタル者ハ格別ナ
リ

〔第三百九十六條〕 何人タルチ問ハス己レニ屬スル牆壁ニ就テハ隨意

ニ窓牖ヲ穿ツノ權アリテ假令ヒ其窓牖ノ隣家ニ近接スルコトアルモ
尙ホ然リ但隣地ノ所有者ハ此窓牖ノ二十個年來存在スル者ニ非ス
シテ之ヲ遮障スル爲メ己レカ地内ニ物ヲ建造スルコトヲ得可シ此場
合ニ於テハ此窓牖ヲ所有スル者ハ隣地ヨリ曦影及ヒ空氣ノ流通ヲ
得ン爲メ自由ノ行爲ヲナスノ權アリトス
窓牖アル家屋ノ壞崩シテ新ニ之ヲ建築スルニ其窓牖ノ員數廣狹及
ヒ位置ハ其舊家屋ニ於ケル者ト同一ニ出ルコト非サレハ之ヲ造ルコ
ト得ス

己レカ土地ニ於テ聳出セル造營ヲ爲シ以テ隣家ノ窓牖ヲ遮障スル
能ハサルカ故ニ特ニ隣人ヲシテ別所ニ新ナル窓牖ヲ穿タシム可キ
ノ契約ハ雙方ノ自署セシ有印ノ證書アルニ非サレハ其効ヲ生セサ
ル者トス此事ニ就テノ契約ハ賃貸契約ノ如ク期限ノ定メナキ時ハ

常ニ取消シ得可キ者トス但シ期滿所得ノ權ニ係ル時ハ格別ナリ
佛國民法第六百七十八條ト異ナリ

○第六款 承霑

〔第三百九十七條〕佛國民法第六百八十一條ト同シ

土地ノ所有者其隣家ニ屬スル軒端己レカ地内ニ侵出スル時ハ此レ
之ヲ取毀ツノ權アリ然レモ隣地ニ流出シタル承霑ノ權ハ期滿所得
ノ權ニ因リ之ヲ得ル者トス

○第七款 通行ノ權

〔第三百九十八條〕通行ノ權ハ土地所有者ノ特許又ハ期滿所得ノ權ニ
因リ之ヲ得ルノミ但通行ヲ必要トスル場合ニ於テハ此限ニ在ラス
他人ノ土地ニ環遶セラレタル土地ヲ所有スル者他人ノ土地ヲ通行
スルノ權ヲ得タル時ト雖モ其者ハ己レカ土地ニ行ク爲メノミニ此

通行權ヲ得タル者ト看做ス可シ此權ハ其通行ヲ必要ト爲サ、ルコ
至ル時ハ之ヲ失フ可シ佛國民法第六百八十二條ト異ナリ

〔第三百九十九條〕若シ官道ノ破壞セシ時ハ通行人ハ通行ノ必要ナル

ニ因リ其近隣ノ地内ヨリ徑路ヲ取り通行スルヲ得可シトス

○第八款 土地ノ義務ヲ得可キ權理ニ類同スル權理

〔第四百條〕土地ノ義務ヲ得可キ權理ヲ合同スル無形物ニ關スル數個
ノ權理アリ是レ土地ノ慣例ニ關シテ人民相互ノ契約ニ因リ生スル
權理ト同一ナル原則ニ於テ管知セラル者ニ非ス即チ寺院又ハ市場
ニ來往スル爲メ他人ノ地内ヲ通過スル居民ノ權理、漁網ヲ乾晒スル
爲メ之ヲ張布スル權理又ハ遺興ノ爲メ某地ニ遊戯若クハ踏舞ヲ爲
スノ權理等ノ如キ者はナリ佛國民法第六百五十一條

〔第四百一條〕舟艇ノ牽路及ヒ舊時舟楫ノ通ヌ可キ河川ノ沿岸ノ徑路

ハ普通法ヲ以テ之ヲ管知スルヲナシト雖モ期滿所得ノ權又ハ慣例ニ因リ之ヲ定ム可シ官道修理ニ關スル事件ハ制定法ヲ以テ之ヲ規定ス

○第二章 土地ノ義務ヲ得可キ權理及ヒ此他類同ノ權理ヲ定

ムル方法

〔第四百二條〕 無形物ニ付テノ諸權理ハ適式ノ證書即チ有印證書又ハ期滿

所得ノ權又ハ慣例ニ因リ之ヲ得可シ佛國民法第六百九十九條

〔第四百三條〕 起原ノ推知シ難キ舊時ヨリノ習慣ハ地方ニ關スルカ故

ニ期滿所得ノ權ト相異ナル者ニシテ唯一人ニ對スルノミニ非ハ尙

ホ衆聚ニ對シテ行ハル、者ナリ英律第四百條之ニ反シ期滿所得ノ

權ハ一個人又ハ其主關者又ハ其代理者ノミニ止マリ行ハル、者ナ

佛國民法第九十一條

〔第四百四條〕 慣例ハ或ル物ヲ得可キノ權理ヨリ生出セヌ即チ他人ノ

地内ニ就キ草類ヲ得ルカ如キ等ノ權理ヲ生出セシメスト雖モ之ニ

類似スル權理ハ期滿所得ノ權ニ因リ之ヲ得可シ佛國民法第九十一條

〔第四百五條〕 二個ノ相接シタル土地ヲ所有スル者其一個ノ土地ヨリ

他一個ノ土地ヘ通行スルノ權理又ハ其義務ヲ得可キ權理ハ其一個

ノ土地ヲ他人ニ賣却セシ時ハ繼續ス可キ者ニ非ス但シ之ニ反スル

明約アル時即チ此土地ニ附從セル權理ト共ニ之ヲ賣却ス云々ノ明

文ヲ掲ケアル時ハ格別ナリ佛國民法第六百九十四條ト異ナリ

〔第四百六條〕 往時ニ在テハ凡ソ慣例又ハ期滿所得ニ起因セル土地ノ

義務ヲ得可キ權理ハ其執行ノ端緒ヲ明示シ得ル時即チ此慣例ノ起

原ヲ推知シ得可キ時又ハ期滿所得ノ權ヲ生ス可カラサル事ヲ證明

スル時ハ排斥セラレタリキ然レモ近時ノ制定法ニ依レハ他人ノ地

内ニ於ケル牧畜ノ權ハ之ヲ執行セシ端緒ヲ明示スル時ハ三十個年ノ期限ニ於テ之ヲ失フ可シトシ又此端緒ヲ明示セサル時ハ六十個年ノ期限ニ於テ之ヲ失フ可シトス但シ之カ反對ヲ證明ス可キ書類アル時ハ格別ナリ

通行ノ權及ヒ此他土地ノ義務ヲ得可キ權理ハ二十年乃至四十年ノ期限ニ於テ之ヲ失フ可シトス但シ望下及ヒ窓牖ノ權ハ特ニ二十年ノ期限ヲ經タルニ因リ之ヲ失フ可シト雖モ之ニ反スル證書アル時ハ格別ナリ 佛國民法第六百九十條ト異ナリ

然レモ土地ノ義務ヲ得可キ權理ニ付テハ幼者及ヒ瘋癲者等ノ爲メ數個ノ特別法アリ

〔第四百七條〕 佛國民法第六百九十六條ト同シ

○第三章 土地ノ義務ヲ得ルノ方法

〔第四百八條〕 土地ノ義務ヲ得可キ權理使用權及ヒ無形物ニ於ケル諸般ノ權理ハ特許ノ證書又ハ習慣ニ因リ之ヲ規定ス可シ

他ハ佛國民法第六百九十七條ト同シ

〔第四百九條〕 佛國民法第六百九十八條ト同シ

英律ニ於テハ土地ノ義務ヲ得可キ權理ヲ有スル者ハ其土地ニ就キ必要ナル修理ヲ爲スニ及ハスト雖モ義務ヲ行フ可キ土地ヲ所有スル者ニ損害ヲ醸ス時ハ格別ナリ

〔第四百十條〕 佛國民法第七百條第七百一一條第一項及ヒ第七百二條ト

同シ

○第四章 土地ノ義務ノ終ル方法

〔第四百十一條〕 土地ノ義務ヲ得可キ權理及ヒ此他無形物ニ就テノ諸權理ハ證書又ハ書類ニ因リ之ヲ放棄セシ證アルニ於テ之ヲ失フ可